

市整会五十周年記念誌

市
整
会
誌

市

整

會

目次

| | | |
|--|---------------------|-----------|
| 巻頭言 | 市整会会長 西澤 徹 先生 | 4 |
| 祝辞 | | |
| 市整会50周年まことにおめでとうございます | | |
| 大阪公立大学大学院医学研究科整形外科学 教授 中村 博亮 教授 | | 5 |
| 半世紀の重みと軽やかさ | | |
| 市整会会長 西澤 徹 先生 | | 6 |
| 50周年おめでとうございます | | |
| 大阪公立大学大学院 医学研究科整形外科学教室同門会 会長 佐々木 健陽 先生 | | 8 |
| 祝辞 | | |
| 勤務医部会会長 大阪市立総合医療センター 日高 典昭 先生 | | 9 |
| 50年を顧みて | | |
| 大阪公立大学大学院 医学研究科整形外科学 准教授 星 学 先生 | | 10 |
| 市整会50周年誠におめでとうございます | | |
| 大阪公立大学大学院 医学研究科整形外科学 准教授 岡田 充弘 先生 | | 12 |
| 祝辞 | | |
| 大阪公立大学大学院医学研究科整形外科学 准教授 寺井 秀富 先生 | | 14 |
| I - 五十年を顧みて | | 15 |
| 市整会50周年によせて『発展と新生』 | 鳴嶋 真人 先生 | 16 |
| 市整会50周年を迎えるにあたり | 増田 博 先生 | 17 |
| 市整会50周年に寄せて | 宮内 晃 先生 | 18 |
| 50th Anniversary | 森川 献志漢 先生 | 20 |
| II - 座談会 | | 23 |
| 座談会 第1回目 R4.09.10(土) 於:浅井東迎 17:00~ | | 24 |
| 座談会 第2回目 R4.10.15(土) 於:浅井東迎 17:00~ | | 38 |
| III - 市整会五十周年 | | |
| 記念式典・祝賀会 創立 1972年 | | 45 |
| IV - 自由投稿 | | 69 |
| “旭日双光章を受賞して” | 整 生野区医師会会長 谷本 吉造 先生 | 70 |
| 開業25周年を迎えて | 吉田 研二郎 先生 | 73 |
| 勤務医から開業医になって22年 | 林 正樹 先生 | 76 |

| | | |
|---------------------------|-----------|----|
| 開業医の方が勤務医より長くなった私 | 鳴嶋 真人 先生 | 78 |
| お墓の引っ越し | 宮脇 裕二 先生 | 80 |
| 我が人生を振り返る | 斧出 安弘 先生 | 82 |
| NO LIFE NO BIKE | 天野 祐一 先生 | 85 |
| 平凡なトヨタの愛車遍歴 | 増田 博 先生 | 88 |
| 弥栄病院の思い出 | 長濱 信一 先生 | 89 |
| マイボート | 西澤 徹 先生 | 90 |
| 英語の論文を書いてみました | 大川 得太郎 先生 | 92 |
| COVID-19流行における近況～徒然なるままに～ | 宮口 正継 先生 | 94 |
| 馬 | 森川 献志漢 先生 | 97 |
| 市整会50周年にことよせて | 小竹 志郎 先生 | 99 |

V- 整形外科医！2代目となって 103

| | | |
|---------------|----------|-----|
| 父 | 伊藤 智康 先生 | 104 |
| 整形外科！2代目となって | 木下 裕介 先生 | 106 |
| 整形外科医 二代目となって | 榎本 誠 先生 | 108 |

VI- アンケート 109

| | | | | | |
|-------------|-----|-------------|-----|------------|-----|
| 奥田 好彦(S44) | 111 | 天野 祐一(S57) | 116 | 鱧永 浩(H7) | 121 |
| 許 国広(S44) | 111 | 増田 博(S57) | 116 | 宮口 正継(H7) | 121 |
| 吉田 研二郎(S51) | 112 | 古瀬 洋一(S60) | 117 | 森川 献志漢(H8) | 122 |
| 堀澤 欣弘(S54) | 112 | 大川 得太郎(S62) | 117 | 榎本 誠(H10) | 123 |
| 鳴嶋 真人(S54) | 113 | 竹中 稔幸(S62) | 118 | 水沢 慶一(H10) | 123 |
| 宮脇 裕二(S55) | 113 | 西澤 徹(S62) | 118 | 小竹 志郎(H11) | 124 |
| 秋野 一男(S56) | 114 | 伊藤 智康(S63) | 119 | | |
| 斧出 安弘(S56) | 114 | 日下 昌浩(H5) | 120 | | |
| 喜馬 秀樹(S56) | 115 | 荒木 良守(H6) | 120 | | |
| 長濱 信一(S59) | 115 | 木下 裕介(H7) | 121 | | |

VII- 市整会の歩み（年表） 125

VIII- 資料 137

| | | |
|-----|--------------------------------|-----|
| 資料1 | この5年間の市整会ゴルフコンペとスケルトンゴルフコンペの報告 | 138 |
| 資料2 | 市整会家族会写真(2013年から2019年) | 146 |
| 資料3 | 整形ソング | 152 |

巻頭言



巻頭言

市整会会長
西澤 徹

昭和47年、31名の先輩方によって結成された市整会は本年創立50周年を迎えることができました。

これも歴代会員の皆様のためゆめご努力に加え、医局、同門会のご支援ご協力の賜物と心より御礼申し上げます。

50周年のテーマは「世紀を超えて発展と新生」であります。

今日まで培われてきた市整会の実績と伝統文化を会員一同が確認し、さらに発展させ100周年への礎としたいと考えます。

市整会の魅力は世代を超えた一体感にあると思います。残念ながらこの5年間に市整会黎明期を支えた先生方が数名鬼籍に入られました。同時に御父上が会員という継承者も増えてまいりました。刻まれ続ける歴史を知るべく、今回はその2世会員にお集まりいただき、黎明発展期の市整会を子供の視線からどのように感じておられたのかを自由闊達にお話しいただきました。

また最近入会いただいた会員にお集まりいただき、開業へのいきさつ、将来の希望、人生設計などこれも忌憚のないご発言を頂戴いたしました。皆さんそれぞれが強い意志を持って開業されたことを知り感動しております。

ともに今後の市整会、開業医生活へのよき指針となると考えます。

また前回に続き会員アンケートを行いました。45周年記念誌と比較するのも一興かと存じませぬ。

令和元年12月に発生した中国武漢を源とする新型コロナウイルスの蔓延は私たちの人生を一変

させ、まだ日本はそれに打ち克つことができずにいます。噂されるコロナ増税、社会保障費の削減など社会・医療情勢はますます非常に厳しくなり、国力の低下が懸念されます。まさしく国難です。

しかしかような時にこそ、理想を掲げさらなる高みを目指すことが肝要であり、我々に課された義務と感じます。市整会は会員諸氏のお役に立てるよう、今後にも有意義な学術講演会を開催し、親睦を深める文化事業の開催、また職員家族安寧のための経常情報などを発信し続けてまいります。

この記念行事は森川献志漢先生を中心に、鳴嶋真人先生、秋野一男先生、馬野隆信先生、斧出安弘先生、木下裕介先生、伊藤智康先生はじめ、実行委員の先生方には言葉に尽くせぬほどお世話になりました。記念誌の原稿・アンケートの取りまとめやデジタル化には小竹志郎先生に多大なるご尽力をいただきました。新人水沢慶一先生、久保卓也先生の参加は明日への希望です。そして前会長天野祐一先生、同期の副会長竹中稔幸先生は心の支えでした。ここに心より感謝申し上げます。

皆様と50周年を祝えるのも、奥様はじめご家族の理解と協力あったればこそです。重ねてお礼申し上げます。

全員で慶びを分かち、そのご多幸とご発展を祈念し巻頭言といたします。

皆様誠におめでとうございます。

令和4年10月



市整会 50 周年まことに おめでとうございます

大阪公立大学大学院医学研究科整形外科学 教授

中村 博亮

市整会 50 周年まことにおめでとうございます。

ご存じのごとく、大学はこの四月に大阪公立大学として新たなスタートをきりました。スタート直前から種々問題が噴出し、現在に至っております。現在私は、病院長職務代理として病院運営に当たっておりますが、コロナ感染第 7 波を迎え、職員の出勤困難者の増加をうけて、多人数での会食を控えていただくように職員の皆様をお願いしております。ルールファーストであると皆様にお話している関係上、自身が会食に参加することは控えさせていただきました。市整会の先生方には平素大変お世話になっておりますのに、直接御礼を申し上げることができず、大変申し訳なく思っております。2020 年以来我々は未曾有のコロナ感染を経験してきました。我々は一般人としての行動・社会生活制限だけでなく、医療人としてもコロナと向き合う必要がありました。情報が錯綜する中、まさに手探りの状態で、管理運営を進めてきました。市整会会員の先生方におかれましてもかつて経験したことのないご苦労をされてきたことと拝察申し上げます。そのような状況下にありますとも、平素大阪公立大学整形外科教室に多大な貢献をいただいておりますこと感謝の念に堪えません。

整形外科教室は昭和 23 年に開講し、5 年前の 2017 年に開講 70 周年を迎えました。皆様のご協力をいただき記念式典を行わせていただきましたが、その節は市整会会員の先生方にも大変お世話になりましたこと、あらためて御礼申し上げます。市

整会は昭和 48 年に伊藤先生を会長として、発足されたと伺っております。市整会の活動が発足後 50 年間、半世紀の間、連綿と受け継がれてきたことは会員の先生方、役員の方のご尽力のたまものであるものと敬意を表します。

昨今、日本をとりまく経済・医療情勢は厳しくなってきました。これからは医師の働き方改革をはじめ、様々な変革に取り組む必要に迫られています。日本有数の同門会員数を誇るわが教室ですが、去年はワールドベストホスピタル整形外科部門にも選出されました。今後も日本を代表する整形外科としてますます発展していかなければなりません。昨今はあまり芳しくない話題でマスコミをにぎわしており、ちょっとしたピンチかもしれません。しかし、ピンチは常にチャンス到来期であるととらえ、近い将来芳しい話題で皆様のお目にとまるように努力したいと考えております。市整会の先生方の益々のご指導とご協力をお願いいたしますと同時に、市整会の益々のご発展をお祈りしております。これをもちまして私の祝辞とさせていただきます。



半世紀の重みと軽やかさ

市整会 会長

西澤 徹

会員の皆様、市整会創立50周年まことにおめでとうございます。

平素より会の運営にご協力いただき、心より感謝いたします。

昭和47年の創立以来、ほぼ3世代にわたる長きにわたり、営々と歴史と伝統を築かれてきた諸先輩に心より御礼申し上げます。一本芯の通ったまっすぐな道の上に私たちは立たせていただいております。会の創立以来45周年に至るまでの道のりは、45周年記念誌「45年を顧みて」のコーナーで天野祐一前会長が、鮮やかな筆致でまとめてくださっているので加えることはありません。(記念誌は市整会HP内「周年事業の記録」の「市整会45周年記念誌」でご覧になれます)

市整会は私にとり心の支えでした。ちょうど25年前、祝福を受けることもなく半ば失意の中で開業した私は、頼功先生に誘っていただき入会いたしました。会長だった長田明先生に「市整会は、年次の上下とか偉いとか関係ない。会員は皆平等、同じ開業医で苦勞して助け合う仲間なんや」とお声がけいただき、安らかな気持ちになり同時に奮い立つものを感じました。その後は研究会はもとより、幼かった子供たちを連れ家族会などにも参加し、市整会の真髓を味わってまいりました。

過ぎ行く歳月とともに少しずつ顔ぶれや雰囲気が変わるのは当然ですが、根底に流れるものは同じように思います。スピリットとでも言いましょうか。大河ドラマを思わせませう。

この5年間で、日本は大きく変わりました。

2019年5月令和の御代が始まりました。国を

挙げての祝賀ムードだったものが、よもやその7か月後から未曾有の厄災に国中が翻弄されることになるとは夢にも思いませんでした。

令和元年12月チャイナの武漢に新型コロナウイルスが発生しました。明けて1月の市整会新年会が、今までにない盛会だったのが夢のようです。その後は皆さまご経験の通りです。平穏な日常がすべて失われました。

ご自身が罹患したり、職員に陽性者がでて、日々の診療に非常な苦勞をされた会員はもとより、風評被害による来院患者の減少に閉院の危機を感じた会員も多いと思います。未だに医療機関の受診を躊躇う方も多く、学生諸君の来院も戻りません。職員の確保にも難渋する毎日です。

日本全体が変質しました。すべてが後ろ向きで縮小思考に陥りました。市整会もその影響を受けているように思います。私はコロナ禍の真っ最中に会長を拝命いたしました。コロナ前の市整会に少しでも近づけるべく努力してまいりました。

活動の根幹となる学術講演会も最初はWEB、続いてハイブリッド、そして通常の講演会開催に至ります。しかし残念ながら以前の熱気を帯びた講演会には程遠い状況です。

医師たるもの多くの統計などから冷静な眼でこのコロナを御する必要があると考えます。マスコミの報道に狼狽えることのない冷静さが求められます。ただ日本医師会に行政を糺す心意気が感じられないのがとても残念です。

50年にわたり営々と磨き上げた伝統も、引き継ぐ者がその大切さと重みを理解せず努力を怠れば、一瞬に

祝辞

して潰えます。歴史から学び生かすことで100年に向けて新たな伝統と文化を育むことができると確信します。

先の見えない闇にいるかのような毎日を打破するのは、情報を的確に涉猟し処理する能力です。眉間に皺を寄せ恐れ顔で過ごすのではなく、人々の一段上をいく軽やかな歩みを市整会一丸となって進めていこうではありませんか。

世界はものすごいスピードで変化しております。市整会を時代に合わせながら、かつ集団としての力を持続するには常日頃から直に顔を合わせ、コミュニケーションを密にする必要があります。市整会行事への積極的なご参加をお願いいたします。

幸い新しく入会された先生方にその萌芽を感じております。新旧の融合を果たせば盤石ではないでしょうか。

聡明な頭脳を持つ会員の集まりである市整会なら、きっと100年に向けて着実な歩みを進められると確信しております。

会の運営に会員の皆様のご参加ご協力をお願いする次第です。

令和4年10月





50周年おめでとうございます

大阪公立大学大学院医学研究科整形外科学 同門会 会長

佐々木 健陽 (昭和55年入局)

市整会50周年 誠におめでとうございます。
私が同門会長を務めさせて頂いている時に市整会50周年を迎える節目に当たり、非常に光栄に思います。この原稿を投稿するに当たり、天国の阪本先生 田嶋先生 川西先生から「ささき 同門会長か、偉なったなあ」と声が聞こえてきます。が、先生方には、もう少し待っていてほしかったです。

市整会は昭和47年設立準備会が発足したとあります。同門会が、昭和23年に発足し、その後諸先輩が開業され、開業された諸先輩が四半世紀を過ぎ、結束し市整会を立ち上げられました。市整会諸先輩により、同門会奨学基金を立ち上げていただき、今や同門会を支えてくださる誇らしく親のような素晴らしい組織です。重ねて諸先輩の思いに感謝します。

令和5年に、同門会は、「大阪公立大学大学院医学研究科整形外科学教室同門会」に名称変更します。さらに、同門会員数が600名を超え、社会に貢献でき社会的信用のある時代に則した「非営利型一般社団法人」と生まれ変わります。同門会運営が社会に認められ、さらなる発展と大学への貢献を目指します。

今後とも、同門会への御支援をよろしくお願ひします。

最後に、これまで市整会設立運営にかかわられた諸先輩、ご逝去された諸先輩にあらためて感謝します。



祝辞

勤務医部会会長 大阪市立総合医療センター

日高 典昭 (昭和 59 年入局)

市整会五十周年おめでとうございます。
「50年を顧みて」という深遠なテーマで執筆することは不可能ですが、私と市整会の先生方との繋がりについて述べたいと思います。

昭和 53 年 (1978 年) に大阪市立大学医学部に入学した私は、サッカー部に入部しました。サッカー部はその年の夏にスリランカ遠征がありましたので、壮行会や報告会など OB の先生方とお会いすることがよくありました。そこで、長田明先生や宝塚で開業されていた黒田実先生らと出会いました。もちろん市整会という名前は存じ上げませんでしたが、それが最初の接点ですので、44 年間にわたってお世話になってきたこととなります。

大学 4 年の時にサッカーではなくローラースケートで腓骨外果を骨折しましたが、私の実家の近くの金剛で開業されていた明石武彦先生にギブスを巻いてもらいました。よくモールディングされた、きれいな石膏ギブスでした。その縁もあって大学 6 年の時に明石先生に卒後の進路相談をしました。整形外科に進むことと、長田先生や明石先生がかつて勤務されていた大阪労災病院で研修することを勧められ、その通りの道を選びました。

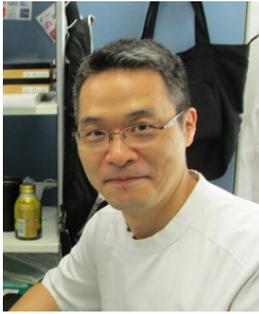
大阪労災病院では前野岳敏部長、頼功副部長のもと、充実した研修を行いました。卒後 3-4 年目は豊中市の阪神高速沿いにあった林病院に勤務しました。交通事故がまだまだ多かった頃で、連日、骨折手術に明け暮れました。1 年目は喜多喜将先生、2 年目は斧出安弘先生に手術の基本を丁寧に指導していただきました。また、週 1 回、吉田研二郎先生が来られていましたが、当時初来日を果たして人気絶頂だったホイットニー・ヒューストンのライブを聴

きに行かれた翌日の手術では、彼女の歌を口ずさみながら脛骨天蓋の粉碎骨折を見事に整復固定していく姿をみて、なんてカッコイイ整形外科医かと憧れた記憶があります。

林病院 2 年目の秋に、医局長だった楠正敬先生との面談がありました。私は海外への留学を希望しましたが、先生は「わざわざ海外にいかなくても国内にも立派な先生はたくさんいる。その一人が山野慶樹先生だ」と言われ、川崎医大への国内留学を勧められました。喜多先生も斧出先生も川崎医大のご出身だったので相談したところ、是非行ってこいと言われて決意しました。川崎医大で、山野先生から手外科とマイクロサージャリーの手ほどきを受け、それが私の整形外科医としての生涯にわたっての専門領域となりました。川崎医大の後には再び大阪労災病院にもどり、宮脇裕二先生から筋電図・電気生理学的検査の基礎をご指導いただいたことも私の大きな財産となっています。

このように私の人生の節目において、当時もしくは現在、市整会に在籍されている先生方から丁寧な指導と親身になったアドバイスをいただいたことに心から感謝しています。昨今、専門医を取得して間もなく開業する若手医師が増えています。勤務医としての将来に魅力がないことが主な理由のようですが、私が味わってきたような先輩の姿に憧れたり、先輩からの指導や助言を仰いだりする機会を逸することは、とても残念なことと思います。今後は、市整会の先生方と私たち勤務医会が連携しながら、若手整形外科医の適正なキャリアプラン形成に寄与できればと考えています。

市整会の今後の益々のご発展をお祈りしております。



50 年を顧みて

大阪公立大学大学院 医学研究科整形外科学 准教授

星 学 (平成 8 年入局)

市整会 50 周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。50 年前といえますと、ちょうど私が生まれた位の年齢になります。この頃から市整会がスタートしたと思うとその歴史の重みを感じます。私は 1996 年に福井医科大学（現福井大学）を卒業し、大阪市立大学整形外科に入会（入局）させていただきました。市整会理事の森川献志漢先生とは同期生です。26 年前の入局当時は、山野教授の時代で、入局テストでは確か、神経支配に関する記述問題と（勿論、回答できませんでした）、大久保先生（当時の助教授）の面接試験を受けました。大学時代の部活動は何をしていたのか？との質問があり、水泳ですと返答。では、平泳ぎのキックは何の筋肉を主に使うのか？との質問をしていた記憶があります。

入局後には、高見勝次先生（当時の医局長）が、勤務先の国立大阪病院（現在の大阪医療センター）整形外科への挨拶（阪大の助教授でした廣島和夫整形外科部長先生（当時は阪大と市大の共同派遣の時代でした））に付き添っていただけました。その際、市大から派遣されておられた尾原先生が白衣に裸足のサンダル状態で出てこられました。角刈りの尾原先生のいかつい体格の迫力に最初から圧倒されたことも懐かしい記憶です。最初の手術の手洗いの際には、手に墨を塗られ、“これが完全に落ちるまで、手術室には入るな”と厳しく指導されました。（今、こんな指導方法をする先生はいませんが・・・尾原先生、今ならパワハラです。）1 学年入局の先輩である安藤先生（1995 年）が病棟で非常にそつなく仕事をこなされており、阪大からの上司の先生からの信頼も厚く、常時 20 人超程度の患者さんを担当されていました。THA、TKA の作図の仕方を

何度も何度もお伺いしました。1 年目の研修医時代には、整形外科部長である廣島先生に月曜日の回診の後は常にマンツーマンで怒られ？（指導され？）しましたが、1 年下の、加藤相勲先生（1997 年）が研修に来られると、上司の先生方の怒りはそちらへと移動し、加藤先生には申し訳ないのですが、上司の先生方の怒りがそちらの避雷針が移動したことを心の中で、ほくそ笑んだものです。国立大阪病院では当時、阪大の骨軟部腫瘍グループから青木先生が骨軟部腫瘍治療をされており、研修医のうちから、抗癌剤治療のメニューを作成させていただきました。当時の白衣をメトトレキセートで真っ黄色、アドリアマイシンでは真っ赤にしながら溶解していました。国立大阪病院では当時、救急症例はなく、慢性疾患の治療のみで、病棟の肉腫患者さんと将棋をしたり、仕事後は、製薬会社の方に、ステーキや、すき焼き、寿司などを御馳走していただき、バブル期の最後の時代を謳歌させていただきました。病棟で患者さんたちと長野五輪での原田選手や舟木選手のスキージャンプをテレビで見た記憶も懐かしい思い出です。あの当時の羽振りのよく、呑気な時代に戻りたいと思う先生は私ばかりではないはずです。

3 年目には島田病院に異動しました。当時上野憲司先生が院長先生をされていました。国立大阪病院勤務時代には、ほぼ病棟業務ばかりに専念しており、手術を執刀した経験も無かったこともあり、ほぼマンツーマンの状態で骨折の手術の基本を指導していただきました。土曜日にも手術がありました。島田病院では指の骨折に対して K-wire による鋼線固定を数多く経験しました。指のガングリオン切除にはモスキートを使用することなど、骨軟部腫瘍切除の基本中の基本を指導していただきました。先日、上野先生がお亡くなりになったとお伺いした時には、大変お世話になった先生

であり、非常に大きな衝撃を受けました。

その後は、西村先生（当時の医局長）に大学院への進学を申し出たところ、生理学教室への進学を薦められました。電気生理学的な診断は私に肌に合わないと考え、それではと、病理学教室を紹介され進学しました。右も左も判らないまま進学したため、てっきり病理学は人体診断病理を思い込んでいたのですが、実際、私の進学先の第1病理（福島昭次教授）学教室の研究分野は環境発癌、遺伝毒性物質発癌リスク評価でした。大学院時代では、朝から晩まで、日々、マウスの餌に発癌物質（私の担当した発癌物質は肉の蛋白のお焦げ）を混ぜて、1年間にわたり給餌・給水し、毎週2回200匹相手に体重を計測し、最終的には解剖して大腸に癌ができていないのか？と検討する力業の仕事でした。結局、想定されていた大腸癌はできず、なんとか形にしなければ、とのことで、全ての臓器を標本にして論文作成をしました。博士論文は Carcinogenic potential of 2-animo-3-methylimidazo[4,5-f]quinoline (IQ) in severe combined immunodeficient (SCID) mice. という日本毒性病理学会（ややマイナー？すみません専門の先生方）の J Toxicol pathol という雑誌に投稿しました。今ではIFも一応ついているようですが、Pub Medには掲載されないことから、基礎の教室で研究した割には、やや寂しい思いもあります。大学院生の博士論文はやはり、特別な思い入れもあるので、Pub Medに掲載される論文に掲載される様になる方がよいと思います。

動物実験に疲れ、また、整形外科医師として、やはり手術経験が乏しいと当時は焦りもあり整形外科に戻ってきました。大学院修了時には、高岡先生が教授に就任されており、薦められるがまま、大阪府立成人病センター（現大阪国際癌センター）、次いで、癌研究会附属病院（現癌研有明病院）に国内留学させていただき、高見勝次先生が部長をされていた淀川キリスト教病院を経て、2006年4月に大阪市立大学整形外科に戻りました。大学病院勤務開始時には、鳴嶋先生が声をかけてくださり、講演会の演者として、御招待いただきました。今、その当時に講

演会資料を見返すと、何のメッセージもないスライドで、赤面するばかりです。よく、開業医の先生方が耐えて清聴してくださっていたものです。ありがとうございました。

中村博亮教授の時代になり、現在も大学勤務を継続し、16年経過しました。現在も大学の腫瘍グループで治療を担当させていただいております。大阪公立大学関連の腫瘍関連病院では、高見先生の阪和記念病院（2022年度から阪和住吉病院から新築移転しました。）、家口先生の府中病院、青野先生の大阪市立総合医療センター、嶋谷先生の済生会中津病院と腫瘍治療が可能な関連病院も確実に増やすことができているかと思えます。腫瘍の患者さんたちは、腫瘍担当医に早くアクセスできるようになっているのでしょうか？一度、直に市整会の先生方のお声も聞いてみたいです。市整会の先生方の実感はいかがでしょうか？

私が入局した平成そして今の、令和へと時代が移り変わり、コロナ時代が到来しました。まだまだ本邦ではコロナの影響を受けながら、ポストコロナ時代への移行には数年かかりそうです。この間にも、技術革新は目覚ましいものがあります。例えば、病院から呼び出しにも、ポケベルを持たされていた時代から飛躍的に進歩しています。1999年頃にi-modeを有したガラケーが出現しました。スマホに関しては2008年に日本に上陸して、まだ15年も経過していないのです。次世代は診療においてもVirtual Realityの時代となり、診察も、自宅で簡単に済む、ハプティクスを応用したOnline system診療になってしまうのかもしれませんが。AIも確実に診断・治療分野で医療に浸透していくことでしょう。60周年記念時にはどのような時代が到来しているのか？また我々は時代の流れにどのくらいついていけるのか？期待と不安が交錯しています。60周年記念のお祝いの際には、この技術革新には逆行して、On line宴会ではなく、気兼ねなくマスク無しのFace to Faceでのお祝いの会をしたいものです。大阪公立大学整形外科学教室が市整会の先生方、勤務医会の先生方と手を携えて更に60年、70年、100年と発展して行ければと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



市整会 50 周年誠に おめでとうございます

大阪公立大学大学院 医学研究科整形外科学 准教授

岡田 充弘

私が大阪市立大学（現大阪公立大学）整形外科学教室に入局したのは 1996 年であり、私と同年代の医師が出生した頃に市整会が立ち上げられたこととなります。この 50 年という長い年月において、物故会員を見送りながらもそれを継承されてきた会員の先生方のご尽力により市整会が運営されてきたことに、心から敬意を表します。

今回記念すべき年に寄稿の機会を賜り、大阪市立大学（現大阪公立大学）整形外科学教室の手外科・マイクロサージャリー班の現状を踏まえ報告をさせていただきます。

私が入局する以前の内容もあり、私より市整会の先生方のほうがよくご存じだと思いますが、当診療班の歴史を振り返ってみます。豊島泰先生が本邦で初めて手関節レベルの再接着に成功し、松田英雄先生の腕神経叢損傷に対する肋間神経移植術や、楠正敬先生の手根不安定症といった国内だけでなく国際的にも評価の高い臨床研究が行われていました。山野慶樹名誉教授は、ウルトラマイクロサージャリー（Φ 3/10~1/10mm の血管吻合技術）を用いた指尖切断再接着術はじめ、手外科・マイクロサージャリー以外の分野においても多数のご業績を残されました。現在も当診療班では、マイクロ手技は脈々を受け継がれており、診療班の多くの医師が切断指再接着術や血管柄付き組織移植術を行い、他施設では治療困難な症例に対してもチャレンジし良好な治療成績を得ています。

大阪市立大学（現大阪公立大学）整形外科学教

室の手外科・マイクロサージャリー班のルーツはもっと昔からあったのかもしれませんが、私がまだ研修医であった頃に頂いた「追想、水野祥太郎」を読むと、水野祥太郎初代教授が記された手指のデッサンが掲載されています。水野祥太郎教授が就任されたのが 1948 年ですので、戦後間もない時期に、このような緻密な手指の解剖が記されていることに驚愕を受けました。さらに、近代手外科の父である Sterling Bunnell の写真も「追想、水野祥太郎」に掲載されています。1950 年に水野祥太郎教授は、欧米に留学されているので、留学中に Sterling Bunnell を訪問されたのかもしれませんが、もしそうであれば、日本では新潟大学の田島達也教授や広島大学の津下健哉教授が日本における近代手外科のパイオニアとされていますが、私達の教室の初代教授である水野祥太郎先生が両教授の数歩前をいっていたこととなります。そうであれば、日本に近代手外科を導入した最初の医師ということになります。水野祥太郎教授から、豊島泰先生へと手外科が受け継がれ今日の手外科・マイクロサージャリー班が在ると考えると、とても感慨深く思います。これらは私の推測であり、市整会の先生方で詳しい経緯をご存じの先生がいらっしゃれば、ぜひ教えて頂ければと思います。

近年の当診療班の大学で勤務されていた先生方の経緯を記しますと、香月憲一先生（学園南クリニック）は、日本手外科学会の理事にも就任され、我々後輩への道筋を作って下さいました。日高典昭先生（大阪市立総合医療センター）は、我々後進の育成を行いながら、当医局の基幹病院の部長を勤めながら医局運営にも貢献されており、五穀寛之先生（大阪掖済会病院）は、

2018年の第45回日本マイクロサージャリー学会学術集会を開催され、日本マイクロサージャリー学会の会員の先生方にも非常に好評を頂き、成功裏に終わりました。高松聖仁先生(淀川キリスト教病院)は、本邦でも早くに人工神経の制作に携わり、国内外でも注目を浴びています。この寄稿で取り上げさせて頂いた先生は、当診療班ではほんの一部の先生方で、まだまだ多くの優秀な先生方がおられます。市整会の先生方においては、ぜひ周辺の病院で当診療班の医師が勤務していないかご確認して頂き、積極的に活用していただければと思います。

最後になりましたが、国内外で活躍された後にご開業され、市整会の一員としても当診療班を支援して下さる先生方もおられます。今後とも、市整会の先生方には益々のご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。





祝辞

大阪公立大学大学院医学研究科整形外科学 准教授

寺井 秀富

このたび市整会が50周年を迎えられましたこと、まことにおめでとうございます。今回、私は祝宴当日、中村教授の代理として祝辞を代読させていただきました。全員ではございませんでしたが皆様のお顔を直接拝見できたことは嬉しかったです。私も市大整形外科に入局して25年目になりました。入局した頃の頃、宮口正継先生と森川献志漢先生の元で整形外科のいろはを教わったことが昨日のこのようです。そのような両先輩も市整会ではまだまだ若手のようで、市整会の層の厚さを感じずにはおれません。長老格といえば私は石崎嘉昭先生に若い頃からお世話になっておりました。大学院の1年目だったと思いますが、奈良の沢井病院（故沢井康悦先生）のところに毎週お手伝いに行っており、なぜか時折石崎先生が夕食をご馳走してくださいました。今思えば奈良と法隆寺はそんなに近くはなかったのですが、いつも奈良駅周辺で食事をしながら昔の大学時代の話などを面白く聞かせていただきました。学生運動や脊椎グループの話など、当時の私には想像つかない話でしたがとても記憶に残っております。今でも石崎先生には大先輩として、一整形外科医としてお世話になっております。お世話になったといえ、お亡くなりになった上野憲司先生も忘れることが出来ません。やはり大学院生の頃、留学前に島田病院でいろいろ手術を教えてくださいました。その時に肩のブリストー法ができれば一人前だといわれたのですが、結局上野先生が開業される前にブリストー法をお披露目することは無く、私はいまだ上野先生の中では半人前のままだったかもしれません。先日、上野先生の娘さんが医局に見学に来られたの

で、ブリストー法ではないですが脊椎の手術を見てもらいました。整形外科を志すなら大阪公立大学以外はないと念を押しておきました（これは本気で思っております）。上野先生はスケルトンゴルフでも大いにお世話になり、市整会と大学医局員交流に尽力していただきました。これからも引き続きこの交流を大切にしていければと思っております。

今回の祝賀会では私が大学で一緒に働いていた飯田高広先生、渡辺享永先生、鳥飼大剛先生、久保卓也先生ら後輩たちも市整会の一員となって参加してくれていたことはたいへん嬉しかったです。開業しても市整会に入らない人がいると伺っておりますが、つながりのない世界で何を指すというのでしょうか？先生方もこのコロナ禍でいろいろなものの価値観を考えさせられたと思います。自由、お金、人とのつながり、、、様々な要素がありますが、喜びを分かち合える、一緒にお祝いできる仲間がいるということはかけがえのないものだといえるでしょう。

大阪公立大学医局も70周年の節目を超え、100周年に向けてますます躍進していかなければなりません。2022年に続き、2023年も整形外科部門でワールドベストホスピタルに選出されましたが、100周年まで続けるつもりで頑張っていきます。最後に市整会の皆様のますますの繁栄と御健勝を祈り本稿を締めさせていただきます。

2022年10月17日



I - 五十年を顧みて



市整会 50 周年によせて 『発展と新生』

鳴嶋 真人 (昭和 54 年入局)

市整会は 1972 年 11 月にわずか 31 名の発起人の先生で発足したそうです。『開業医は一国一城の主ではあるが、個人の力は知れたものでそれぞれの力を結集すれば大きな力となり何かがやれるのではないか。』と言うことで開業医会を作られたそうです。それが今年 50 周年を迎えることができたのは 50 年間多くの会員の先生方の協力と努力の賜物と考えます。

ここまで続けられた信念信条は何か？と考えるとそれは初期の先生方が作られた会則にある目的です。その目的は会員の資質向上、相互協調、親睦扶助です。これが根底に貫かれているからこそ 50 年と長きにわたり発展し続けて今や約 200 名 (現在 187 名) の会員を要した市整会になりました。

このような市整会は他の大学では全くその類を見ないものであり他大学の先生方や講演に来られる講師の先生方からも羨ましがられるほどの存在です。

これは我々の先輩が時代を先駆けて創立して頂いた市整会の誇りであり同門会にとっても大きな財産です。

私は現会長西澤徹、前会長天野裕祐一先生の前の元会長をさせていただき 40 周年の記念祝賀会を担当させていただきました。会員皆様のご協力ご指導のおかげで重責を果たせた事は深く会員皆様に感謝いたします。

第一の目的である資質向上は講演会です。

市整会講演会は必ず up-to-date な情報で、なおかつ明日の診療に役立つ内容の講演です。つまり開業医向けであるということです。

その次の目的である相互協調扶助です。

市整会には会員相互間のメーリングリストと綿密なネットワークが完成されています。つまり大学や関連病院の先生がある臨床症例や疾患を集めたいとな

ると、このネットワークを通じてその先生方に症例を提供できると考えています。

ゆえに大学や関連病院の臨床症例の裾野が広がったこととなります。つまり市整会会員各人が大学や関連病院と連絡を密にすることで基幹病院の臨床研究活動がスムーズにできるように貢献できると考えています。

ぜひ利用協力し相互扶助に繋げて頂きたいものです。

次に親睦扶助です。

これは家族会や記念祝賀会で多くの会員家族が参加していただけることで家族付き合いに発展します。また 50 年の歴史が物語るものは 2 世 3 世の先生方の誕生であります。まさにこれが新生でしょう！

またそこには継承と言う作業問題もあります。ここでも市整会の親睦扶助の精神を生かして発展できるものと考えています。

開業医は孤独です。一国一城の主として全ての職員と家族に対し最善の対処を心がけなければなりません。その責務があります。困った時その相談相手の仲間が市整会の仲間です。ぜひ新しい仲間と新しい市整会を作って邁進しましょう。

運営にあたっては、市整会の長い歴史を築かれた諸先輩の先生、会員各位に対しての『市整会会員の総意は何か？』を常に念頭に置いて執行部、スタッフ一同一致団結して運営していただくことを願っています。

今後とも会員皆様のご協力ご指導をよろしく願います。

あわせて皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。



市整会 50 周年を迎えるにあたり

増田 博 (昭和 57 年入局)

市整会が発足したのが 1972 年：昭和 47 年です。今年で 50 周年を迎えるにあたり思いつくままに書いてみます。50 年：半世紀 長いですね。結婚してから 50 年目で金婚式と言いますが、なかなか金婚式までご夫婦が健在で迎えることも少ないものだと思います。

私の年齢が 66 歳 医師になって 40 年、開業して 28 年なかなか 50 年には届きません。この 50 年の間に世の中はすっかり様変わりしました。50 年前の私は 16 歳 高校 1 年か 2 年でしょうか 山口百恵のファンだったので 彼女の出る歌番組をよく見ていました。確か僕より二つ下だったのでひょっとしたら お付き合いをして結婚と考えましたが、三浦友和に負けました。その時代は携帯電話とかなかったですから 彼女とかに連絡を取りたい時は 近くの公衆電話からです。もちろん 家には固定電話はありましたが、家の真ん中であってしゃべっていると家のみんなに聞かれてしまうので 家からはできませんでした。懐かしい思い出です。この時代のパソコンの普及率は少なかったのですが、大学に入学して病理学の大学院に在籍していた時に買いました。先輩の茶ノ木先生、桑原先生、同期の酒井先生と一緒にパソコンを大学の生協を通じて買いましたが、プリンターは別で 100 万円くらい支払った記憶があります。とても高かったです。

開業してしばらくして市整会に入会させていただきましたが、市整会と深くかかわるようになったのは榎本会長の時代だったと思います。広報委員会に所属することになり、前野委員長の元 市整会会報作りをしました。年に数回、夜の 9 時ごろ阿倍野に集まって ワイワイガヤガヤと題材を集めたり、担当を決めたり、楽しく会報作りをしていました。

その後、南平会長の時代には総務を担当させていただきました。その当時はいろいろな案内をもっぱらファックスを使って行っていました。今は パソコンメールがありますが、その当時はパソコンを使う

人は ほとんどいなくて いろいろな案内の原稿もパソコンで打ち出した後、南平会長にファックスで送り、添削をしてもらった後、改めて会員の先生方に直接送付 もしくはファックスで送っていました。この時 診療所マップの作製も担当しました。各先生に診療所の情報を郵送で送っていただき、それを整理して まとめて マップを作るのですが、なかなかうまくいかず 家内に手伝ってもらって、やっと完成させたことが懐かしい思い出です。その後 頼会長の時代も総務担当をしていましたが、地区医師会の仕事にもかかわることになり、総務の仕事を斧出先生に代わっていただくことになりました。鳴嶋会長の時代からは 学術を担当することになり、天野会長 西澤会長の時代も学術担当を続けています。いかに集客できる人を講師として呼ぶことができるかと いつも考えていました。文化講演会では 国立天文台副館長 渡部潤一先生に「宇宙の話」をしていただき 筑波大学 山海先生に「ロボットスーツの話」、JAXA の先生に「国際宇宙ステーション希望での話」、「魚も学習することができる」を市大理学部幸田正典先生「卵の話」を京都女子大の八田一先生に講演してもらいました。また、ある年の 6 月の学術講演会では 筋膜リリースと 交通事故関係の話をしていただいたときは その時代の話題になっている内容だったので、会場に人があふれるほどになりました。市整会で このようにいろいろな経験をさせていただきました。最近 は コロナの影響で 学術講演会が中止になったり、WEBでの開催となったりして残念でしたが、今後また多くの先生方が参加できる会になればいいなと思っています。市整会 若い先生が なかなか参加してくれません。私もよい年になってきたので、これからは若い世代にバトンタッチして お金は出すけど 口は出さないようにしていきたいと思っています。



市整会 50 周年に寄せて

宮内 晃 (昭和 60 年入局)

50 周年おめでとうございます。

ひと言で 50 年と言いますが、とてつもなく長い年月です。1972 年と言いますと・・・札幌オリンピックで日の丸飛行隊が表彰台を独占し、ミュンヘンオリンピックでは男子バレーボールが金メダルを獲得しました。政治分野では沖縄返還や中国との国交、世間では上野動物園にパンダが来たことが大ニュースとなりました。何より鮮烈に覚えているのは鉄球が浅間山山荘を破壊している映像です。その後の一連の日本赤軍の事件は衝撃でした。

50 年前わたくしはまだ小学生でした。なぜ教室にテレビがあったのかは覚えておりませんが、担任の先生が「今日はせっかくだから札幌オリンピックを見よう」と授業をほったらかして皆で小さなテレビにかじりついて観戦しました。現代では考えがたい優雅な時代でした。

当時のニュースを振り返ると、とんでもない年月が経過していることをあらためて実感します。私の父親、宮内貴は、市整会の立ち上げになんらかの関係を持っていたと思います。しかしながら、小学生であった私には全く記憶の断片すらありません。きっと会合だったので、土曜日曜はよく出かけるなあ、家に居ないなあ、という印象でした。テレビで見聞きした事柄は少なからず記憶にあるにも拘わらず、です。

市整会 50 周年にあたり、西澤会長はそのテーマとして「世紀を超えて発展と新生」と掲げられました。私達の組織は立派に半世紀を迎えたわけですから、ヒトで言えばそろそろオッサンとなり、立派な中年、脂ののりきった年頃を迎えた訳です。これから更に組織として充実、発展していくことが期待され、その時節らしい相応しいテーマだと思います。そして、西澤会長によって、確実に 100 年の扉が開かれたのです。

50 周年準備委員会での議論で、「2 世の先生」云々

とキーワードがしばしば挙がりました。紛れもなくわたくしはその 2 世にあたる訳ですが、「2 世」→「にせい」→「偽」→「偽の先生」→「偽医者」・・・何とも耳障りな響きではあったものの、まあ 2 世とはそんなものの、と納得もしたのです。創業者はよかったけれども、二代目で傾き、三代目で潰れ・・・昔からよく言ったもので、我が診療所は随分と傾いてきているように思えます。あの世でどのように先代は感じていることやら・・・。

残念ながら、わたくしは、そして現会員の多くの先生方も、間違いなく市整会 100 周年に参加できません。現在小学生から中学生ぐらいの年代の人が 100 周年を盛大に司ってくれることでしょうか。2 世どころか 3 世、4 世の先生方が居られることでしょうか。どのような市整会になっていることやら、楽しみであります。この 50 年、街の様々な様相、我々の身の回りの環境、随分と変化しました。

公衆電話は何処に行った、フィルムを充填する写真機はどうなった、町の本屋も文房具屋も見かけなくなった・・・。かつて、我が家の少し南、大和川を渡ったところに、ダイセルの大きな工場や富士フィルムの大きなビルがありましたが、いつの間にかそれらは形を消し、今や、イオンの巨大施設や巨大なパチンコ屋へと化しています。

50 年後、新聞という紙媒体はあるのか、テレビは存在しているのか、日本円は健在か、日本人は日本語を喋っているのか・・・。空恐ろしい気がいたします。平家物語に言うよう、栄枯盛衰は世の常、盛者必衰の理です。また、お経にも「生ずるものは必ず滅し、無量というも必ず終わりあり。盛んなるものにも衰えあり。会うものにも別離あり。人に死のあるごとく万有に常住のものはなし」と説かれます。如何なるものもいずれは消滅するのが法則です。

創業何百年の老舗とか言うけれども、昔ながらの事業形態を維持している企業やお店があるのでしょうか。

名前も事業もその時その時代に応じて変遷、機敏に反応して現在に生き延びているのではないのでしょうか。「強い者が生き残るのではなく、賢い者が生き延びるのでもない。生き残ることができるのは変化に対応できる者である」とダーウィンは述べたそうです（そんなことを彼は種の起源の中でひと言も触れていないとの説もある）。

ならば、市整会は機敏性を持ってさえいけば安泰か？不滅か？なかなか一筋縄では行きますまい。「ンの法則」なるものをご存じでしょうか。テレビの長寿番組のタイトルは、「ン」で終わるものが多いそうです。ウルトラマン、笑点、サザエさん ニュースステーション……。そういえば、私たちが普段使っている薬も、ロキソニン、ボルタレン、セルシン、アムロジン、など昔ながらのオーソドックスな薬剤も、「ン」で終わっているような気がします。公立大学化したことから、早晚、市整会の名称も変更せざるを得ないでしょうが、その折には、このジンクスにあやかり、験をかついで、「ン」で終わる名称を考えて、少しでも組織が長続きするように……。

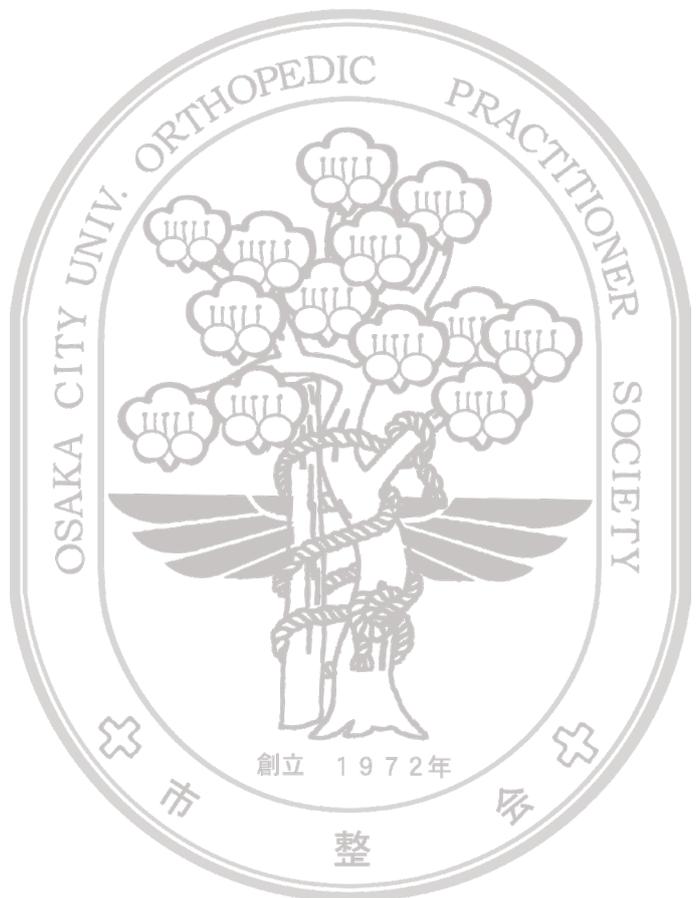
ともあれ、50年後に健全で活気ある、伝統的な市整会になっていることを願います。

そのための秘訣は？

ジョブズさんの名演説に「Stay hungry, stay foolish」とありました。食欲に謙虚に学び続けろ、と言い換えることもできそうです。これらに通底していることは、お釈迦様のご説法の一貫したメッセージ「怠らずに励め」と一致していそうです。

市整会会員に求められているのは、医学的な学びはもとより、経営のこと、政治経済的なこと、遊びのこと、世間の一般常識を含め、全ての分野の知識、智慧でしょう。私も市整会会員である限り、学び続け、励み続けることを茲に誓いたいと思います。

この継続こそが、市整会を不滅のものとし、SDGすなわち持続かつ発展する組織とせしめる唯一の道であると感じます。後の会員先生方にとって、なにがしかのメッセージとなっていれば幸いです。





50th Anniversary

森川 献志漢 (平成8年入局)

第10代西澤会長が就任された当初より、50周年式典の事は常におっしゃられており、コロナの蔓延もありましたが、『何が何でも開催し、盛会にしたい』との会長の思いがあり、開催にこぎつける事が出来ました。その間、準備委員会が計5回開催され、その間のメールでのやり取りも延べ450通を超えるものとなり、コロナの蔓延で祝賀会は諦めても式典だけは開催しようと、色々な模索が有りました。

そのような中、ちょうど第7波が鎮静化して来た時期に開催出来て、どうなる事かと準備委員会の先生方と悩んだことも後々には良い思い出となると思われます。

今回の記念行事では、前回の準備の際の資料が有り、スムーズに準備する事が出来ましたが、出来るだけ多くの先生方に喜んでいただけるようにアップデートすべく準備委員会の先生方の活躍が有りました。

そんな中、50周年という大切な節目に記念行事を担当させて頂き、皆様の満足が得られたかどうかはわかりませんが、無事に式典が終了し『ホッ』として、この原稿を書かせて頂いております。

50周年のテーマである「世紀を超えて発展と新生」として、諸先輩方とこれからの若手の先生方とを紡いでいく次の100周年に向けての記念式典でしたが、直近の新入会の先生方との座談会(9月17日)を企画し、若い先生方の意見を聞いたことは自分が若返ったかのようなフレッシュな気持ちを蘇らせて頂きました。

又、式典以降(10月15日)にお父様の医院を継承された2世の先生方との座談会も開催いたしました。

そこでは、西澤会長から10月2日の式典ではテンパッていたので最中は解らなかつたが、皆様がにこやかに帰られる姿で、盛会だったと確信された事などの挨拶と2世の先生方との活発な会話を楽しみに行っているといったコメント始まりました。そして

継承された2世の先生方からとして、柴田先生からは、市整会創世記の思い出と共にお父様の事等を語って下さり、妻鹿先生からは、御自身が脳梗塞で倒られたことや、医者を目指す前は核融合を勉強したかったことや、内科・整形・皮膚科の標榜で有床診療所から無床に変えた事の苦労等、そして飲酒をよくされていた父親は、飲んで次の日の外来の為に備えて早く寝ていたなど御家族にしか解らないエピソード、市整会では幼い時に林先生と一緒に山代温泉に行った事等を懐かしく語って下さいました。

伊藤先生からは、医師になった際の駅看板(副院長の名で知らぬ間に看板に挙がっていた)で母親が喜んでくれていた事を何気にも知ったことや、40歳の時にお母様から電話があり、お父様がロータリークラブの会長になり忙しくなるので自院を継承されたことや、開業後はお父様との診療形態の違いから2診制にして別々に診療していた事等の苦労を継承に至る成功体験として教えて下さいました。

また、式典(10月2日)では大阪リッツカールトンにて、本会場の隣室でのウェルカムドリンクのご用意で式典前からコロナで巣ごもりであった事もあり話が弾み、17:30～市整会50周年記念式典が開催されました。

まず、会長挨拶で市整会会長 西澤徹先生からは、10月だとゆうのに暑い中、ご列席頂き有り難うございますと言った挨拶で始まり、当初、市整会が31名の先生方より発足し、学術を向上させる為の学術講演会を始め、今では他大学より羨ましがられる会になったことなどの紹介が有りました。滅私奉公、粉骨砕身等のお話も頂きました。

来賓挨拶で、大阪公立大学大学院医学研究科整形外科学 教授 中村博亮先生の代読では、教授が10月1日(式典前日)に病院長に就任された事のご報告の後に、祝辞を寺井秀富准教授が代読してくれるなど、コロナ禍ならではの光景でありました。

同門会会長 佐々木健陽先生からは、50周年という節目に挨拶させて頂く事のお礼や、同門会として奨学金基金などに感謝を述べて下さいました。また2022年8月31日に行われた理事会にて公立大学への名称変更に伴い、600名を超える同門会であり法人化の方向で進んでいる事等のご報告を頂きました。勤務医会会長 日高典昭先生からは、コロナの沈静化に伴い、やっと通常診療に戻ってきたことの近況報告と、今後の展望として若手の先生方の開業が進んでおり、市整会との協力のもとに若手の先生方の為の進路を踏まえたセミナーの開催を考えているなどのビジョンを示して下さいました。

功労者表彰での天野祐一先生からは金屏風にダイブされるなどのハプニングの中、大学や同門会の会長に支えて頂いた事や、西澤現会長を選んだことが最大の仕事であった等、いつもの様に雄弁で楽しいエピソードで有りました。

特別功労者は、サプライズでの表彰式でしたが、西澤会長が花束贈呈の際に感極まったシーンがあった事も忘れられませんし、斧出安弘先生からは本年23年目開業で、当初は南平克積会長に市整会に勧誘され、阪本邦雄先生に総務に誘われ、その後9年間大役をなさった事、近況では2022年4月に胃全摘され、新しい命を貰った気持ちで市整会を今後は楽しみたいなどの御言葉を頂きました。

宮脇裕二先生からは17年目の開業で頼会長から誘われ、現在も広報として会報に携わって下さり、スピーチの最後には「記事を書いて下さい！」等の現役で活躍させて頂いている先生らしい締めくくりでありました。

柳井尚浩先生からは、24年目の開業で、H18年から頼功会長・増田博先生に勧誘され、断れない気迫におされ会計を担当したが、それまでは年会費3万円が多いと感じていたが、色々な市整会行事に参加するようになり元を取ったと感じられた事等、市整会の行事の素晴らしさを語って下さいました。

長濱信一先生からは2012年からゴルフを含め福利厚生の仕事のエピソードなどを頂きました。

尚、感謝状・花束贈呈では大川得太郎先生の娘様の、明美様と愛美様にお手伝いを頂きました。

また、増田博副会長の式典閉会の挨拶では、西澤会長がコロナ禍であるが、『是非50周年は開催したい！』との言葉で開催にこぎつけたエピソードの紹介があり、その後、本来では式典が閉会し祝宴に移るところ、サプライズで僕自身が西澤会長から壇

上で花束を頂戴した事は、隠しきれたかどうか解かりませんが、涙チョチョギレそうでした。

式典後祝宴が始まり、まず竹中稔幸副会長からは、今回のサブタイトル『世紀を超えて発展と新生』を交え、今回6名の小さいお子様が参加され、次の50年後はそれ以上の子供が増えているのでは？や、女性の先生方も増えているのでは？はたまた100周年記念では4世の世代の先生方も参加されているのでは？と未来の展望を語って下さいました。

乾杯の挨拶では石崎嘉昭先生から、昭和50年に入局され、庶務・議長・副会長をされ、伊藤成幸先生が17年間会長をされた事のこれまでの事や、この50年での大きい出来事として1) 少子高齢化 2) 気候変動 3) コロナのパンデミック 4) ウクライナへのロシア侵攻などの私見を述べて下さいました。

また、次の世代に紡いでいく意味でも、継承された2世の先生方と、直近5年間での新入会の先生方からコメントを頂いたのですが、2世の先生からは柴田和弥先生から、スライドショーの写真と共にコメントを頂いたり伊藤智康先生からは、8歳の際に市整会が発足され当時の記憶はないが、『現在は会計の仕事をしており微力ながら頑張りたい！！』などの御言葉を頂きました。

木下裕介先生からは、5年前にお父様を亡くされ、胸部大動脈瘤破裂で呼吸困難な中、お父様との会話などを救急搬送時も含め語って下さいました。

そして、直近の新入会の先生から恵木丈先生からは、2021年開業でビル街での開業で人通りが少ない中、軌道に乗ってきたこと。

梶史明先生からは、2021年5月開業で、頑張っておられることや水沢慶一先生からは、50歳で2020年5月の開業で、コロナ第1波最中での開業の苦労などを述べられました。

鳥飼大剛先生からは、専門医をとってすぐでの開業だといった事や、渡辺享永先生からは、奥様（乳腺外科）との一緒の開業で、コロナの終息と共に、患者数の増員の希望を述べられました。

久保卓也先生からは、手術も好きだったが、手術にならない人を増やしたい思いで開業したこと。

曾我部祐輔先生からは、入会届がまだ届いてない中での参加でしたが、近隣の市整会の先生から商売敵と思われがちだが、アドバイスを頂いた事の喜びを語って下さいました。

また、歴代会長・副会長のコメントとして8代目

会長鳴嶋真人先生から。市大 70 周年記念式典の思い出や、『発展と新生』と言う事では不安一杯だったが、天野祐一先生・西澤徹先生が頑張っておっしゃっていることを教えて下さいました。

黒田晃司先生からは、南平克積先生・長田明先生・小松堅吾先生らと共に、市整会を盛り上げてくれたことや、リハビリ通減制の際に長田先生の活躍された事などを紹介されました。

景品ゲームでは、従来はビンゴゲームだったのですが、コロナで密を避ける意味合いでも、ジャンケン大会となりましたが、流石の秋野一男先生・天野祐一先生・久保卓也先生の軽快な進行で、豪華な景品と共に盛り上がりを見せました。(小さなお子様には、ハロウィンのお土産をお渡ししました。)

アトラクションでは高橋リエさんの J a z z を楽しませて頂いたのですが、コロナ禍でこれまで自粛で開催出来ていませんでしたが、久しぶりの生の演奏と歌声でさらに高揚感が拍手と共に感じられました。山本リンダの『どうにも止まらない』なども、J a z z だけでなく披露もして下さい、アンコールも巻き起こりました。

馬野隆信副会長の祝宴閉会の挨拶では、『有り難う』の反対語は『当たり前』である事を教えて下さり、この 50 周年は当たり前でしょうか? といった問いかけの後、感謝を述べられました。また、記念品の【爪ニッパー】の紹介もありました。

その後、『整形ソング』の合唱で盛り上がり、一度やってみたかったとの西澤会長の『1・2・3 ダアー!!!』(アントニオ猪木さん)は会場を一体化した瞬間でもありました。

その後、ご家族様を含め全員で記念撮影し、その後には帰路につきました。

当日、急な熱発などの体調不良で来られなかった先生もおられますが、参加者 94 名(内会員 51 名)の盛会でありました!
有り難うございました!!

準備委員会の面々(総勢 18 名)

西澤徹 増田博 馬野隆信 竹中稔幸 鳴嶋真人
宮脇裕二 秋野一男 斧出安弘 天野祐一 宮内晃
大川得太郎 伊藤智康 森田光明 木下裕介 森川献志漢 水沢慶一 小竹志郎 久保 卓也





II - 座談会

座談会開催に当たり

今回は、座談会を2回開催しております。
50周年のテーマは「世紀を超えて発展と新生」であり、これまでの50年とこれからの50年を紡いでいく意味で、市整会の創世記の方々との座談会は45周年記念誌を見て頂きたく、今回は新入会の先生方と、継承された2世の先生方との座談会を開催しました。

座談会 第1回目

R4.9.10(土) 於：浅井東迎 17:00～

参加者(敬称略): 西澤 徹、増田 博、馬野 隆信、鳴嶋 真人、天野 祐一、伊藤 智康、小竹 志郎、森川 献志漢、椿史明、水沢慶一、前野 考史、渡辺 享永

西澤会長：

お暑い中、週末の中お集まり頂いてありがとうございます。市整会創設50周年ということで、僕自身は開業してから入らせてもらって、今感じている



のは市整会は他にない稀有な会で、開業医でよくここまで、自前でやってるよなという思いです。

それはもう創設された諸先輩の慧眼っていうか、ここまで会を立派にさせていただいた先輩方に感謝の

気持ちでいっぱいです。45周年記念誌で天野先生がレジェンドの先生方とお話をされていますので、歴史はそちらに譲ります。

50年っていうことで、これからの市整会100年に向かって、というのがテーマになると思います。古きを知るだけでは歴史を作れないので、今日は新しく市整会に入っていた先生をお招きして先生方がどのようなことを考えているか、とかこれから市整会をどのようにして、ますます良い会にしていくかということを探る会にしたいと思います。

これはオフレコねって言う話題は記事に載せませんので、奇譚のないご意見もいっぱい語ってもらって、今日は1日楽しく過ごしたと思います。よろしくお願いします。



天野先生：

乾杯の前に鳴嶋先生から一言お願いします。

鳴嶋先生：

西澤先生が言われたみたいに、同門会で開業医会というのが、まずよその大学には無いんですね。200人近くの開業医ばかりの先生が集まって50年も続くというのはどこの大学から見ても日本全国の大学から見ても羨ましがられるような存在である、開業医会であるのが市整会です。僕も自負しているしそのように考えていただいて皆さんも西澤先生中心にやって行って欲しいと思っています。それで今度新しい先生が入られてその先生方にも是非プライドをもって対応していただきたいと思います。邁進していただきたいと思います。特にお父さんの前野先生は、すぐく市整会のことを本当に世話人みたいに、今で言ったら森川先生みたいな存在でずっと長いことやっていただいて、世話人になって頂いて僕が会長になった時に前野先生のお父さんに言われて開業して間もない頃に5年か10年くらいのと

きに会長させていただいたんですけれども、本当にその時によくしていただきました。良き存在であり、よく見張っててくださいねと、変なところ行かんように指導してくださいねってお願いしたの覚えています。それで新米の会長をしたのもそれがちょうど40周年ですね。是非よろしくお願いします。それ



からちょうど10年なので僕の時はまだ新人もたくさんいなかったんですけれども、今回たくさん入ってこられて心強いです是非よろしくお願いします。

増田先生：

今日はこのような会にたくさんの方に来ていただきましてありがとうございます。僕が市整会に入った時のことを思い出しているのですが、市整会には自然と入ったんです。その時は先輩方がいろいろおられて年配の方ですよ、いろんな話を聞かせてこんなことやってるんやとかね、そんなこと聞かせていただいた覚えがあります。その年代に僕らがもうなってしまったかなと思うんやけど、例えば僕は今65歳、鳴島先生は70歳、天野先生も65歳、新人の先生方どう思いますか？かなり上だと思いませんか？僕らはまだまだそう思ってません。実際のところはまだ開業したて30代とかそのつもりでおるんやけれども、全然そういう訳にはいかないなど思っています。今日はいろんな話をしながら歓談したいと思いますので、皆さん一緒にご唱和ください。それでは乾杯！



天野先生：

それではご出席の先生方から簡単に自己紹介していただき、新入会員先生のお話を聞きましょう。

伊藤先生：

旭区で開業してます伊藤です。私の父は伊藤成幸で、初代会長をしております、その関係もありま



して私も誘われたのかなと思っています。私は人前で喋るの苦手で、何とかこういう会でもやっていけるのは皆さんに盛り上げていただいているからかなと思っています。これからもよろしくお願いします。

天野先生：

35歳で開業して31年、その前は淀川キリスト教病院にいました。都島区で頑張っております。どっちかという看板も内科、整形にしちゃったぐらい、内科の方を6割ぐらい見てるという感じで、整形外科医ですって言えないんですが、リハビリだけでは厳しいと考えてました。高齢者が多いので血圧を診たり糖尿を診たり高脂血症を診たりしてるうちに、だんだん、この先生“骨折も診れる内科の先生”ぐらいに思われています。よろしくお願いします。

小竹先生：

学術担当理事ということになっております小竹です。ハッタリの効いた名前にはなってますが経歴的には全く学術には縁遠く卒業以来大学に近寄ること



もなく勤務医時代が終わりまして、開業してあっという間に 15 年が過ぎました。済生会中津で研修し府中病院に移り、そこで元部長の鳴嶋先生に声をかけていただいたご縁で開業するや市整会に温かく迎えていただき色々役職もやらせていただけたおかげで居場所を作らせてもらって開業してから改めて自分の医者人生が納得のいく形で進みだした、そういう点で市整会には本当に感謝をしています。これからいろんな課題があって我々がどうやって市整会を含めて生き残っていくか、変わっていくかというのを西澤会長がよくおっしゃるのでその支えに役に立てるように頑張っていきたいなと思っております。奈良市で開業しております。今日もよろしくお願いします。



森川先生：

藤井寺で開業をさせて頂いております総務の森川と言います。開業して小竹先生が言うておられたように数えたらもう 17 年になるんだなど、早いなと確認したんですが、この中で一緒に働いた先生もいはるんですけども、働いたことの無い先生もいらっしゃいます。それやのにこうやってやらせて頂いてるのは市整会で総務をさせて頂いてるのもあるんですが、学術とかそういうので勉強する単位を取るのもひとつなんですけど、僕が楽しく思っているのは、委員会とか理事会とかもやらしてもらってるんですけど、その後の食事会でこうやってみなさんとしゃべって働いたことのない先生でもいろんなことを無知な僕に教えてくれることが非常にありがたいと思っています。気負いなく飲み会なんかに参加させて頂くことが自分の血となり肉となっていくと嬉しいなと思っています。これからも至らない点多々ありますけれどもよろしくお願いします。



馬野先生：

東住吉区で開業している馬野です。福利厚生担当の副会長やっています。息子が市大の整形に入局させて頂いております。開業後、仕事も回ってきて、天野先生がおっしゃっていましたが、内科的な事とか、開業したら在宅の事とか、介護保険が始まったのでそっちの方に手を出したりとか、整形の専門医と言うには本当に“何でも屋さん”みたいな形になっています。整形の専門医と言われるような状況じゃないんですけども、まあそれも一つの整形外科の開業の形かなと今は仕方なく思っています。息子は脊椎の方やってみたいなので、彼は専門医に走るのか僕みたいに何でもするようになるのか、それはちょっと分からないんですけども、いろんな開業医の形、新しい先生方と、こんな先生がおるんやとかこういう風にしてやってる人もおるんやとか、いろんな眼でまた相互に意見交換できたらいいなと思っています。今後ともよろしく願い致します。

西澤先生：

今年開業して 25 周年、またあの五十周年記念誌で半分ばやいたようなアンケートの答え出していますのでまた読んでいただければと思いますけども、僕の場合はハッピーな開業をしたわけではなくて行く場所がなくなって開業した感じだったので、僕自身はそれで開業して、お亡くなりになったんですが頼先生と言う開業前に僕がお手伝いに行かせて頂いた偉大な先輩がいてはって、その先生に誘われて市整会に入れて貰ったんですが、そこで僕は救われたという風に思っています。その時ちょうど長田先生、今回はご高齢で祝賀会も来られませんが、長田先生がちょうど会長をされていたその時言われたのが、「市整会というのは入局年次の差はあるけれども同じ開業医として皆平等なんだ」ということを

すごく言われていて、「上も下も無いのが市整会や
で」と言われて、それがすごく心に残っています。
すごく居心地が良くて他の人たち知ってるけれど、
僕はよく家族を連れて市整会行事に参加していまし
て、今度もまた息子を連れてきますけれども、また
会場で天野先生との共演を楽しみにしているんで
す。是非市整会を、入会して貰った先生方は市整会
をぜひ利用して欲しいんです。義務感を感じてこな
なくてもいいので、奥さんも今は大変だと思いますの
で、新年会とか旅行とかあれば来てもらったらこう
いう会に旦那がいてるんやということがわかっても
らえるし、子供達も連れて来てもらったら今度僕も
医者になろうかなとか思ってもらえると思います。
そういういろんなことが市整会では味わえるので、
是非高い会費とってますので元を取っていくくらい
の気持ちで市整会を利用して貰ったらいいと思いま
す。よろしくをお願いします。

鳴嶋先生：

いま 70 ですけども、15 年府中で勤務医してて、
45 で開業しました。そして開業して今年でちょう
ど 25 年ですね。勤務医の時代よりも老けたなあと
思ってます。市整会で会長をやらせていただいた
のは良い人生経験だったと思っているんですけど
も、本当にいい先生方ばかりで、僕、一番新しい
先生に利用して欲しいのは、開業して困った時に
メールでもいいし、仲の良い先生とか、よく気の利
いた先輩の先生に相談したら大体のことを教えてく
れます。僕も大概今まで苦労した時に、どうでしょ
うか？とかこんなどうしたらいいんですか？に適切
なアドバイスいただきました。困った患者さんとか
でこんな患者いてるんですけどどんな対応したら
いいですか？と例えばメールしたら大概ね、先輩の先
生で、「こんな経験あるからこうしたらいいですよ」
という返事が返ってきたりもします。変な言い方
ですけど大きな全国ネットのところに質問するよりは
良いです。そういう事が一番利用価値があるなど。今
先ほど西澤先生がおっしゃられたんですけども、
会費を払っている値打ちはあるんじゃないかなと思
います。そういうことでこれから経営の中でもいろ
んなことあったことがあればその点においても相談
すれば必ず何か返ってくると思いますので、ぜひ頼
りにして欲しい相談していただければと思ってい
ます。なおかつ僕たちがそうやって今までそうやっ
て先輩に世話になってきたんだから、今までに世話

になった事の恩返しということもしたいと思ってい
るのでぜひ相談していただければと思います。

天野先生：

鳴嶋先生は府中病院におられましたね。開業し
た途端に大盛況となり、その年の新人王になって
MVP にもなるぐらいバンと流行ってますね。先生
の診療所は今でも初診患者さんが 30 人毎日来られ
るんですか？

鳴嶋先生：

まあ平均 20 人ぐらい

天野先生：

それは新人の皆さんも我々もびっくりです。そ
れぐらい地域で愛されて根付いているって事です
ね。市整会には 1 日 600 人来る先生もいますし、
300~400 人が来院される診療所は他にもあります。
そういう先生にノウハウをお聞きすると、直ぐに教
えてくれるんですよ。すごい事です。

増田先生：

近鉄南大阪線の古市の駅前が開業しております増
田です。僕も開業して 28 年くらいになります。先
ほど馬野先生が介護保険の話されておられました
けれども、実は馬野先生にデイサービスやらんとあ
きませんよと声かけられて、うちもデイサービスを
始めて今やっています。理学療法士とか僕らの時代
はなかなか来てくれなかったんだけど、ひよんなこ
とで一人来るようになって、そこからだんだん増え
て行って今 6 人ぐらい理学療法士がいてるんですけ
ども、そのうちの一人が訪問リハビリをやりたいと
いうことでちょこちょこっというんところに参入
して行ってます。ただデイサービスはこのコロナに
なってから来なくなる人や来れなくなる人が多くな
り赤字続きで大変ですが続けています。うちは羽曳
野医師会事務局にも近く、歩いて行けるところにあ
るので、入会当初から医師会の会合に顔を出してい
たら、いろんな事をさせられて、いろんな役をする
ようになりました。本日は、よろしく願いいたし
ます。

天野先生：

それでは、ここから新人の先生の自己紹介です。
開業しようと思ったきっかけとか開業するにあたっ

での心構えをお願いします。僕の時代はわりと適当だったですけども、今はちょっと聞いていたらすごくシステムティックに開業に向かって進んでいるのでその辺のところを聞いてみたいなと思っています。開業希望の先生が医局に多いと聞いていますのでそのあたりどうかとか、話せる範囲でお願いいたします。



袴先生：

平成四年卒業産業医大の卒業で、平成8年に入局させて頂きました。大橋先生の門下で色々勉強してきて、最終大阪鉄道病院で小西先生と一緒に働いてたんですけども、手術をして良くなる人もたくさんいるんですが、中には手術をしないで手術をあまり希望してないという方結構おられて。エコーの勉強を始めまして、皆川先生のエコーキャンプとか行ってきてエコーを使って注射して治療するというのはすごく魅力的に感じて、開業したいなと思っていました。子供の受験とか重なって家内はかなり反対していて、その時、丁度岩城先生が後援するからクリニック出すけど副院長になるかといって声をかけてくれた、それを嫁さんに言ったらそんないい話やったらいいやんと言われて、それが契機となってその話に乗りました。「開業します、後任人事よろしくをお願いします」と言いに行ったら、「開業するんや〜どこでするんや?」と言われて「福島です」と答えたらその瞬間にコロッと一。当初はコロナ禍で苦労したんですけども順調に患者さん集まってきました場所もいいということがあって、岩城先生のサポートも受けてなんとかやってきます。なんとかいいクリニックにして発展させていって自分も色々貢献していきたいなと思っています。下手くそですけどゴルフが大好きなのでまたゴルフの方も誘ってください。よろしくをお願いします。



水沢先生：

改めまして水沢と申します。平成10年卒業です。済生会中津、大阪労災、済生会千里病院、石切生喜病院と、関連病院で、なかなか楽しく充実した勤務医生活をさせてもらってました。毎年新しい研修医が入ってきて、その研修医たちの指導して、なかなかやりがいのある勤務医生活をしてたんですけども、最後の石切生喜病院が、なかなか忙しい病院で、関節外科と手の外科と外傷を担当していたのですが、段々と手術件数が多くなってきて、年間で400件近くになってきて、さすがに疲れてきました。また他に家族や子どもたちの事も色々考えまして2020年の5月に豊中の庄内で開業することにしました。ちょうどその時は、コロナの第一次緊急事態宣言の真っ只中で、世の中街に人がいない、外に出歩かないようなタイミングでの開業だったんですが、庄内って豊中の下町のようなところなので、地域性もあったのかと思いますが、コロナでも割と気軽に結構来てくれる患者が多かったので、それに助けられて、今で何とか2年ちょっと経って、ようやく落ち着いてきたかなと思います。個人的にトリアスロンやってまして、ゴルフも興味はあるんですが、まだちょっとトリアスロンの練習で、ゴルフにはまだあまり時間が取れないですね。また、飲んだり、美味しいもの食べたりするのは好きなので、これから市整会に参加させてもらって、徐々に慣れたいなと思っています今後ともよろしくをお願いします。

前野先生：

僕は平成13年に産業医大を室井先生の後輩なんですけども、卒業して市大に入局させて頂いて、父が脊椎外科ということもあって脊椎の方を専門にさせていただきました。父が開業している状況で僕も勤務医やっていたんですが、常に開業というの

は脳裏にありながらも中途半端にしたくないなというのがある、脊椎外科で指導医を取るまでは頑張りたいなというのがある、長く脊椎をさせて頂きました。そういう意味では脊椎を専門にしている病院



はたくさん回らせていただいて、大阪労災の時に鳴嶋先生とお会いして色々教えて頂いてありがとうございます。その後石切生喜病院で水沢先生とお会いしてかなり忙しかったですけども楽しく仕事をしました。その状況で父の方が高齢になってきました。なかなか仕事も難しくなり、継いでくれないかということになって僕も当初の予定である指導医が取れましたので一応よく考えて、実は外科医としては自分で言うのもなんなんですけど、一番脂が乗ってて若い先生を指導しながらやりがいを感じながら仕事をしてたんですけども、今回そういう家庭の事情もあって開業させて頂くということになりました。だちょっと未練がましいと言ったらあれなんですけど、金曜日はお休みいただいて今も石切の方に手術の指導ということで行かせてもらってます。開業したあと、金曜日行ってるんですけど良かったと思うのは、結構みんなワイワイ仕事するのが好きなんですけれども、今開業すると周りは僕より年上のお姉さまばかりで、男は僕ひとりで昼ご飯も一人で食べるという状況なので石切に行ってワイワイするとちょっとほっとしてる自分がいて、今そういう中で朝のカンファレンスとか出て新しい知見が脊椎だけではない肩であったり関節であったりそういう話も聞けるので貴重だなと思って。ただこういう二刀流じゃないですけど、いつまで続けられるのか分からないですけども、手探りで新しい開業の形を僕なりに模索させてもらっている状況かなと思います。市整会については、僕は申し訳ないぐらい父から何も聞いてなくて、もうちょっと会話しとけば良かったなと今更ながらちょっと思っているんですけども、正直今日来るときドキドキしながら来さ

せてもらったんですが、もちろん知り合いの先生もたくさんおられてですね少しほっとしています。こういう状況なんですけども開業に関しては先生方に色々教えていただきたいというのがありますので、僕の父のこと皆さんキャラクターご存知だと思いますが、あまり手広くしないと言うか患者さんをたくさん呼び込むようなタイプではなくてこじんまりとしてましたので、今ちょっとその引き続きでこじんまりとしているのもうちょっと繁盛したらいいかなと思いがいろいろノウハウを教えていただけたら助かりますのでまたよろしく願います。

森川先生：

僕の首が動かなくなったとき、前野先生に見てもらいましたね。

前野先生：

尾田先生が主治医で僕も担当させていただきました。



渡辺先生：

愛知医大を卒業しまして、大学の同級生だった妻と城東区の蒲生四丁目で整形外科で開業しております渡辺ですよろしくお願いします。大学を卒業してからは石切生喜で水沢先生にお世話になりまして、その後羽曳野の島田病院でその後府中病院で務めさせて頂いて開業に至りました。もしかしたらちょっとごめんなさい。先生の後で言うのもおこがましいんですが、僕は逆に開業を最初から考えて整形外科医になったたちでして、元々父それから祖父共に商売人の家系でして、ちょっと有名なパチンコ屋の息子でして、アローグループと言うグループの一応御曹司になりますが（笑）母方が超金持ちですが父は奈良のしがない王子という場所で一店舗だけパチンコ屋を経営しております、元々は経営学部に行く

つもりだったんですが父に医学部も経営学部も行けるという状態まで持ってきてもらってどっちになつて欲しいかということを知ったら、父が医者になってくれと言ったので医者になりましたので、僕が医者になった目標としては、父よりしっかり経済的にうおわないと、父が僕を医者にした意味がないというふうに自分に言い聞かせてやっております。それをモットーに一生懸命頑張ろうと思っています。なんかこう高い志とかすいません、ちょっとないんですが、本当にこれおべっかでもなんでもなく1年目に水沢先生にお世話になってそこまで開業医になることしか考えてなかったんですが勤務医になるなら水沢先生みたいになりたいと本当に思いました。それぐらい目標にさせて頂いて、水沢先生の送別会の時も本人にお伝えさせていただいたんですが、それぐらい尊敬しています。

すごくいい先生方に石切生喜、島田、府中病院を



通じて出会わせていただきまして自分の開業にとって本当にプラスなことをたくさん教えていただきました。まだまだ昨年(2022年)の5月に開業したところで1年と少ししか経っていませんけれども、頑張っていますのでよろしく願いいたします。

西澤先生：

開業しようと思ったきっかけとか開業するにあたって僕の時代はわりと適当だったですけども、今はみんなちょっと聞いていたらめっちゃくちゃシステムティックに開業に向かって進んでいるのでその辺のところをちょっと聞いてみたいなと思っています。後は、医局は快く送り出してくれたんでしょうか？その辺りを聞いてみたいです。開業希望の先生が医局に多いと聞いていますのでそのあたりの関係はどうなったのかなとか、話せる範囲で。

天野先生：

医局の先生からすれば、これから指導しよう、活躍してもらおうという時期ですね。

前野先生：

そうですね正直ちょっと教授と対話をさせてもらいました。僕の場合は実は開業の前の2022年の4月に東住吉の森本病院に脊椎外科医として行ってくれと言われて、実はそこで十三市民病院に行く予定だったある先生がまさか面接に落ちるといふ大失態をして、急遽その十三市民に行く脊椎医がいなくなったところで実は僕がそこで声がかかったんですね。森本病院に行かずにそっちに行くと、その時は十三市民病院に行くことをお断りしたんですけれども、その直後に父が開業して欲しい継承して欲しいということだったので、そこで急遽、教授に言って十三市民行くので、その後4月に開業させていただきませんかという話を持っていったという流れがありました。それで十三市民に行くのが7月からになったんですが、4月からではなくて7月にしてくれないかとその辺のせめぎ合いがあって、結局は僕の言う通り4月からにして頂けたんですけど、それも実は中村先生と総長とのやり取りがあったみたいなんですけども、その辺の参画みたいな感じのがありまして、「父さんは元気にしてるんですか？」そういう話になると思うんですが、参画人事みたいな余波がありました。

父は体は元気なんですけれどもちょっと初診ができない様な感じで、物忘れのせいで会話が難しくなって患者さんに同じことを何回か聞くようになって、かなり限界かなと。

馬野先生：

金曜日はお休みにしてるって言ってたけどどうしてるの？

前野先生：

休診にしています。

天野先生：

お父さんは完全に引退されてるんですか？
おいくつでしたっけ？

前野先生：

そうですね今完全に引退してます。83です。



天野先生：

永きにわたって頑張ったのですね。感謝ですね。

水沢先生：

毎年、新たな研修医の先生が来て、指導してという生活をしていて、やりがいもあって楽しくて面白かったですけども。だんだんやっぱり体力的にしんどくなってきて45歳を超えて、老眼も入ってきて、そんな時に息子の小学校のPTA会長をしたんです。地域のしがらみ上、僕がPTA会長をやらざるを得ない状況になりまして。大阪市は地域活動協議会という地域単位の組織がありまして、地域の集まりの会とか催事に、ことあるごとにPTA会長として呼ばれるようになり、必然的にそういう会って高齢者の方が多く、そういうところに「医者のPTA会長」という立場で入ると、みんなからいろいろ医療相談が集まってきまして。だから、地域の高齢者相手に、健康講座とかやったりして、そんな状態も楽しいなと思ってたところに、北大阪地震があって。うちは新大阪の辺りの宮原というところで、結構被害が大きかったんです。この地域はマンションや高いビルが多いですから。その時は石切生喜病院に出勤途中で地震があったのですが、出勤した東大坂では地震なんかなかったような状態でした。しかし、

地元の地域は大変なことになっているからPTA会長の所に、いろんな連絡が回ってきて、各方面に指示を出さないといけないという状態でした。この経験から、住んでる場所と職場が遠いというのは駄目だなと思い出まして。

ちょうど、手術するのに疲れてきたというもあり、勤務医生活はもう十分かなと思ひまして、「地域に根ざした開業医」というのを、セカンドライフにするのも面白いかと思ひました。

天野先生：

先生は何歳で開業されました？

水沢先生：

47歳です。今は49歳です。色々タイミングが重なったというもあります。PTA会長は息子も卒業したので、私も卒業してます。今は子どもたちは一番下が中3で、真ん中が高3で、一番上が大学生でもうすぐ卒業です。2人が受験生真っ只中なんです。

橋先生：

深い話を言うと、両側TKAをした患者さんが感染を起こして後々わかったのは壊疽性膿皮症と言って感染じゃなかったんですけども、その人のアレル



ギー反応だったということが分かったのが1年過ぎた後だったんです。すごく難渋して、両側とも膿んでくる、片方がアンプタになっちゃって、その時は手術が嫌になったんですね。いったい何のために手術をしているんだということを思った。早く辞めたいという風に僕は思ったんです。その時、山野先生に助けてもらったんですが、その時に懐の深さを感じたんですけれども。

片方がリビジョンをやって、うまいこといったんですね。それで、感染が落ち着いてきてもう片方のリビジョンをしようと思ったときに、やった方が逆に悪くなってきてしまって、アンプタになってしまって、アンプタになったところもどんどん悪くなっていて、それで文献を探したら壊疽性膿皮症というのがあって、ステロイドの大量投与で治ると書いてあった。ステロイドを40mg打ったらどんどん傷が良くなっていったんです。皮膚科の先生がその時院長だったので全病院で診てたんですよ。でも、誰もそんな壊疽性膿皮症というイメージを持っていなかったのですが、後から分かった。僕のせいじゃなかったんだということが分かりそれはよかったんですけれども、その時思ったのがトラウマになってしまって、その時から保存的治療というのを勉強して、保存的治療で良くなる人が実際にたくさんいるので、開業したいなと思うようになりました。先ほど言ったように息子の受験のタイミングとかが重なって、開業が54歳の1年3ヶ月前のタイミングになった。

そのぶん想いを込めて、人工関節の手術ってすごく良い手術なので、股関節の痛みが取れるので、(水沢先生：切れ味がいいですよ) 患者さんが保存的治療で粘りたいという人がいても楽になりますよ、ということで、注射で良くなる人も居るんで。そこは見極めて、今やっているのは頸椎のエコーを見

て、神経根ブロックで、切れ味良いです。あれで患者さんが手術やらんで済むという人がとても増えるので、開業医はエコーを持って絶対診療すべきだと。あとは漢方薬ですね、治打撲一方、実感してます。例えば中足骨の偽関節で来られて、うちは幸いMRIがあるんですけども、何も骨折状況もない。そこで、治打撲一方、疎経活血湯を出すと、4週間くらいでよくなるという感じですよ。漢方.jpというネットで勉強したんですが、たしかに、言われてるように椎体の圧迫骨折でも効くと思います。

鳴嶋先生：

偽関節は治れへんやろ？

禱先生：

偽関節は放置すると治るんですが、治りが早くなるんです。漢方とエコーというのはこれから開業医にとっては必須アイテムかなと思っています。

天野先生：

大川先生プラス西上先生やね

鳴嶋先生：

ちなみにね、治打撲一方は日本の江戸時代に作られた日本オリジナルの漢方です芍薬甘草湯とかは中国のものですよ。

水沢先生：

治打撲一方は肋骨骨折なんかに効くと思います。ちょいちょい出してますね。肋骨骨折ってやっぱり動いたら痛いで、ロキソニンとか出すことが多いと思うんですけど、意外と治打撲一方いいですよ。

禱先生：

治打撲一方で痛みを抑えて疎経活血湯で流れを良くする。

西澤先生：

では、次のお題にまいりましょう。皆さん、お子さんいると思うんですけども、クリニックに対して奥さんはどう関わってはおるのか、お子さんたちは休日はどう過ごして、お子さんたちどう関わっているのか、開業医の時と勤務医でどんな違いがあるか、変わりましたか？うちは、ちなみに嫁さんはフルタ

イムで働いているので人来ないから仕方なしに。

渡辺先生：

僕のところは、あの月水金土、子育てもほとんど妻がしてくれてるんで9時から14時というぶっ通しの勤務で、その後は閉める。土曜日だけ9時から12時までです。勤務医の時の方がやっぱり休みやすかったですね。自分の代わりがいますし、自分がいなくても病院は回るので、正直有給は取りなさいという時代だったのでとらせてもらってましたし、家族旅行も行けたんですけど、今はまだ開業して1年なのでしめる勇気がない自分が休んで旅行に行ってそのぶんの経営のことを考えてしまうと、ちょっと焦りがち。ちょっと余裕がなくて、妻と子供にはまだ。今しか子供達は来てくれないとも思ってるんで、何とかカルテとかを深夜に一人でやって、極力早く帰って遊んであげようとはしてますけど、それでもやっぱり勤務医の方が家族との時間は長かったです。

小竹先生：

勤務医の方が時間が取れたというのは正直びっくりですね。

渡辺先生：

そうですね、取れたと言うかコントロールしやすかったですよね。当直もなくなりましたしそういう



意味では毎日家にはいるんですけども。勤務医の時は5時に帰れる日が週に1日はありました。そういう時はもう5時に帰って子供と遊んだりもしてたんですけども、今はもう毎日毎日時間かかってしまうので、でも土日は極力一緒にいるようにはしてま

西澤先生：

勤務医の先生がこういう記念誌の対談を読むかど

うかわかりませんが、開業したときのイメージが湧きにくいじゃないですか。

天野先生：

わからないし、みんな決死の覚悟でやるじゃないですか開業医ってね。

水沢先生：

うちは妻が看護師なんですけども、中津のときに一緒に働いていました。今のクリニックでは看護業務はしてないです。総務的な働きを午前中にやってもらって、出来るだけ午後は帰ってもらってます。勤務医の時は、僕らが入局した最初はまだ一年365日病院にいてたような時代でしたが、レジデントで大阪労災病院に回らせてもらった時に、阪大の先生って、システムティックにみんなが交代で休みをうまくとってはってたのを見てて良いなと思ってました。その後に働かせてもらった病院の各部長がいい先生ばかりで、土日をちゃんと休ませてくれる、有給とらせてくれる部長の下でありがたかったです。

天野先生

それはどんな部長さんだったんですか

水沢先生：

千里の時の部長は鍵山先生、その後、釜野先生と一緒に石切に行こうと誘ってもらいました。その後、吉中先生、河野先生と部長が変わりました。ちょうど部長と研修医の中間の立場にいましたので、僕ぐらいの立場の者がきっちり休みを取ったら下の人も休みやすいだろうと思って、働く時はちゃんと働く、休みは休みでしっかり休むというスタンスでやらせてもらいました。朝早くから働いて、夕方にはサクッと「今日は帰ります」みたいな感じで、自由にやらせてもらってました。開業して通勤時間が大幅に変わりました。新大阪から石切まで自転車で行ってたんですが(爆笑)、20km毎日です。(天野先生:変態やね!)雨の時は一応車で行きますが、結局、片道1時間、往復で2時間かかってましたね。そこを考えると開業して、多少夜遅くなったとしても、家にいるトータル時間とか子供と接する時間は多くなってると思います。

渡辺先生：

水沢先生その1時間かけて自転車でも毎朝シャ

ワー浴びられてたじゃないですか。シャワー浴びる時に T シャツ見たらアイアンマンって書いてあってこの先生なんなんやろと思ってました (笑)。

水沢先生：

勤務医の時は子供が小さかったんですけど、割と休みを取らせてもらってたので、子供たちとわりと遊んだりとか出来ていたと思います。今は子供たちが大きくなったので遊んでもらえなくて、逆にトライアスロンの練習は一人で行けるようになりましたね (笑)。子供達は相手にしてくれなくなりましたからね。

天野先生：

そのうち嫁さんも相手にしてくれなくなるで。

水沢先生：

実は嫁さんも一緒に走るんです。一緒にトライアスロンやってました。今はいったん卒業してますが。休みの日は妻と一緒にランニングしたりしてます。

小竹先生：

もともと一緒にバスケットやってはりましたもんね。中津の当直室に住んでる同然の状態の仕事してたときに、水沢先生も住んでましたものね。

水沢先生：

仕事して、梅田に飲みに行って、中津の当直室に帰ってちょっと寝て、また朝から働く (笑)。

禰先生：

上の子は受験が終わって、下の子が高3で受験で、それが大変。うちの母が去年膵臓癌で亡くなったんですね。それに続くように嫁さんのお父さんお母さんが認知症になってしまって、幸い嫁さんの実家が近いのでそのまま介護に明け暮れている。だから子供は受験、嫁さんは介護ということでほとんど家族サービスができず。

天野先生：

それは気の毒ですね、嫁さん大変やと思います。ここで奥さんちゃんといたわれへんかったらね、あとずっと覚えてるからね、いつもありがとうって感謝せなあかんよ。

禰先生：

ひとそれぞれ状況違うと思いますが、50なかばで僕はこういう状況になってるので、子育て真っ最中の先生が開業されるのはちょっと状況が違うかなと思いますけれども、そういう状況なんですけど、その時々で全力を尽くすしかないですよ。





天野先生：

そのとおり！

西澤先生：

それでは次行きましょう。

勤務医の時に市整会の存在を知ってましたか？

市整会は勤務医から見てどういう風に見えてましたか。会長になるときに言いましたけども市整会って絶滅危惧種だと思ってるんですよ。やばいと思ってるんですね。このまま行ったら潰れるかもしれないと。

先ほど市整会のことを利用してねと言いましたけれども例えばこんな企画したら面白いんじゃないかとかこんなやつたらいいんじゃないかとか良いアイデアがあれば是非教えてください

前野先生：

正直、知ってるか知ってなかったから言うと、僕も父から聞いてて知ってるところで、実際みなさん集まっておられてね、父はずごく楽しそうに出かけているって言うのは母から聞いてたので、実際旅行とかも企画されていて、今日はちょっと僕も皆さんがどういう話をされるのかなというのいろいろ考えながら来て、実際に顔を見るまではイメージが湧か

なかったというのが正直なところです。確かに若い人が入ってこないと組織的に先が難しいというのは、それはもう市整会だけの話じゃなくてなんでもそうですし、団体があるからにはそういう悩みがあるんだなと思ってるんですけど、色々新しい事を取り入れる場が必要なのかなと、すいませんこうやって言ってるんですが、何も具体的なアイデアはありませんが。

鳴嶋先生：

開業してね、保存療法の限界に挑むというのがね、開業の真髄と言うかね。もちろんオベ好きやったんやけど、開業したらあるときから変わったんですよ。というのは、勤務医をしてる先生はわかってると思うけど、レントゲンを見てこんな膝、何時までよく手術をしないでおったね、というような症例も見ると。痛いというのとレントゲン画像が違うというのを認識すれば、保存療法にどれだけの可能性があるかというのを導いてくれるんじゃないかなって思うんですけど。

前野先生：

衝撃だったのは、禰先生が関節外科医で膝を保存的にというのが意味衝撃だったんです。水沢先

生も結構保存で現役の時からかなり保存で見られてたんで、石切は逆に保存をしないと手術患者さんが多すぎて自分の体が潰れるような状況に。石切はそういう意味で実はすごく鍛えられました。膝蓋骨骨折の横骨折、普通だったら伸展機構が破綻しているので手術しないといけない症例、水沢先生に相談させてもらったら意外といけるでって言われて、ほんまに行けて、しゃんしゃん歩けるようになったり。僕ら若い先生は特におお骨折は手術というのは歩いて土しみついた知識としてあるので、その方は転移してなくてその骨膜がつながって、結構きれいなおお骨折で少しギャップもできたんですけども。まあその人も保存で行けたので、本当に手術をしないといけない症例というのがどういうものなのかなと。

鳴嶋先生：

過去によく行っていた経営的とも言えるアッペ（虫垂炎の手術）を昔は多くあったように思います。整形外科でも同様に経営的に見て、観血の手術を選んでも場合もあると思います。例えば、ORIF と人工骨頭置換術とか。開業してみると手術適応としていた症例でも、保存療法で結構治り、肘なんかでは ROM も手術より、良い場合を多く経験します。手術したばっかりに関節に癒着があって動きが悪くなったりとか、多々経験しているし、禰先生に言いたいのは、勤務医の時に手術に失敗して開業に踏み切った先生、いっぱい見てますわ。

禰先生：

逆にそういうふうに通ってくれたのかなという風に思いますけどね。

鳴嶋先生：

大先輩で柿本先生という城北市民病院の部長だった先生がいたんですが、学友会病院。手術してるけど、「患者を治してるのか悪くしてるのか分からなくなりましたわ」、と相談したときに、「10 人いたら一人ぐらい手術してもうまくいかない人がおっても当たり前や」と、それぐらいのことを言われたの覚えてますわ。だけどね、その一人がものすごく大きい失敗だったらね、人間としてね、医者として成り立っていくんかなって、自分を責めると言うか、開業に踏み切るなあかんからと思うね、きっと。その辺は個人のばらつきがあると思うけれども。

天野先生：

まあ確かに、我々はね、100 人いて 99 人うまいこといったとしても、その一人がうまくいかなかったらね、落ち込むわけやないですか。保存的治療にしても手術にしても、そういう世界に生きてるんですよね。患者さんにしたら、良くなって当たり前、先生に診てもらったら、良くなると信じて来てくれるわけやから、答えな仕方ないわけでしょ、それに、答えなあかんわけです、大変や。

鳴嶋先生：

僕は開業した時にね、大ベテランの先生から言われたんやけど、1 回目は必ず痛みを取ってあげなさい、どんなことがあっても痛みを取るんです。

天野先生：

これは真髓だから、よく聞いておきましょう。

鳴嶋先生：

2 回目の時はね、何で痛かったのかと言う検査をきちっとしてあげるんです、きちっとした診断を自分なりに 3 つぐらい頭の中に入れておくんです、次に来た時にその検査の結果の時に 3 回目の診察で自分の中で確定診断をしてあげるんです。その 3 回で勝負をつけないと、3 回目であやふやなことを言うと、よそに行きますし、3 回目で痛みが半分以上取れなかったら、もう来ないんですが、患者にとって一番困ることは痛み、この痛みはどこから来て、どの痛み止めが一番効くのかということをしてあげないと。だから 3 回が勝負ですね、患者と初対面の方は 3 回が勝負ですね。開業が流行るといのはやっぱり、あそこへ行ったら先生が痛みを取ってくれるよ、という最大の口コミじゃないかと思います。

小竹先生：

ちなみに、その 3 回というのはどのぐらいの期間ですか？

鳴嶋先生：

もし患者さんが 3 日来たら、その 3 日間です。MRI を撮ったら当然 1 週間かかりますから、それだけかかりますけども、それから VAS を必ず聞いてあげてください。前回行った時の VAS の痛みは取れましたか？、一番痛かった時から考えたら何割取れましたか？、取れましたか 3 割とれました

か、VASを聞くでしょ。3回来た時にまたVASを聞くでしょう、その時さらにようになってるかどうか、VASが10-10-10ときたら、自分を失格だと思って必死に考えないといけない訳です。その利用法のもう一つは交通事故なんかでVASを聞くでしょ、そしたらもう3ヶ月も4ヶ月もかかって「VAS 3です」、「VAS 3ですって、そうか、もうVAS 3より良くならないかって、それを症状固定と言うんやで」。そうなるともう患者さんもこれ以上良くならないんですか、と前みたいにVAS 10になることはないんだから、もう症状固定ということで、そういう風に話をしなさいね、と言えるわけです。なぜなら、本人がVAS 3って言うてるんだから、本人が自発的に言っているのだから、その前にあなたはもうこれで症状固定ですよ、なんて言ったら必ず文句言うでしょ、まだ痛いのになんで診てくれないんですか、とこうなるわけでしょ。だけどあなたは自分でVAS 3って言ったでしょ、1ヶ月前もVAS 3って言ってましたよね、それは症状固定って言うんですよ、という風に話を持っていったらうまくまとまりがVASという言葉を知っておいて必ず聞くと、それがコツですね。

天野先生：

馬野先生、締め挨拶をお願いします。

馬野先生：

宴もたけなわですが、お時間もありますので、今日は50周年の企画ということで、開業20年以上の先生と開業5年未満の先生と橋渡しといたしますか、それこそ将来の市整会に対しての1ページだったんじゃないかと思います。今度の記念誌で記念となるようなページになればと思っています。本当に我々も開業後しばらくたちますが、刺激になりましたし、また開業5年未満の先生方もなんか吸収して何か繋げられるものを持って帰っていただけたら、ということをご期待しながらお開きしたいと思います。今日は本当にお疲れ様でした。



座談会 第2回目

R4.10.15(土) 於：浅井東迎 17:00～

参加者(敬称略)：西澤 徹、竹中 稔幸、秋野 一男、
斧出 安弘、天野 祐一、馬野 隆信、柴田 和弥、伊藤
智康、森川 献志漢、妻鹿 良平



西澤先生：

それでは今回は、2世の先生との対話ということで、自己紹介からお願いいたします。開業に至るいきさつなど。



柴田先生：

うちは実は、青果会社だったんですよ。スーパーは潰れましたけど。そのときに、父親が医学部を受けて、そのうち大阪市大に入局して、そのとき水野祥太郎先生に可愛がってもらって、その頃は結構むちゃくちゃで、エレベーターが来るのが遅かったら、ストレッチャーを持ってこさせてぶつけて潰せ！って言ってたりね。



たら、ストレッチャーを持ってこさせてぶつけて潰せ！って言ってたりね。

西澤先生：

昔の蛇腹のエレベーター？

柴田先生：

そうです。昔の本館のね。私が育ったのは、昔の整形外科の病棟なんです。斧出先生がお世話になった林先生の、ちょうど麻酔から帰ってこられて、豊島先生と親父二人で手術をしてくれたんです。



けど、その頃は金属で縫うのがはやっててね、抜糸を忘れて未だにそれが残ってます。そのうちに私が自衛隊に行って、防衛医大に行って。

西澤先生：

お父さんが開業されたのはいつ？

柴田先生：

私が高校の時ですね。

斧出先生：

林先生の時代に、お父さんを手伝いに行ったことがありますよ。手袋して、手術するじゃないですか。最初の手術が終わった後、術着も手袋もそのまま、たばこを吸われてました。次の手術には、手袋の部分だけ、超音波洗浄機につけて洗浄後、そのまま次の手術に入られてましたよ。

柴田先生：

当時はそれで正しかったけど、今の基準では何してるんだって感じですよ。市大の研修医になるための面接を受けに行ったときは、教授が5人ほど並んで、何を質問されるのかと思ったら、「銃を撃ったことがありますか？」って聞かれました。つまり、

防衛医大にいたから、聞かれたんですよね。もちろん撃ったことありましたけどね。

天野先生：

お父さん文化人だったよね、太鼓の人呼んできたりとか。昔の話ですけど、顔が広いとか余裕があるとか。就任パーティで連獅子やったん覚えてない？歌舞伎役者、尺八の人呼んで。医局の70周年で人形浄瑠璃をやったみたいなのではなくて、途中でやったから何が何だか分からなくなって。それはそれで混沌とした感じで良かったけどね。

西澤先生：

開業の経緯は？

柴田先生：

親父が済生会中津の部長を15年やってて、給料があまりにも安かったのが、怒って開業した。当時水野先生がお酒を飲まなかったのがジュースを出していたが、親父がお酒を混ぜて提供したら、帰り道で具合が悪くなって、救急車を呼んで結局病院に戻ってきたって言う（笑）



西澤先生：

そしたら、済生会中津をやめはるときに、もう今の原型を作って開業されたんですね。有床診療所として。先生はいつ開業されたのですか？

柴田先生：

しらんまに・・・

西澤先生：

じゃあ途中はお二人でやってたんですか？

柴田先生：

プラスアルファでやってました。



西澤先生：

ちょっとずつ親父さんから譲り受けていった？

柴田先生：

そうですね。

西澤先生：

それでは次は妻鹿先生に注目！

妻鹿先生：

妻鹿整形外科の妻鹿です。うちの父の病院を継いで、父が亡くなってもう6～7年になると思いますが、それまでに外来を2002年くらいから週1回手伝って、その頃はまだ姉もいて、家でやってたんですけども、いつかは開業しなければならぬと思っていて、内科、整形外科、リハビリテーション科でした。

うちの父がやっていたので、絶対に規模を縮小しない、というのを決めてたんですけども、やっぱり病院だけは、どうしてもコストがかかりますので。50年以上有床診療所でした。うちの父が開業したのは俺が4歳の頃だったんです。だから56年前ですね。父は子煩悩だったので、日曜日は遊びに連れて行ってってくれてたんですけど。有床診療所なので、昼はご飯食べに帰ってくるんですね。だから朝「行っ



てらっしゃい」夜に「お帰りなさい」と挨拶するのに違和感を感じていました。診療所と自宅が一緒だったのでね。家で働いている、というイメージが最初だったんです。診察している親父と、家でゴロゴロしている親父にすごくギャップがあって。働いている親父は、ハッキリ言って格好良かったんです。それは現実で、テキパキしてて、スタッフに指示を出しているのが格好良かった。でも休みの日にはゴロゴロしかしてないし、ギャップがあるなと思ってました。幼稚園の頃は見ててもなんとも思わなかったのですが、小学生になった頃から「お！」と思ってました。高学年、中学生になる頃には格好良さに気づき始めてました。

中学校では、医学部に行けとは言われてなかったし、自分もそんなつもりはなかった。高校生になっても、医学部なんか行くもんかと思ってた。

西澤先生：

先生の家族構成は？

妻鹿先生：

3歳違いの姉がいました。

私は姉の方が優秀だと思ってたんです。緻密で記憶力が良くて、父の血を引いているのは姉だと思っていました。当然姉は自然と医学部に行く気配を示していたし、一浪して医学部に行きました。昭和45~6年の入学ですね。

結局医学部には行きました。本当は、工学部で核融合炉の勉強をしたかったんです。普通の原子炉じゃなくて、核融合炉って格好良いじゃないですか。そしたら、ある先生に「医学部には行きません」といったら「医学部に行けるように勉強だけしておいたら？」と言われたんです。「とりあえず医学部に行つて、イヤだったら学部転換したらいいんですよ」と。



妻鹿先生：

でもその通りなんですよ。それで、関東の大学中心に受けてて、近大は補欠だったんですよ。それでラッキーと思って関東の大学に合格したって報告したら、「関東には行かせられへん！」って言われて。近大には姉が行ってるんだから、一緒に行けど。

実際、医者になれて良かったと思ってるんですよ。やりがいは絶対あるし。でも今の整形外科って、しいたげられてる気がするんですよ。こんなに働いているのに。

でも患者さんから「ありがとう良くなったよ」と言われることだけを励みに頑張ってるんです。



西澤先生：

開業のきっかけは？

妻鹿先生：

選択肢がそれしかなかったんです。開業当時は、父はまだ引退していなかったんです。当時の父は結構アルコールも飲む方でしたが、それでも朝起きてきたら仕事するぞ！と。昭和1桁生まれの先生は、自分の寿命をすり減らしてでも働こうという意欲の人が多いですよね。すごく真面目というか。

秋野先生：

ある先生なんかは、患者さんが来すぎて、診察が終わったら立ち上がれない、食事もとれないくらい疲労している、なんてことがあったらしい。開業と同時に流行りすぎてそうなったんだそうです。

妻鹿先生：

うちの姉は46で亡くなりまして、リポーマ（悪性脂肪腫）だったことを知ってましたので、いずれ開業しないといけないだろう、ということは分かってたんです。



姉とはあまり仲良く無かったので口を聞いてなかったんですが、父の面倒は姉が見ていたこともあり、ある日「次はあんたがお父さんの面倒みるんやで」と言われたんですね。そのときに、開業の覚悟はしました。

外来は難しかったけど、診療科目は減らしたくなかった。皮膚科はしんどいんですけどね。継がないと行けないというプレッシャーはかなりありました。

秋野先生：

勤務医から開業医になって、整形外科で不満な点がありますか？

妻鹿先生：

勤務医の時は朝から晩までみんなめちゃくちゃ働いていた。

天野先生：

では次は伊藤先生！

伊藤先生：

うちの母は、私が医者になったとき凄く嬉しかったんですね。なぜそう思ったかというと、谷町線の関目高殿駅が近くにあるんですけど、その駅のホームに看板があって、最初は院長伊藤成幸だけかいて



たんです。そこに私の名前が、「副院長 伊藤智康」って出たんですね。自分では気がついてなかったんですけど、当時研修医で働いていた城北市民病院の看護師さんから、先生副院長になったんですか？って言われて気づきました。母が出稿していたようで、嬉しかったんだと気づきました。

私は小中と公立で、それから、できが悪かったので（笑）川崎に。

小さいときから、患者さんとかから、将来医者になるんでしょって言われ続けてたんです。

反抗期もあったか無かったかわからないくらい



だったんです。

そういえば一時期凄く太ってたんですが、保険に入らないと行けなくなったときに、痩せない保険が高くなる、というのがあったんです。そのときに結構痩せましたね。3kgで良かったのに、15kgぐらい（笑）。痩せだしたらね、楽しくなるんです。1ヶ月に1kgずつ痩せていきました。

天野先生：

私は1週間で4kg痩せたけど、ご飯を食べないようにしたから、体には悪かった。患者さんにつらく当たるようになったから、みんなから先生やめてください、って言われました（笑）

伊藤先生：

最終的に59.何キロかで落ち着きました。ちょっとガリガリになりました。

天野先生：

痩せると、あの俳優に似てるよね・・・メルギブソン。

伊藤先生：

それまゆげだけ見て言ってるでしょう（笑）

開業する前は、十三市民病院で機嫌良く働いていたんですが、ちょっと出来事があって。40歳の時に突然電話がありました。うちの父はロータリークラブに入ってたんですが、会長をすることになり、忙しくなるので、帰ってきて欲しいと。ちょうどそのタイミングで、十三からも転勤の話が出てたんですね。それならちょうど良いと開業したんです。

秋野先生：

継承するなかでやりにくかったことは？

伊藤先生：

開業当初は、2診で別々でやってたんです。父もフルタイムでした。85歳ぐらいまでは、やってたはずですよ。

天野先生：

大先生と若先生の2人体制は何年ぐらいやったの？

伊藤先生：

15年ぐらいになりますかね。

2診にして患者を分けると、嫌な部分が見えにくくなったりしますよね。やっぱりたまにね、患者さんが父の方から私の所に流れてくると、「え？この治療ですか？」みたいなね、そういうのが積み重なると、嫌になってたかもしれません。2人でしていれば、お互い聞けるところは聞けますし、苦労では無かったんです。



天野先生：

ありがとうございます

斧出先生：

ちょっと僕お話しして良いですか？

市整会に思い入れがあるんです。大学卒業して3年目に、林病院に行ったんです。林病院の院長林敏夫先生が、市整会を作る活動をしてはったんです。それで、「今から飲みに行くからついてこい」といわれてついて行ったら、柴田先生のお父さんがいたんです。そこでワイワイ飲んで帰る、そういうことを繰り返してたんです。

結局、そのとき市整会の立ち上げの話をしてはって、市整会の最初の頃の慰安旅行ね、山代温泉どこかだったんですよ。そのときにね、「おまえもついてこい、連れて行ったらわ」って言ってね。ついて行ったんです。そうしたらね、先生方の遊び方の上手なこと。ああいう所だから、宴会場で女性が踊りを踊ったりするわけです。その時のチップの渡し方なんかが粋でね、当たり前のようにしてたんです。



こんな遊び方をされるんだとびっくりしたんですよ。でもね、そのときに木下先生のお父さん、宮内先生のお父さん、林先生の3人に囲まれて、「お前な、整形外科というのはこういうもんなんやで」ってご指導を受けたんです。それがね、今でも頭に残ってるんです。

そういう記憶もあって、研修が終わって自分が開業したとき、市整会の昔の話が出るじゃ無いですか、その時、僕は勤務医だったけどちょっとだけ関わってたので、凄く懐かしい思いが今でもあります。

西澤先生：

これを座談会の記事に起こすのは、わりと文章を丸くしないと難しそうですね（笑）

柴田先生：

あの頃は先生気を遣って、横浜市立大学まで電話をかけて、「市整会」という名前を使って良いです



かって確認とってましたよね。

斧出先生：

そうそう、その話は長田先生から聞いたことがありますよ。日本には市立で整形がある大学が3つあって、一つが大阪なんです。残るは横浜と名古屋。各大学の医局に電話して医局長に直接聞いて了解をもらったらしいです。

天野先生：

ありがとうございます。それではそろそろ締めましょうか。

馬野先生：

今日は2世の先生方3人お集まりいただきありがとうございました。貴重なお話がいただけました。良い会誌になればと思います。50周年の企画もこの座談会が最後だと思いますので、よろしくお願いします。







Ⅲ - 市整会五十周年
記念式典・祝賀会



会長挨拶：市整会会長 西澤 徹 先生



大阪公立大学大学院医学研究科整形外科学 教授
中村 博亮 先生のご祝辞を、
准教授 寺井 秀富 先生が代読



来賓挨拶：同門会会長 佐々木 健陽 先生



功劳者表彰：
会長歴任者
天野 祐一 先生



来賓挨拶：勤務医会会長 日高 典昭 先生



特別功劳者へ花束贈呈
柳井 尚浩 先生



特別功劳者へ花束贈呈
斧出 安弘 先生



特別功劳者へ花束贈呈
宮脇 裕二 先生



特別功劳者へ花束贈呈
長濱 信一 先生



感謝状の贈呈：天野 祐一 先生、斧出 安弘 先生、宮脇 裕二 先生、柳井 尚浩 先生、長濱 信一 先生



感謝状の贈呈：天野 祐一 先生



感謝状の贈呈：斧出 安弘 先生



感謝状の贈呈：宮脇 裕二 先生



感謝状の贈呈：柳井 尚浩 先生



感謝状の贈呈：長濱 信一 先生



花束の贈呈：天野 祐一 先生、斧出 安弘 先生、宮脇 裕二 先生、柳井 尚浩 先生、長濱 信一 先生



花束の贈呈：天野 祐一 先生



花束の贈呈：天野 祐一先生、斧出 安弘先生、宮脇 裕二先生、柳井 尚浩先生、長濱 信一先生



歴代会長に花束贈呈：鳴嶋 真人先生



歴代副会長に花束贈呈：安田 浩成先生



歴代副会長に花束贈呈：増田 博先生



歴代副会長に花束贈呈：馬野 隆信先生



功労者に花束贈呈：森川 献志漢先生



式典閉会の辞
市整会副会長
増田 博先生



祝宴開会の挨拶：竹中 稔幸 先生



乾杯のご発声：石崎 嘉昭 先生



プレゼンター：西澤 徹 会長



2世の先生：柴田 和弥 先生



2世の先生：木下 裕介 先生



2世の先生：伊藤 智康 先生



新入会の先生方のご紹介



新入会：禱 史明 先生



新入会：鳥飼 大剛 先生



新入会：久保 卓也 先生



新入会：曾我部 祐輔 先生



新入会：恵木 丈 先生



新入会：渡辺 享永 先生



新入会：水沢 慶一 先生

当日のスライドをご紹介します

市整会50周年

「世紀を超えて発展と新生」



市整会（旧大阪市立大学整形外科開業医会）は1972年に31名の先生方を中心となって発足した。



市整会発起人の31名の先生方

上田寿夫先生、菅井寛先生、広谷巖先生、海原正治先生、伊藤正孝先生、大村清一先生、安積和夫先生、杉田進治先生、松尾澄正先生、有馬英之先生、和田忍先生、牧野光男先生、岩津昭先生、有馬清徳先生、木股泰晴先生、林敏夫先生、吉田正和先生、小林受次郎先生、小寺大平先生、妻藤利純先生、高内真先生、吉田洋先生、高井善邦先生、竹村永先生、反田寛之先生、柳富修先生、上原剛夫先生、小田部郎先生、勝原薫先生、柴田良男先生、上田豊弘先生、越川忠先生。

昭和47年11月26日 あべのエコーホテル 市大整形外科開業医会準備委員会開催
昭和48年5月20日 大成閣（大丸・十合百貨店の間を東へ200米） 第1回開業医会総会



市整会結成の目的

医療技術の研鑽
会員同士の親睦
相互扶助

医療技術の研鑽

- ・4月の総会
- ・年2回の理事会・市整会フォーラム
- ・年2回の学術講演会
- ・秋の学術文化講演会

会員同士の親睦と相互扶助

- ・新年会
- ・家族会
- ・年2回のゴルフコンペ
- ・年2会の会報発行





2010年11月13日



「諦めなければ夢はかなう -陸上競技人生20年の軌跡-」
大阪ガス株式会社・北京オリンピック400mリレー銀メダリスト 朝原 宣治 氏



フロアーからも熱心な質問が飛び交いました。



藤波辰爾さんは、気さくにサインや写真撮影に応じてくださいました。



2013年10月27日



文化講演 演題『ネバーギブアップ！我がプロレス人生』
講師 プロレスラー 藤波辰爾さん

諮問委員会

会長に指名された先生方による諮問委員会の会議が、総会前や理事会前に、必ず開催されています。



ゴルフコンペ

ゴルフコンペは、市整会メンバーのみの「市整会ゴルフコンペ」と、大学の先生方との対抗戦の「スケルトンゴルフコンペ」が、毎年行われている。



家族会

近隣での、日帰り旅行が、毎年行われている。
 毎年、観光と豪華料理屋さんでの昼食。
 そして、何らかの物作り体験ができる企画がされており、皆さん
 楽しまれている。

2008年10月19日
 現西澤会長ご一家参加



1981年11月 市大整形外科開業医会の旅行

(家族会の始まり)

三国峠での3枚

「黒田晃司先生のメモ」
 上田先生の幹事で熱海へ出かけました。老人会のような旅行でした。



2014年11月9日
 伊賀上野に、たくさんの忍者が出現しました。



1981年11月 市大整形外科開業医会の旅行

「黒田晃司先生のメモ」

上 芦ノ湖畔での昼食 中華料理
 右2枚 熱海の「お宮の松」の前で



可愛い忍者もいましたよ。



2008年10月19日



料亭での豪華な昼食

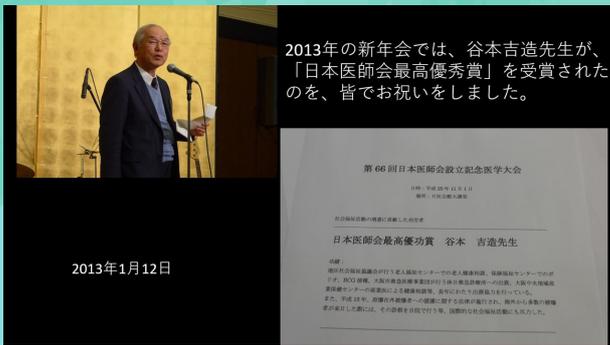




新年会

新年会では、大学の先生方に御講演をしていただき、勉強をした後に、楽しい祝宴を開いている。





周年行事

1992年5月9日に、中之島リーガロイヤルホテル大阪にて、伝説の市整会20周年記念式典並びに祝賀会が開催された。
 それ以後、現在に至るまで、周年行事が5年ごとに開催されています。
 そして、本日の50周年を迎えました。





功労者表彰とレジェンドの先生方への
花束贈呈が行われた。



アトラクションには、元タカラジェンヌの、
仙道果歩さんが出演。天野会長とのデュエット
が、素晴らしかった。



歴代会長の紹介



令和2年の総会で、会長が天野祐一先生から、西澤 徹先生に引き継がれた。その後、コロナ禍で、すべての市整会行事が制限を受ける中、西澤徹会長がWEB会議等で、試行錯誤を繰り返しながら、伝統を守るべく、行事を進めておられます。新入会員を迎えて、これから一致団結して、新しい市整会の形を作り、次の周年を迎えたいと思います。この度の50周年の記念式典の準備には、総務の森川献志漢先生が、孤軍奮闘して、まとめてくれました。ありがとうございました。

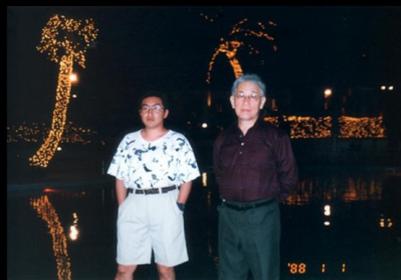
十代会長
西澤 徹先生

二世の先生方から見た、大先輩である
親先生への思いを、語ってもらう。



昭和25年入局 伊藤成幸先生

昭和63年入局 伊藤智康先生



昭和27年入局 木下 孟先生

平成7年入局 木下裕介先生



昭和28年入局 柴田辰男先生

昭和59年入局 柴田和弥先生

平成2年入局 柴田敏弥先生



スライドショーの後は・・・



ジャンケン大会での
秋野 一男 先生、久保 卓也 先生



ジャンケン大会での
秋野 一男 先生、久保 卓也 先生



ジャンケン大会での
天野 祐一 先生



ジャンケン大会での
西澤 徹 会長、天野 祐一 先生



ジャンケン大会での
西澤 徹 会長



50周年記念の
お食事を楽しみながら
ジャンケン大会は進行



ジャンケン大会での会場の様子



アトラクション 高橋リエさん



上條 瑞穂 さん(キーボード)



原 満章 さん(ベース)



遠藤 真理子 さん(サクソ)



高橋 リエ さん(ボーカル)



浜野 明浩 さん(ドラム)





祝宴閉会の挨拶：
市整会副会長 馬野 隆信 先生



整形ソング合唱
(高橋 リエさんと一緒に会員全員で、壇上か座席で)



整形ソング合唱



整形ソング合唱



整形ソング合唱



整形ソング合唱



1テーブル

森川 献志漢 先生、
西澤 徹 先生、西澤 陽子 様、西澤 達也 様
斧出 安弘 先生、斧出 記代子 様



2テーブル

西澤 徹 先生、寺井 秀富 様、日高 典昭 様
石崎 嘉昭 先生、佐々木 健陽 様



3テーブル

許 国広 先生、許 チマ子 様
奥田 好彦 先生、奥田 末子 様
安藤 綾彩 様



4テーブル

鳴嶋 真人 先生
西上 茂樹 先生、西上 弥生 様
黒田 晃司 先生、吉田 研二郎 先生、堀澤 欣弘 先生



5テーブル

古瀬 洋一 先生、古瀬 冨み 様
高山 優 先生、高山 春美 様
長濱 信一 先生、調子 和則 先生



6テーブル

寺川 文彦 先生、寺川 慶子 様
増田 博 先生、増田 圭子 様
柳井 尚浩 先生、柳井 京子 様



7テーブル

馬野 隆信 先生、馬野 靖子 様
喜多 義将 先生
阪本 博史 先生、阪本 知子 様
阪本 祐史 様、柴田 和弥 先生



8テーブル

宮脇 裕二 先生、宮脇 裕子 様
安田 浩成 先生、安田 ゆかり 様



9テーブル

水沢 慶一 先生、恵木 文 先生、
小竹 志郎 先生、禰 史明 先生
曾我部 祐輔 先生



10テーブル

大川 得太郎 先生、大川 元美 様
大川 明美 様、大川 愛美 様
竹中 稔幸 先生、竹中 久美子 様



11テーブル

伊藤 智康 先生、伊藤 晴美 様
藤沢 直史 先生、藤沢 苗 様
荒木 良守 先生、荒木 郁穂美 様



12テーブル

豊川 英樹 先生、豊川 ひろみ 様
岩城 啓好 先生、岩城 信子 様
日下 昌浩 先生、木下 裕介 先生



13テーブル

柳井 亮介 先生、柳井 佳菜 様
増田 淳先生、増田 玲衣 様
馬野 雅之 先生



14テーブル

久保 卓也 先生、飯田 高広 先生
増田 翔 先生、増田 香菜子 様、増田 晴 (5) くん
鳥飼 大剛 先生、曾我部 祐輔 先生



15テーブル

寺川 雅基 先生、寺川 洋子 様、寺川 滉基 (6) くん
増田 博 先生、増田 圭子 様
寺川 文彦 先生、寺川 慶子 様
増田 翔 先生、増田 香菜子 様、増田 晴 (5) くん



16テーブル

櫻庭 亮太 様、櫻庭 裕美 様、櫻庭 世成 (1) くん
秋野 一男 先生、秋野 佳子 様



17テーブル

天野 祐一 先生、天野 証子 様
天野 賢士 先生、天野 達貴 様、天野 裕基 先生
天野 里佳 様、天野 祐人 (3) くん

OSAKA CITY UNIV. ORTHOPEDIC

PRACTITIONER SOCIETY



創立 1972年

市

会

整

市整会50周年祝賀会
～世紀を超えて発展と新生～





IV - 自由投稿



“旭日双光章を受賞して”

生野区医師会会長

谷本 吉造 (昭和 40 年入局)

春は生命のある万物が躍動する時、まさに生きる歓びを謳歌する良い季節であります。40 年入局の谷本吉造です。このたび（2022 年 4 月 29 日）、図らずも旭日双光章と言う叙勲の栄に浴しました。大変おこがましいことであり、身に余る光栄に思っています。かかる榮譽を受けることが出来たのも、偏に大阪府医師会、生野区医師会、大阪市立大学医学部（大阪公立大学医学部）の多くの先生方、友人、知人のご支援、ご指導、ご鞭撻の賜ものであり、そして何よりも家族、親族一同の見守り、支えがあったからだとは今は感無量であります。身の引き締まる思いを致しております。

昭和 46 年に生野区で整形外科を開業して以来 50 年の歳月が経過しましたが、実際は整形内科的なことをやっております。

昭和 56 年 11 月 4 日当時、履物労働者の中で発生したベンゾール中毒で、大阪で 7 名の貼工死亡事件があったのを受けて有志が集って「生野区家内工業従事者の健康実態調査」を大阪府医師会からの研究補助金を頂き、大阪府医師会医学会総会で発表したことがありました。多大の反響を頂きました。

平成 4 年から北摂地区連合第 9 振興町会顧問を務める傍ら、地域の“生野まつり”に毎年、救護班として、ボランティア活動を現在まで 30 年間続けて参りました。

地区医師会活動では社会福祉協議会が行っている老人福祉センターでの老人健康相談の他、保健福祉センターでのポリオ、BCG 接種、また大阪市救急医療事業団が行う休日急病診療所への出務、大阪中央地域産業保健センター依頼の産業医による健康相談などに努めて出務協力を行って参りました。

28 年前の平成 6 年、生野区医師会の理事になった時に学術と学校保健を担当致しておりました。月 1 回の地区医師会学術講演会をやっておりますと、どうしても内科的なテーマが多く、内科の勉強を沢山させられました。整形外科医でありながら内科の勉

強をしているうちに、整形と内科は切っても切り離せないものであることに気が付きました。例えば、骨粗鬆症がしかり、関節リウマチもしかり、整形外科的な治療と内科的な治療がどうしても重なるところがあったということでもあります。

平成 8 年から大阪市東南部地区（大阪赤十字病院院長隠岐先生、内分泌内科武呂先生、大阪警察病院副院長小杉先生、大阪鉄道病院副院長北川先生、NTT 西日本大阪病院内分泌内科部長橋本先生等がメンバー）「糖尿病臨床検討会（糖臨検）」の私も開業医の代表として世話人の一人になり、26 年間務め、今なお糖尿病に対する地域連携を行っております。

平成 30 年 6 月 26 日から生野区医師会会長に就任致しました。

平成 15 年 3 月 1 日原爆被害者のうち、在外被爆者に対する援護施策の一環として、在外被爆者への援護に関する法律が施行され、日本国内で手当て支給の認定を受けた後に出国した被爆者で、手当支給券を有するものに対して、その認定期間内において手当てが支給されるようになりました。海外から多数の被爆者が来日され、被爆者の診察を行い健康管理手当申請に必要な診断書を作成しました。診断書の中身は内科的な知識と整形外科的な知識が求められるものでありました。特に障害の種類、ロコモ（ロコモティブ・シンドローム）、運動器の障害を記載しなければなりませんでした。

平成 17 年 2 月 18 日近畿 2 府 4 県の近畿保健所長会連絡協議会（会長・野尻孝子）が大阪歴史博物館で行われ、当時、大阪市保健所長小西省三郎先生の依頼を受け、「在日外国人と医療」というテーマでの講演を行いました。

私はもとより、浅学非才の身ではありますが、振り返ってみますと以下のような略歴が評価されたものだと思います。

| | | | |
|------------|--|-------|---|
| 職歴・公職歴・免許等 | | 令和1年 | 生野納税貯蓄組合連合会理事 |
| 昭和39年 | 久留米大学医学部卒業 | 令和1年 | 生野区社会福祉協議会理事 |
| | | 令和1年 | 生野区要保護児童対策協議会 (要対協) 委員 |
| 昭和39年 | 大阪市立大学医学部付属病院にて インターン | 令和1年 | 大阪府大阪市東部 保健医療協議会委員 |
| 昭和40年 | 大阪市立大学医学部 整形外科教室入局 | 令和1年 | 生野区老人福祉センター 施設運営委員 |
| 昭和42年 | 愛染橋病院整形外科勤務 | 令和1年 | 生野区民生委員児童委員協議会 委員(民生委員推薦委員会) |
| 昭和46年 | 大阪市立大学医学部整形外科 教室にて学位取得(医学博士) | 令和1年 | 大阪警察病院地域医療支援病院 運営委員 |
| 昭和46年 | 谷本医院開設 | 令和1年 | 大手前病院地域医療支援病院 運営委員 |
| 平成2年 | 大阪市立生野養護学校 内科校医(大阪府立生野支援学校) | 令和1年 | 大阪府医師会保健医療センター 運営委員 |
| 平成5年 | 大阪市立北巽小学校内科校医 | 令和2年 | 社会福祉法人「いわき学園」理事 |
| 平成6年 | 社団法人生野区医師会理事 | 昭和40年 | 第38回医師国家試験合格 免許番号第483796号 |
| 平成8年 | 生野区学校保健協議会副会長 (学校医部会) | 昭和58年 | 日本整形外科学会専門医 登録番号第104938号 |
| 平成8年 | 大阪市学校保健会代議員、理事 | 平成3年 | 日本医師会認定産業医 登録番号第9010258号 |
| 平成8年 | 大阪府内科医会評議員、推薦医 | 平成3年 | 日本内科学会認定内科医 認定番号第73573号 |
| 平成12年 | 大阪府医師会代議員 | 平成4年 | 日本医師会認定健康スポーツ医 登録番号第9103599号 |
| 平成12年 | 大阪市立生野工業高等学校 内科校医 | 平成8年 | 日本臨床内科医会専門医 認定番号95-27-077 |
| 平成14年 | 社団法人生野医区医師会副会長 | 平成13年 | 日本リュウマチ財団リュウマチ登録医 登録番号第5532号 |
| 平成15年 | 大阪市介護認定審査会委員 (生野区介護認定審査委員 連絡協議会代表) | 平成15年 | 日本整形外科学会リュウマチ医 認定番号5195 |
| 平成16年 | 核戦争防止国際医師会議(IPPNW) 大阪府支部委員 | 平成18年 | 日本糖尿病学会会員 会員番号311697 |
| 平成18年 | 社会福祉法人「いわき学園」嘱託医 | 平成22年 | 厚生労働省のかかりつけ医 認知症対応力向上研修を修了 第000391号 |
| 平成18年 | 大阪市障害程度区分認定審査会 認定審査会委員 | 平成25年 | 日本糖尿病協会療養指導医 |
| 平成22年 | 社団法人日本医師会予備代議員 | 平成30年 | 「日医かかりつけ医機能研修制度」 大阪府医師会認定かかりつけ医 |
| 平成23年 | 大阪府立勝山高等学校産業医 | 平成31年 | 大阪府医師会指定学校医 認定番号0400326 |
| 平成23年 | 大阪市立大池中学校産業医 | | |
| 平成23年 | 大阪市立中川小学校産業医 | | |
| 平成26年 | 大阪府医師信用組合理事 | | |
| 平成28年 | 大阪府医師信用組合監事 | | |
| 平成30年 | 生野区医師会長就任 | | |
| 令和2年 | 生野区社会福祉協議会産業医 | | |
| 令和1年 | 大阪府医師政治連盟執行委員、 地区支部長 | | |
| 令和1年 | 大阪府医師協同組合総代 | | |
| 令和1年 | 大阪府医師国民健康保険組合会委員 | | |
| 令和1年 | 大阪市医師会連合会正委員 | | |
| 令和1年 | 生野納税医会理事 | | |

賞 罰

| | | | |
|---------|---|---------|--|
| 平成 14 年 | 生野区学校保健協議会常任理事及び副会長、長年の功績に対して生野区学校保健協議会会長の感謝状受賞 | 平成 25 年 | 生野区学校保健協議会相談役、長年の功績に対し生野区学校保健協議会会長、生野区長の感謝状受賞 |
| 平成 22 年 | 公衆衛生向上に尽力した功績で大阪府知事の医学功労賞を受賞 | 平成 25 年 | 社会福祉活動の推進に貢献した功労者で日本医師会最高優功賞受賞 |
| 平成 22 年 | 大阪府医師会代議員 10 年以上の功績に対し大阪府医師会会長の感謝状受賞 | 平成 29 年 | 地域のかかりつけ医としての赤ひげ大賞感謝状受賞 |
| 平成 23 年 | 特別優良自動車運転者(緑十字銅賞) 受賞 | 令和 2 年 | 日本臨床内科医会地域医療功労賞受賞 |
| 平成 23 年 | 特別優良自動車運転者表彰(特別優良) | 令和 2 年 | 大阪府医師会代議員 20 年以上の功績に対し大阪府医師会会長の感謝状受賞 |
| | 大阪府警察本部長賞受賞 | 令和 3 年 | 大阪市民表彰受賞 |
| 平成 23 年 | 学校医として学校保健向上に尽力した功績で大阪市長賞受賞 | 令和 4 年 | 旭日双光章受賞 |
| | | | 今後とも市整会の会員としての誇りを持ち、地域医療、社会福祉活動の推進に微力ながら尽力して参りたいと思っています。 |





開業25周年を迎えて

吉田 研二郎 (昭和51年入局)

市整会50周年おめでとうございます。私は1996年に阿倍野阪南町でクリニックを開業し本年度で25周年超え、さらにオックスフォード型UKA日本並びに当院導入20周年になる。開業して4半世紀を振り返ってみた。

昔宴会で借りたことがある共済会館阪南荘がビルに建て替わって、その向い側のビル一階を借りて開業した、現在はその斜め向かいの土地を手に入れて自社ビル開業をしている。整形外科医としては膝を中心にトレーニングしてきたので、当初から外来で膝関節鏡検査のできる施設とした。開業資金を借りるために銀行でお金を借りることも開業準備の事務作業などは奥さんに任せきりで、開業の施設もできるまで細かいことは碌に知らずじまいで未だに呆れられている。手術室は水回りを整えて少々水がこぼれても問題ない10畳ほどの部屋に手術台や无影灯を設置して、緊急用にと全身麻酔の器械や心電図モニターを揃えたりした。このころの整形外科開業はなるべくリハビリスペースを広くとって沢山の患者さんにサービスし外来患者数をこなす。手術室を作った分リハビリスペースが減り人の流れに限られるので、怪しげな開業コンサルタントには疑問視された。イメージも中古で揃えた、透視下に骨折の整復や創外固定もするつもりでもいたが1人では手が回らない。今では日帰り手術が一般化しているのでそれほど異常な状況ではないかもしれない。奈良の藤沢先生が午前中に腰椎麻酔をして患者は昼過ぎまで休んで帰る外来関節鏡をしているという噂も聞いてはいたが、外来での局所麻酔の関節鏡は病院で随分やって来たので基本は局所麻酔ですることにした。初めのころは全身麻酔をして肩の関節鏡も試みはしたが、麻酔管理が不十分になるので関節鏡は局所麻酔に局限して行うようになっていった。ビデオカメラを2台準備して薬液滅菌しながら始めたが、一日6関節ほどの症例に対応するためにはビデオカ

メラ3台をオートクレーブして対応した。半月板縫合は縫合材料や手技が洗練されていなく限界を感じながら行っていたが、いまでは息子の代になって円板状半月板の形成やら半月板縫合も日常的に行うようになっている。息子はいろんなところに習いに行っていて新しいテクニックを身に着けてきているので自己流の自分よりエレガントにやっていると感じて今はすべて関節鏡を任している。

変形性関節症の変性半月に関節鏡を適応が多くなると、軟骨の摩耗が経年的に増えていくことや後角損傷に続発する骨壊死などの急速な進行などを合併することになり、勢いサルベージ手術が必要となる。もともと人工膝関節を中心に変形性膝関節症に対する手術を中心にしてきたこともあり開業後も適応することが多く、全置換型のみならず単顆に局限した変形性関節症に対しては片側置換型を適応していた。

膝の痛みを訴える高齢の患者を最初から診るようになると、半月板症状で始まって内側型の変形が進行していくことが多い。保存療法で始めるが治療の予後や効果を予測して関節鏡や手術による介入を最もいいタイミングで行うことが患者にとって有用である。当初はMRIの解像度も高くなく関節軟骨の変性の状態なども十分把握できなかったが、関節鏡で早期に診断することで、治療方針を確実にこなうことができる。今ではMRIも高精度になり関節軟骨の小さな損傷も画像化できるようになって症状と関節の画像を関連付けることが容易になっているので、保存療法での対応も十分説明できるし、勢い関節鏡は保存療法で軽快しない半月板症状の強いものに限られてくる。

1998年にオックスフォード型単顆型置換術(UKA Oxford)の10年成績が報告され、前内側型変形性関節症に対して98%の10年生存率が得られ、しかも6センチの小さな皮膚切開で可能になった。2000年

にJBJSのBIOMETの広告があったのでEmailしたところ2002年に日本でもこのUKA Oxfordを導入する予定との返事をもらった。オックスフォード型人工関節は1976年に開発され1980年には日本にも導入されて東大のグループで使われ始め、私も社会医療センターに勤務していた1980年ころにフェーズ1型を1関節に適応した。残念ながら酒を飲んでしゃがみこんだ時にベアリングの脱転が生じたとの報告を受けて以来モバイル型を行わずFIX型を少数に適応してきた。2002年に導入されたUKA Oxford フェーズ3型では靭帯緊張度の調整も洗練され、伸展から深屈曲まで靭帯の緊張度を正確に調整できるので正座時でもベアリングが安定すると期待できた。現在用いられているマイクロプラスチックの手術器具と異なり設置角度等が調整可能で、大腿骨コンポーネントを少し屈曲して日本人の深屈曲での生活スタイルに合わせる工夫ができた。2002年度は60関節程度に、その後、適応を増やし2005年以降では年約150関節に適応するようになった。本年2022年で20周年になり約3000関節に対して私個人で適応してきた。17年目での再置換をエンドポイントとしたとき生存率は約95%で、片側置換型は10年程度でトラブルが多くなって再置換に明け暮れるということにはなっていない。日本の生活では正座や深い屈曲が必要な場合もあり、ベアリングの脱転が心配されるが、手術器械の改良と手術精度が向上し最近ほとんど見られなくなっている。高位脛骨骨切り術も当初行っていたが、片側置換が安定した成績で長期にわたり問題なく経過することが分かってきてほとんど適応していない。変形性膝関節症で内側の関節裂隙がストレス下で消失している場合、現在でも60%から70%にUKA Oxfordを適応し、前十字靭帯の存在しないものにCR型TKAを適応している。近頃は前十字靭帯が存在すればできるだけ靭帯機能を温存するために両顆部ともに置換するBiUKAや十字靭帯を温存するTKAを行うようにしている。

人工関節手術のできるクリーンルームを備えた病院として森本病院と阪堺病院にお願いして木曜午後と土曜日の午後に人工関節を中心に手術させてもらっていた。術後の処置などはレジデントの先生にお任せしていることになり良く面倒をみていただいていた。火曜日を関節鏡日として、入院の必要な場

合はこの2つの病院に振り分けて対応していた。米国では町にオフィスがありそこで外来患者を診て手術の適応や説明をして、契約した病院のスタッフと施設を借りて手術する。手術した後は速やかに退院して、地区の訪問リハビリや施設でトレーニングして時に外来で経過を見る。イギリスのプライベートやオーストラリアでも同じような形式の整形外科開業が普通だったが、日本ではなかなかドライに契約関係で患者を預けるわけにもいかず、同門関係で先輩後輩の関係で預かってもらって雑多のことばかり押し付けることがあった。当初は顔のよく知った先生方に頼っていたので問題がなかったと期待しているが、年を取るにつれて若い先生方にとってはほこのおっさんが大きな顔をしてという面があったに違いない。

医療の提供はガイドラインに沿って決められた手順で行って、開業医も保険診療の枠組みの中で制限され画一化された治療を行うようになっている。自由に患者が医師にアクセスして治療を選択して適正な治療を受けることができるのが我が国のよいところと思っていたが、医者の方も自分の専門性をもって診療していくより階層化した医療システムの中の入り口の役目を開業医がもつように限局されていくようだ。大学で専門医としてのトレーニングを受けてその能力を発揮できる場所が開業ではなくなっているのは確実だ。アメリカの整形外科専門医は2500人程度で日本の専門医とずいぶん異なっている。市中にオフィスをもって主に紹介患者を診て大学や関連の病院で手術などの専門的な処置をする。同じように開業できるのかなど期待したが、実際はプライマリーの診療が中心で一から患者を診療する。膝が痛い患者は保存的に経過を見て手に負えなくなったら次の階層に受け渡す入口の位置づけである。自分の手を離れるが手術が必要かどうかを判断するのはあくまで次の階層で行う。保存療法から手術までをシームレスにするためには最適な治療が手術でかつ手術に精通しているのが自分である必要がある。再生医療も必要だし、関節鏡もする、手術も片側、両片側、BCR、CR、PSと必要に応じて治療を選択していく。こんな形式を階層化した治療システムでは選択されない、紹介患者は人工関節の適応が確実になる段階でしか紹介されないからだ。大病院に専門的な治療を集約して効率と適正化を図る流れはなかなか抗えないだろうが、それぞれの医師がアイデンティティーをもって対応していく必要がある。そのためには柔軟な医療体制で患者も医師も余裕が必要だろう。

ネットなどで医療の情報が容易にアクセスできるようになってきて、必ずしも治療も階層的に準備する必要はなくいろいろな治療に同時にアクセスできるようなシステムが望ましいのではないか。

市整会50周年とのことで、私も開業25周年を超え四半世紀開業医として働いてきたので少し振り返ってみた。70歳を過ぎて幸いなことに息子が引き継いでいってくれて出番はへらしている。今日は手術で送った病院がコロナのため手術ができなくなってさらに 暇になってしまったのでこの書き物で過ごしている。私もちょっと喉が痛いような気がするが特にしんどいわけでもない、PCRなんかやるだけ損なのでこのままそっと黙って過ごすつもりだ。





勤務医から開業医になって 22 年

林 正樹 (昭和 51 年入局)

昭和49年大阪市立大学卒業。昭和51年入局。昭和49年6月研修医開始。当時の医局長は石田俊武先生。2年間の研修期間に国立大阪病院の整形外科3か月。国立大阪の麻酔科4か月。大阪府立身体障害者センター3か月。大阪社会医療センター3か月。残りは大学の研修医としてのローテーション。大学の3か月研修が医者としてのスタートでした。大学整形外科の最初の患者さんは、当時東館に入院していた大腿骨骨腫瘍の小学高学年の少女。当時は、石田俊武先生が医局長且つ主治医で大腿動脈にチューブを患部近くに挿入し、化学療法製剤（3種類の名前は忘れましたが時間が来ると薬液を器械で注入）を行なう（期間も忘れましたが）が大腿部切断。大腿義足歩行させる患者さん。しかし、5年生存率は悪かったように思います。

今でも石田先生が口癖のようによく言われていたことは、「良性骨腫瘍の中で骨端線を超えていく腫瘍は、Giant cell tumorとBenign chondroblastomaの2種類しかない。よく覚えておくように。」今でも石田先生覚えていますよ。

昭和51年4月～昭和55年3月まで大阪市立大学医学部大学院時代は、廣橋賢次先生にみっちり「学問は何ぞや、学問をやる心構え」等厳しく教えられました。先生より与えられたテーマはPerthes病類似の病変を起こすため、幼弱犬に大腿骨を外転・内旋・伸展にギプスを24時間巻いた後、大腿骨頭に起こる骨頭壊死の修復過程を経時的にX線学的・病理学的・核医学(Tc99MDP)的に観察し論文にまとめました。

昭和55年4月から昭和60年3月まで大阪市立北市民病院に勤務。昭和55年4月はこの病院が新装され常勤の整形外科医が初めて赴任した時です。月曜日から土曜日まで毎日外来。外来は午後2時ごろまでかかり、其のあとは病棟回診。整形に割り当てられた入院患者数は8名。毎日が超多忙でしたが当時のスタッフに随分お世話になりました。昭和55

年7月からは大学から岡島幹雄先生が赴任。翌年の4月までは2人体制の整形外科でした。昭和57年4月までは外科の先生が麻酔医となって手術を手伝ってもらいました。今では時効でしょうが、岡島先生が、淀川キリスト教病院の内反足患者を連れてきてposteromedial release(achilles腱を踵骨から外し talo-crular jointとsubtalar jointの関節包を切離・その後tibial posterior tendonとachilles腱を延長して縫合)。矯正ギプスは足部は外反・回外位で大腿部は膝90度に矯正ギプスにして翌朝退院。

岡島先生が自分宛てに北市民病院に紹介状を書いて、手術翌日には淀キリに返す。昭和57年4月以降は、大学から常勤の麻酔医が赴任していました。先生貴重な手術を多数見せていただきありがとうございました。

詰所の宴会は、宴たけなわの時に岡島先生と必ず歌うのが整形ソング。2人で声張り上げて歌ったのは懐かしい思い出です。岡島先生がコロナ手術について歌の途中でも看護婦さんに（いや今では看護師さんに）解説入りで説明をしていました。

昭和40年代半ば施行したTHAのrevision・tri-revisionの症例が多数あり貴重な経験をさせてもらいました。

当時所長の坂井和夫先生にはあちこちのゴルフ場にご一緒させていただき楽しい思い出がいっぱいありすぎて、中々書きつくせません。握りには悉く負けたのもいい思い出です。最後の勤務地は大阪市立住吉市民病院整形外科です。昭和63年4月島津教授が私のアルバイト先の当直中に（私が、榛骨遠位端骨折を来した患者さんに上腕ギプスを巻いている最中）何の前触れもなく突然現れ、「林君5月から部長職が空いたので住吉に転勤してくれないか。」とのお言葉で有無も言わずOKさせられました。

大阪市立住吉市民病院は、現在では廃院になりましたが大学病院から近くに位置する病院でもあり、島

津教授、石田俊武先生、松田英雄先生が大学の症例を持ってきて手術場をにぎわしてくれました。また遠くは泉大津の楯憲一郎先生から手術適応の症例を多数お送りいただき大変感謝しております。

当時は南港の患者さんは、医療過疎地域であったこともあり住吉市民病院に来院されるケースが多く手術症例は豊富にありました。

後輩の大草先生、柳井先生いずれの先生も松田英雄先生に頸椎の手術に立ち会っていたこともあり、今まで脊椎関係の手術経験少ない私が頸椎前方固定術（10数例）、及び黒川式後方拡大術(10数例)を執刀したこと、腰椎は主に脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアを多数経験させていただきました。

現在は勤務医から足を洗って、住吉区南海高野線沢ノ町駅より徒歩8分。現在の整形外科・リュウマチ科・ル、ビリテーション科を標榜。2001年（平成13年）5月連休明けに林整形外科クリニックを開業し今年で22年になります。

開業当初は周りに整形外科がなかったこともあって患者さんが詰めかけてきていただき最初の10年は順調な滑り出しでしたが、令和の時代になり周りに多数競合相手が現れた事、コロナの蔓延が3年以上経過してもいまだに収束していないこともあって患者数は随分減ってしまいました。

ただ幸いなことに、近くに阪和住吉総合病院・阪和病院・地下鉄我孫子駅にあった阪和記念病院が2022年6月に統合して阪和記念病院(当院から徒歩5分)として新規オープンしました。MRIをはじめ3次元CT等の検査も比較的早く行ってくれるので助かっています。高見勝次先生はじめ市大整形外科のスタッフには感謝しております。

いつまで開業医の生活を続けられるかわかりません。最近足腰が弱ったように思います





開業医の方が勤務医より長くなった私

鳴嶋 真人 (昭和 54 年入局)

市整会記念誌には各記念誌にそれぞれ多くの歴史が刻まれています。私は現在 70 歳で古希を迎えます。昔では人生の大きな節目で何かを考えなければならぬ歳でしょうか？ 24 歳で医者になり 2 年間の研修医 4 年間の大学院生活 30 歳で卒業しました。私は今年で医者歴 40 年 15 年間は勤務医、25 年間開業医をしました。ちょうど勤務医より開業医の方が長くなりました。

いずれも患者様第一主義で自らの事は後回しにして、患者対応に追われた 30 年間だった事は確かです。

開業して、診療疾患構成が変わり、整形以外の疾患である内科を始め全般的な基礎知識が要求されるのはもちろんです。

しかし勤務医から開業医を経るに従って、同じ整形疾患を扱っているのに、疾病の考え方が自分の中で変化し治療法が変遷していくのがわかります。自ら驚きを感じる事が多かったように思います。まずその特徴について 3 項目ほど述べたいと思います。

1) 開業医の特徴は、新鮮外傷 (骨折など) の 1 番最初の治療者であり、またその治療ができるということ。

開業当初は、骨折を見て、今まで自分が勤務医時代にそうしてきたように、すぐに手術のできる病院へと紹介していました。

それが早い骨折は整復を上手にすればかなりの骨折は保存療法でいけるということです。つまり骨折の初期治療で十分な整復操作をしていけば、手術をしなくて済む事が多々あるのです。

勤務医時代では、数日して診るために骨折部周囲は腫脹し、血腫は維持化器質化しており、血腫は整復の邪魔となり、十分な整復は得られず、勤務医の所へ来た時点では日数 (時間) が経過しているため、手術をするのです。ゆえに勤務医は送られてきた骨折は、ほとんど手術をする癖がつくのです。勿論、

手術の方が面白いのが勤務医 (研修医) ですから当然でしょう。またギブス固定後のような詳細な経過観察の必要もありません。

開業医では骨折部の血腫が十分形成されない時間に、整復すると驚くほどきれいに整復位が得られるのです。この経験を多くして保存療法の限界を知りたくなりました。保存療法を研鑽することが、開業医の立場であり、本領と思うようになりました。

開業医は外傷の一番最初の治療者であり、保存療法のパイオニア、保存療法の限界への挑戦者なのです。そういう意味で開業医はテクニシャンであり、面白いのです。

(2) 絞扼性末梢神経障害 (Entrapment Neuropathy) です。外来でシビレを訴え、大病院で頭、頸、腰の MRI を受けて異常なしと言われ、見離されたように、愕然となった患者の対応です。

手根管症候群は夜間痛と、母指、示指を中心とするシビレと考えます。

尺骨神経障害 (肘部管症候群) では手全体のシビレなのです。教科書では小指、環指中心のシビレです。しかし、患者は手の全体のシビレを訴えます。

これは手掌内筋 (短母指外転筋以外) ほとんどが尺骨神経支配で、最終が第一背側骨間筋のため、これらの筋肉の動き不全が、これも患者にとってはシビレなのです。だから患者は「指全体 (手全体) がシビレル」と訴えるのです。これは開業して患者の勝ちか、そして医者負けかと思いました。つまり医者は石頭で (これは私の頭 (脳) の話です)、尺骨神経は小指、環指の尺側のシビレと、教科書的既成概念で診ているからです。

足根管症候群の場合も同様です。足趾の趾尖爪を含め、趾の背側までで、足底部神経支配ですので、足の指のシビレもあって当然です。

足根管症候群は、手根管症候群と同じくらい多く

見られ、高齢者ではそれ以上に多い疾患と思いますが、なかなか認知、および周知されていないように思います。足底、足趾のしびれ(時に足関節以下足全体のシビレ)を訴えます。その患者が高齢者であり、外反扁平足が軽度であれば、ほぼ足根管症候群に間違いありません。

他病院で腰のMRIでヘルニアをR/Oされていればなおさらです。(足根管症候群についての詳細は市整会のホームページ参照をお願いします。Entrapment Neuropathyがこんなに多くあるのがわかり、患者に教えられるなあと感じるようになったのは、開業してから5年を過ぎた頃でしょうか？

このように患者のシビレの訴えには脱帽です。「患者！ウソつかない！」患者は教科書以上の存在であり、教科書そのものです。

3) 変形性関節症(変形性膝関節症、変形性股関節症) JCOの機能評価点数とレ線初所見とは一致しません。まして手術適応も開業して変わりました。開業後外来でレ線画像を見て「なんで！ここまで手術をせずに頑張ってきたの？」と考えさせられる症例に多く遭遇するからです。

保存療法の限界はどこにあるのか？今でも分かりません。疼痛を主訴として来院しても、意外と2ヶ月3ヶ月の治療で疼痛が取れるのです。炎症期のステージの問題もありますが、膝の内側関節裂隙の疼痛は半月板の摩耗の問題もありますが、それ以外にも脛骨内顆の軟骨下骨が潜在しているのではないかと推測しております。つまり部分的な疲労骨折です。

MRIの発展により、内反膝を伴うような内側関節裂隙の疼痛のある多くの症例が、MRIで同部の部分的な疲労骨折、骨挫傷であると解明されるのを待ちたいと思います。一時的な免荷、1本杖歩行で1ヶ月も部分免荷していれば治るのです。一は時の杖で充分です。つまり手術はいつするのか？その患者個人のライフスタイル、価値観によって違いますが、3ヶ月必死で治療してきても、満足してもらえない時が手術でしょうか？これが私の今の手術適応の変遷でしょうか。

以上、勤務医より開業医になってからの変化について、自らの経験論的考察です。

開業医は定年はなく、よく言えば一国一城の主(小

さいけれど)です。地域密着型で地域患者と共に歳を重ね喜怒哀楽を共にする事は開業医の最高の至福であります。感謝される事は活力の源となります。

市整会はその愚痴や悩み事を語り合い、共有しあい、明日の力に変換できる場でありたい、創っていきたいと考えています。





お墓の引っ越し

宮脇 裕二 (昭和 55 年入局)

市整会 50 周年おめでとうございます。私が市整会に入会したのは平成 17 年、それから 17 年あまり、市整会広報として 17 年、年 2 回の会報の編集に携わってまいりました。編集者が記事を書く事はあまり好ましくありませんが、当初投稿記事が少なかったのも、仕方なく書いていたのが今まで続いています。もうボツボツ引退しないとイケないのですが、後継者を探しているところです。

おめでたい記念誌に少しふさわしく無い話で恐縮ですが、いつかは必要になってくるお墓の話をしていただきます。

私の父親が宝塚に非常に眺めの良いお墓を建てたのですが、眺めが良いということは、行く時に坂を登らなければなりません。車椅子は無理で母親を父の墓前に連れてゆくことができませんでした。その時に思ったのですが、自分の体力がなくなった時にこの坂は上がれない。運転免許を返納すると、山の上の墓地まで行くのも大変になる。お墓は公共交通機関の便の良いところで、かつフラットであるべしと考えるようになりました。私は長男ですので、お墓を引っ越しすることができるわけですが、自分の体が元気なうちに実行に移す計画を立てました。

昨今の情勢として、大都市への人口の流入や少子高齢化、団塊の世代の死亡者がうなぎ登りに増加してくるため、都市部の墓地の確保が難しくなっています。さらに都市部の地価が上昇してくるため墓地の用地の確保がさらに難しくなりつつあり、それらの理由で墓地の供給不足が言われてきています。

さて、一般的な話として考えると、自分が死んだ場合、先祖代々のお墓、これは多くの場合地方、あるいは今の住所からかなり離れた場所、に入るか、自分以降が入る墓を新た建てるか、散骨して、風とともに去るか辺りでしょうか。

先祖代々のお墓をこちらへ持ってくるのは、大変ですが可能です。これを改葬といいます。この場合、

菩提寺の檀家との関係を維持したままで行くか、縁を切る、つまり離檀、かになるわけです。檀家を離れる場合、後でもめないように親族間の十分な話し合いが必要です。

このように、墓じまいを上手く進めたとして、多くの場合都市部のお墓の方が小さいので、元のお墓をこちらに持ってくるのは困難です。新しくお墓を作る必要があります。

ここからは私の家の改葬にまつわるお墓探しの話をさせていただきます。都市部でのお墓探しとして、まずは納骨堂からお話しさせていただきます。納骨堂は多くの場合、交通の便の良いところにあり、永代供養が可能などところもあります。一口に納骨堂といってもいろいろなタイプのもがあります。まずは、ロッカー型で、読んで字の如くロッカーのようにお骨を入れる納骨壇が並んでいるものを指します。次に、今 TV でも人気の機械搬送型納骨堂です。カードをかざすと墓石と遺骨が、まるで立体駐車場のように出てきてお参りするという極めて近代的なお墓になります。このような納骨堂は気軽に良いのですが、不安要素として、経営母体の宗教法人や民間企業の経営状況が悪化した場合、先行きが見えなくなる可能性がありますので、私どものお墓の移転先として納骨堂は選択肢から外しました。

やはり小さくとも地面に立つお墓を探す方針に決めました。しかし、ここからが苦難の道を歩み始めることとなります。まずはお墓を立てる墓地を探さなければなりません。都市部から離れたところは容易に見つかるのですが、できれば交通の便が良い墓地を探したいところです。墓地として、まずは市立の公営墓地がありますが、原則抽選制で、年に 1 回の募集で、大阪市内の便利なところになりますと抽選は高倍率になりますし、大阪市民でないと資格がありません。つぎにお寺の経営する墓地や霊園ですが、大きな霊園では宗派を問わないというところもあります。たとえば四天王寺とか超有名なところになりますと、1 聖地



開眼式前の墓石は晒しで覆われています

(90X90cm)の価格がべらぼうに高くなります。大阪市内の寺町や有名霊園はどこもある程度の金額を出さないと買えないのが現状です。そのようなことも踏まえて、親族の墓参りが容易な所を選びたいと考え、私は無謀にも最も便利な大阪梅田周辺を探したのです。その結果、有るにはあったのですが、檀家になることが必須条件、しかしそれが私の宗派とは異なるとかで、なかなかうまくいきません。それでも私の家は浄土宗なのですが、浄土宗の檀家条件のお寺の墓地をなんとか見つけることはできました。梅田から徒歩圏なので、1聖地単価の高いのは仕方がないところでしたが、お寺の本堂がビルの中、お墓は外という形態の永続制にやや疑問が生じたために、これも没となりました。

次に目をつけたのが、大阪市内に点在する自治会管理の共同墓地です。こういった墓地は結構交通の便が良い反面、新規の募集は行っていません。それでも墓じまいで時々区画が空くことがあります、こまめに回っていると、そういうラッキーチャンスに巡り合えることがあります。実際、そういう空いた区画があるところを見つけたので交渉したのですが、なかなかよそ者にはお墓を建てさせてもらえません。

ならば、大阪市内は諦めて、地元の西宮で探すこととなりました。西宮も市営の墓地は競争率が高く、

なかなか当たりません。結局地元自治会運営のお墓を探すことになりました。西宮には昔はいくつかの村があって、それぞれの村にお墓、村墓地があり、それが現在も残っています。村墓地は交通の便が非常によく、駅から近いもので2分、遠くても15分くらいの位置にあります。管理が市に移行されたものは市立の墓地となり、新規募集は抽選となりますが、新規募集はほとんどありません。つぎに自治会、その地区の財産区管理の墓地があります。これは申込順で、墓じまいとかで区画が空いたら順番で連絡が来るシステムです。村墓地は自宅の住所が問題で、昔の村の中に含まれる、あるいはごく近隣とかが条件になります。実は大阪のお墓を探さずと前から自治会管理のお墓の申し込みはしていたのですが、大阪のお墓を諦めて待っていると、ついに連絡が来ました。駅から徒歩2分、自宅からも徒歩や自転車ですぐの距離です。公営なので土地の永代使用料も格安です。いいこと尽くめですが、管理が自治会ですので、他に比べると管理がやや甘く、国内の他の地域で起こっている墓石へのいたずらなどが心配なくらいです。

地面が決まったので、あとは墓石の建立です。これはスケジュール通りに行っていけるのであまり心配してはいません。うまくいかなかったら、また第二報を書きます。

以上お墓さがしの苦労話を書かせていただきました。ご参考になればと思います。



我が人生を振り返る

斧出安弘 (昭和 56 年入局)

市整会 50 周年おめでとうございます。2000 年 12 月に開業して、早 22 年の月日が経ちました。実は、今年の 4 月に、胃の内視鏡検査で、胃癌が見つかりました。元々、自覚症状等も全く無く、毎年の血液検査でも、何ら異常ななかったので、安心しておりました。3 月に、たまたま、家内が大腸癌検診で、鮮血が出たので、内視鏡をしてもらうことになり、私もしばらく内視鏡検査を受けていなかったのですが、便乗して検査をもらったところ、家内は、特に何もなかったのですが、私に胃癌が見つかりました。癌と言われた時には、愕然としましたが、見つかった以上、早く治療をしないといけない。そこで、主治医の先生に、無理をお願いして、5 月の連休前に、手術をしていただきました。組織的には、早期癌でしたが、噴門近くだったので、全摘になりました。完全に取れたのと、近隣のリンパ節転移もなく、術後の抗がん剤治療も必要ないとのこと、助かりました。術後の経過は良好で、現在術後 4 ヶ月目ですが、体重は 10 キロ減ったものの、ぼつぼつ元気を取り戻しております。

そんな事があり、この市整会 50 周年を機会に、自分の人生を振り返って見たいと思いました。昭和 56 年に、川崎医大を卒業して、大阪市大の整形外科に入局させていただき、研修医、研究医の課程を過ごしました。大学では、浅田完爾先生、吉田研二郎先生について、関節グループで、勉強させていただきました。卒後 3 年目から延べ 4 年間、豊中にありました豊昌会林病院で、研究医として仕事をさせていただきました。院長の林敏夫先生には、整形外科医としての、心構えから、診療や手術の技術指導をマンツーマンで、教えていただきました。この話は、45 周年の記念誌に書きましたが、その当時、市整会の前身の、大阪市立大学整形外科開業医会を立ち上げる話を、林敏夫先生から聞かされていました。そして、その当時の市整会の旅行にも、

連れて行っていただきました。宴会では、林敏夫先生はじめ、木下孟先生、柴田辰夫先生、宮内貴先生他、先生方に随分かわいがっていただきました。

その後、中村薫先生からご縁をいただき、堺の堺堺病院に 13 年勤務させていただき、2000 年の 12 月に現在の場所で開業しました。開業は、45 才で、医師になってから丁度 20 年経過していました。開業の時に、楠正敬先生に相談に乗っていただいたのですが、その時に、楠先生から、「自分も勤務医 20 年して、開業医 20 年のつもりで開業した。」と言われたことが、今でも印象に残っていますが、すでに開業医の方が長くなってしまいました。これまで、元気に開業できたのは、家内が薬剤師と事務長として、手伝ってくれたのと、近隣の先生方の、おかげと感謝しております。

市整会では、榎本高明先生が会長の時に、阪本邦夫先生が総務をしておられて、勧誘され入会しました。南平克積先生が次期会長になられた時にお電話をいただき、「先生、開業医会の理事になってや!!」と言われて、断ることもできず、了解のお返事をしました。その後、阪本邦夫先生から、また「総務やってな〜。」とお電話をいただき、私の市整会の役員としての仕事が始まりました。その後、阪本邦夫先生が、体調を崩されてから、総務の仕事が全部私に回ってきました。頼功会長と、鳴嶋真人会長の任期の 8 年間、総務として勤めさせていただきました。

総務の仕事は、総会と新年会を仕切るのがメインの仕事と阪本邦夫先生から申し送られたのですが、それ以前に、諮問委員会、理事会の資料作り、新入会員の勧誘から、名簿作り、訃報があった場合の、連絡並びに、葬儀場への献花の手配、会長名での弔電の発送等、ほぼ会長の秘書のような仕事で、大変な仕事でしたが、なんとかこなすことができました。

そして、鳴嶋真人会長の時に、総務に森川献志漢先生に入ってくださいました。現在は、私に変わって、その仕事をすべて引き継いでくれています。彼は、今の市整会にとって、無くてはならない存在になりました。その当時、鳴嶋真人会長に、「先生の功績は、森川先生を立派な総務として育て上げた事や！！」と仰っていただいたことを、今でも忘れません。



さて、ここからは、私の趣味に関してのお話です。川崎医大在学中に始めた空手道ですが、その当時監督で来てくださっていた、大濱正宗家と運命的に出会いました。当時先生は、京都の道場の師範代をされており、倉敷の川崎医大の道場まで、月に一度自腹で、ご指導に来てくださっていました。昭和56年に大学を卒業して、大阪に帰り、卒後3年目に林病院に勤務になった時に、また運動がしたいと言う気持ちで、大濱宗家に相談したところ、「指導に行かせてもらう。」と、お返事をいただき、林病院の中で、クラブとして空手道部ができました。林敏夫先生が、剣道をされており武道にご理解があって、リハビリ室を道場として毎週解放していただきました。私が林病院退職後、近くの豊中市立第一中学の体育館に道場を移して、その後も稽古を続けさせていただきました。その頃から、自分の子供を連れて、



毎週土曜日、豊中まで稽古に向かいました。

昭和62年12月に三段と師範代の免許、平成5年12月に四段と師範免許をいただきました。平成元年に阪堺病院勤務のため、高石市高師浜に、転居していたので、大濱宗家に相談して、平成5年から高石で道場を開きました。娘の幼稚園の同級生の会社が近くにあり、その会社の会議室をお借りすることができました。子供達二人と、娘の同級生、病院に来てくれていた、メーカーのMRさん達も、数名参加してくれて、私の道場がスタートしました。

その後、堺に転居して、近隣の商店会の集会所をお借りして、道場を続けることができました。私が関わった弟子達は、延べで、300名を超えています。その中で、黒帯まで取ってくれたメンバーは、30名程度だと思います。

豊中の道場は、その当時務めていた、林病院のメンバーが師範になり、今現在も豊中で道場を続けてくれています。



私の道場は、自分の子供達が高校を卒業した頃から、メンバーが少なくなり、多いときでも5~6人になりました。数年前から、私を含めて、年配のメンバー数名で、稽古をして、稽古を終えたら、近くで一杯飲むと言うのを恒例にして、楽しんでいたのですが、その頃には、家内に「老人のデイケア状態やね！！」と揶揄されるようになっていました。3年前にコロナの感染症が蔓延し始めて、道場が使えなくなりました。道場さえ使えたら、もう少し頑張れたかもしれないのですが、年齢の事も考えて、道場を閉めることにしました。

19才から始めた空手道ですが、45年間空手道を続けて来ました。私の最終段位は、平成30年12月にいただいた六段でした。

大濱宗家には、空手以外にも、いろいろ人生にお

けるご指導をいただきました。その中に「歳がいったら、文化的な趣味を持たないといけない。」と言



われたことがあります。それで、私は、もともとカメラが好きだったので、写真を撮ろうと思いました。

現在の趣味はと言うと、55才から、スキューバダイビングを始めました。神秘的な海の中は、まさに写真の被写体であふれています。運動と、写真撮影の両方を満喫できるので、すぐにはまってしまいました。主には、沖縄本島や、八重山諸島に行って、潜っております。お正月や、5月の連休には、フィリピンのセブ島や、グアム島、そして夢だったパラオにも行って、ダイビングをしてきたのですが、この2年間は、コロナ禍で外国に行けなくなりました。

そして、この4月に胃がんの全摘をして、どうなることかと思いましたが、主治医の先生にお墨付きをいただいて、夏休みを取って、7月と8月に沖縄本島に行ってきました。最初はひやひやしましたが、なんとか食事等もコントロールする事ができて、ダイビングをする事ができました。この8月に、ダイビングを始めてから11年目で、ようやく200本目のダイビングを達成しました。

開業して5年目に、心房細動を発症し、その後数年間、薬でのコントロールをしていましたが、それが効かなくなって、平成26年に、アブレーションをしていただきました。その後、不整脈は発生することなく、新しい心臓をもらった気持ちになり、何事にも前向きに取り組むことができました。今回も、胃の全摘をしていただき、転移もなく、また新しい命をもらった気持ちです。

今後、診療もダイビングも、後何年できるかわかりませんが、残された人生を、家内と一緒に楽しみたいと思っています。

お世話になっている、市整会には、今後ご迷惑をかけないようにして、微力ながら関わっていけたらいいなど、考えています。今後とも、よろしくお願





NO LIFE NO BIKE

天野祐一（昭和57年入局）

私のバイク歴は長くて小学生の時に田舎のオッチャンのカブを触っていて自動遠心クラッチで動き始めて慌てたり、当時珍しかった近所の睦王の巨大で豪華なシートを憧れて見ていたりのバイクに興味のある子供でした。昭和40年代は高度成長に伴ってレジャーブームの到来でオートバイの生産も増えテレビの宣伝も色々有りました。記憶に残っているのはホンダのCMで♪～君に分かるはずがない、行ったことが無けりゃ～♪というフレーズで青空をバックに多分CB250に乗った青年が走るシーンです。（ググったらu-Tubeで出てきます、便利ですね）また、ホンダエルシノアのCMにスティーブマックイーンが登場し英語で何かしゃべって荒野を駆け回るシーンが有り、（結局安全運転しなさいと言ってました）今見てもかっこいいです。アメリカのバイクの楽しみ方は日本とは桁違いなスケールです。マックイーンといえば映画「大脱走」で国境の鉄条網をバイクで飛び越えようとするシーンは今でも手に汗握る思いになります。

乗りたいなと思ったのは高校2年の夏休みでした。同級生の135ccのホンダに乗っけてもらって難波に映画を見に行った時でした。バスなら30分かかかる大正区の端っこから難波まで10分もかからずに走り抜けた時の感動がその原点でした。

もちろんノーヘルメットOKの時代です。高校ではさすがに勉強が忙しくてバイクどころではなかったです。（もちろんお金もなし）

何とか入った大学は田舎の交通の便の悪いところでしたので学生はほとんど歩きか自転車で、遠くの学寮に寄宿した私にはバイクは必須、必然でした。

クラブの春合宿や授業のオリエンテーションのあい間に原付免許を取得し、大学の近くのバイク屋さんで中古のダックスホンダ50ccを購入しました。バイク屋のオヤジさんは親切なんですけどネイティブの山形弁は全く分からず困りました。バイク雑誌を見ることもなくテレビの宣伝の印象だけで買ったの

ですがダックスは2馬力と少ししかないので遅く、40キロも出ませんでした。通学だけならよかったです。遠出となると物足りない。それで友人から譲ってもらったヤマハミニトレ50を神奈川で譲ってもらい大阪までバイクで帰りました。もちろん地道、原付30キロ制限です。最高速も42キロしかできません。

このバイクで国道1号線の箱根の峠、鈴鹿峠と難所を何とか乗り越えて京都で野宿、折しも祇園祭の最中でした。夏休みの終わりの山形行きも3日間かけて1号線で東京経由山形へ。鈴鹿峠越えではフロントフェンダーが外れてブレーキがかかり後続の大型四輪に轢かれそうになったり、浜松では路上のオイルで転倒してウインカーが折れてヘッドライトが点かなくなったり、泊まりはもちろん道端で野宿です。台風とともに暴雨風の中を北上していったのを覚えています。途中で買ったカップはその後もずっと使っていました。

ようやく下宿に着いても夏合宿に直行で体力任せの無謀な試みでした。

でもバイクでの苦労は何ともなくて青春を満喫していました。財布は空でもガソリン代と酒代はなぜかありました。

その後友人のヤマハウルフ90ccやCB125ccに乗ったりして、先輩からCB250を譲って貰いましたが、20馬力くらいしか無く図体ばかり大きくてイマイチで。やはり大きいバイクが欲しくなり練習して19歳で限定解除（いわゆるナナハン免許取得）しました。

今でこそ教習所で大型免許はとれますが、当時は暴走族が社会問題化しており運転免許試験場での検定試験でしかとれません。コース周回やS字の切り返し、坂道発進などは四輪と同じですが、15メートルの一本橋を10秒以上かけてわたる試験がありこれが鬼門です。私は幸い3回目合格しました。ボンビーな学生時代には人気のカワサキやホンダの

ナナハンには乗れず、明らかにタンクのへこんだ事故車のスズキ GT750 を入手しました

これがまた水冷2ストローク3気筒で、何故か4本マフラーでした。加速はよいのですがオイルと一緒にガソリンを燃やすため煙もくもくで燃費もわるく、折からの第2次オイルショックでガソリン代に苦労しました。排気音も昔のスズキの軽四輪フロントの2ストローク3気筒360ccのものと同じでした。

しかしこのナナハンは大きくて格好いい。アメリカではこの水冷のナナハンをウオーターパッファローの愛称で呼んでいたようです。これでの帰省は日本海側回りで950キロをもちろん地道で12時間ノンストップでした。今から思えばあちこち立ち寄ればよかったのにと。

勤務時代にはホンダのCBX400やホークII 400にも乗りました。国立大阪病院時代は先輩方が乗っておられたので信州や東尋坊にツーリングに行ったものです。淀キリではスクーターを改造してダートコースを走る耐久レースに出たり、CBX250RRで病院のツーリングに行ったりしていました。世の中はバブルに突入していき、人気が出てきたハーレーに2台続けて乗りましたが、ハーレーダビッドソンはゆっくり乗って楽しいバイクで決して峠道を攻めるものではありませんでした。ビックリしたのは883ccのVツインエンジンは燃費が非常に良く、当時乗っていた原付スクーターよりもよかったです。アメリカの底力でしょうか？

開業してから入手した1320ccのビッグツインは重さが320キロありスピードが出てブレーキが甘く、特にリアブレーキは鳴くばかりでほとんど止まらない。

その後は仕事に忙殺され、また子育て中は怪我が心配で自粛していましたが、とうに還暦を過ぎてコロナ環境の中、バイクブームの再来とともにメラメラとバイク熱が上昇。250ccあたりで近所を乗ろうかなと手軽なバイクを探していましたが、バイク雑誌を見るとそこはワンダーランド、往年の名車カワサキZ900にそっくりなネイキッドバイクの登場で我慢出来なくなり購入を決意しました。同じ考えの人達も多く、カワサキのショップに行っても商談どころか予約も出来ない状況でした。2年間のコロナ騒ぎですっかり繁華街から遠ざかり、懐具合も問題ないというのに、、、

そこで2021年モデルの発表とともにショップに食い下がり、半年待ちを〇〇週間で目出度く納車と



なりました。(無いならスズキのカタナを買っちゃうぞーってオドカシました)

並列4気筒900cc、乾燥重量わずか215キロ、115馬力。昔のナナハンより軽く1.5倍のパワー、トルクも1.5倍です。実は200馬力最高速度300キロのモンスターマシンも普通に売っており、今は教習所で大型免許を取得すれば誰でも買えるんですが、この115馬力でも怖いくらいで、「乗りこなす」どころか「しがみついている」状態。気力はあっても体力が付いていかん。6速トップギアでも加速が凄い。しかもカウリング(風防)が付いていないネイキッドバイクなので高速では風圧で130が限界です。このタイミングで高校の同級生や同門の先生が続々と大型バイク免許を取得し乗り始めました。最近のバイク事情にも疎かったですが、バイクギアも長足の進歩をしていました。まさに今浦島太郎です。ウエアは胸部パッド、脊椎パッド、肩パッド、肘パッド、膝パッドが内蔵されており、夏用はメッシュで涼しく冬用は温かい。冷却グッズも有ればヒーター内蔵のウエアも手袋も有ります。また、衝突事故でバイクから放り出されたら身体と頸椎をガードするエアバッグシステムも有ります。使う羽目になった友人によると事故って転倒して身体が投げ出されたと思ったら、ベッドにポヨヨンと飛び込む感じで効果絶大であるとのことでした。真剣に導入を考えています。

さて、ちょっと乗りに行こうぜ、で高野山から龍神スカイライン、有田港回りで帰宅、日帰り440キロ。その半分くらいが峠道でした。高速で風防なしでは120キロが限界と痛感して帰阪。しかしそれ程の疲労感はありませんでした。

やはり115馬力は手に余ると割り切って、カワサキはご近所散歩用にしてヤマハのコーナリングマシンMT-07を衝動買いしてしまいました。並列2気筒74馬力、重量わずか183キロ。これで余裕を持ってツーリングに行けます。74馬力でも昔のナナハン以上の馬力で重量は40キロ位軽量です。軽いというのは最大のメリットで取り回しが何と楽なことか。この夏はこれで信州3日間にチャレンジしてきました。

初日は午前診のあとお盆休みの渋滞の中450キロ走って諏訪富士見高原のペンションまで爆走、5時半到着。二日目はビーナスラインを中心に走り回り松本泊。3日目は松本から安房峠を越えて飛騨高山からせせらぎ街道を郡上、そこから高速で帰阪トータル1200キロを計画。しかし根っからの雨男パワー炸裂で台風と付き合った3日間ほとんど雨に見舞われました。ハイライトのビーナスラインは車山山頂で奇跡の晴れ間も見えましたが美ヶ原高原は視界30メートルの霧雨のライディングでした。そりゃあ台風と一緒にしたから仕方ありません。

その後も夏場は暑いので朝練で亀岡から能勢まわりの2時間100キロの散歩をしたり、日帰りで湖西道路から鯖街道、熊川宿、福井県の三方五湖、小浜、名田庄、京北周山街道、八木、亀岡420キロ酷道477号線を味わい尽くしました。

はたまた先週は瀬田西から湖南、日野町、奥永源寺から鈴鹿山脈を抜けて、いなべ市、関ヶ原、伊吹山ドライブウェイ、湖岸通り、近江八幡、栗東から高速で帰阪440キロ。

琵琶湖に反射する午後の太陽が綺麗でした。この秋は泊まりで中国から四国UFOラインツーリングを企画しております。また九州阿蘇のやまなみハイウェイ弾丸ツアー等走りたい道はまだあります。

不思議な事にバイクで1日に400キロも走っていると、四輪でのドライブが全く苦にならず、いくらでも遠出が出来るようになった事です。同門のO出先生のアクティビティの高さにいつも舌を巻いておりましたが、今や同じくらいのドライブフリークになりました。

もちろんあくまでも法令遵守、安全運転を心がけてバイクライフを楽しもうと考えています。同門のK井先生はもちろんツーリング仲間ですが、T山先生もバイクを手に入れたようですので早速魔手を伸ばしてみようかなと考えている今日この頃です。NO BIKE NO LIFE 暫くは退屈しないで済みそうです。長文失礼いたしました。





平凡なトヨタの愛車遍歴

増田 博 (昭和 57 年入局)

私は、叔父といとこがトヨタ関係者であったことから、今までずっとトヨタの車に乗っています。大学に入学してすぐに免許を取りましたが、初めて乗った車は父親のおさがりのカローラセダンです。その車で大学の教養時代は過ごしていました。学年が上になってきたので、中古車でもまだ新しいスプリンタートレノを購入し、結婚するまでは乗っていました。結構スタイルもよく、よく走ったので非常に気に入っていました。結婚した時は家内がトヨタのチェイサーを嫁入り道具の一つとして持ってきてくれてそれにしばらく乗っていました。上品な車で静かで気に入っていました。そうこうしているうちにいつかはクラウンというクラウンを義父から譲ってもらい乗るようになりました。機嫌よく乗っていたのですが、テレビでウィンダム宣伝を見たときに非常に気に入り購入しました。とてもフロントの顔がよくスタイリッシュで乗り回していました。

その後、子供が3人になりセダンでは狭くなり出かけるときにわいわいできたほうがいい、子供の友達も一杯乗せることができるようにと8人乗りのグランヴィアに乗り換えました。今までと違って車高が高く、走っていても渋滞でも前のほうまでよく見えます。今までと視界が違ってなんと見晴らしがいいのだらうと思い、気に入っていました。後部座席は対面にできたので近所の子供たちも一緒に乗せて、プールとかに連れて行ったりしていました。そうこうするうちに子供も大きくなってきて家族5人(みんな)で出かけることがなくなってきたのと、通勤に使うのは少し大きすぎるので、グランヴィアより少し車高の低いハリアーを購入しました。またこれがよく走って気持ちよかったです。グランヴィアほど車高は高くないですが、それなりに高いし、乗り心地もよかったです、そして今回はボディカラーを特別仕様のワインレッドとして一般とは少し違う色にしました。非常に気に入って乗っていたのですが、燃費が悪い。6から7くらいです。し

ばらくしてハリアーのハイブリッドに買い換えました。少し値段は高かったですが、燃費は倍近くによくなりました。しばらく乗っていたのですが、その後レクサスブランドにあこがれちょうど乗りやすい大きさのUXを購入しました。レクサス販売店の対応もよく乗り回していたのですが、年齢も65歳になりここで落ち着いた車に乗りたくなり車高は低くなりましたが、レクサスESを購入しました。LSのほうが立派なのですが、値段がとて高くなるし、駐車場に入らないこともあると聞いたのでESにしました。乗り心地はとていいです。静かです。レクサスESで走ればほかの車が道を開けてくれるとか言っていたのですが、他の車に次々と割り込みをされるし、あまり威厳のある車ではないみたいです。しばらくはESに乗るつもりですが、そのうち免許返納の時期が来るかもしれないのであと1台くらい高級車に乗りたいと思っています。



弥栄病院の思い出

長濱 信一（昭和 59 年入局）

もう30年余り前の話になりますが、私は病理学の大学院を修了して、当時の島津教授に命じられ京都の丹後地方にある弥栄病院に赴任しました。博士号を取得させていただいたので、いわゆる御礼奉公と言われていた人事でした。赴任前に引っ越しの準備のため車で向かったのですが、病院に近づくと周りには田園風景となっていき、病院に着いた時には田んぼの中に病院が立っているように見えました。大阪生まれ大阪育ちの私は、こんな田舎で生活できるのだろうかと非常に不安になったのを覚えています。当時の弥栄病院は約200床ほどの地域の中核病院であり、内科、外科、整形外科以外に産婦人科、眼科、小児科、泌尿器科なども標榜していました。病院から歩いて約1分のところに戸建ての官舎があり、当時独身だった私は広い官舎が使い切れず、ほぼ1部屋のみで生活していました。食事は3食付きで住民税は免除され、確か電気代も払わなくて良かったように思います。このように恵まれた待遇で迎え入れられたのでした。医局員は様々な大学から派遣されており、外科と整形外科は大阪市大でしたが、他科は自治医大、福井医大、京大、京都府立医大、滋賀医大などの先生で、年齢は20歳代後半から30歳代前半のほぼ同世代の先生ばかりでした。そのため医局は和気あいあいとしており、大学間のしがらみもなく非常に働きやすい環境でした。医局行事も、夏は地元の名産(?)である野間そばを食べに行く会やアマゴ茶屋に行ってアマゴ料理のコースを食べる会、冬は忘年会で間人ガニを食べに行ったりしていました(間人ガニの際は確か一人3~4万円支払ったと思います)。また車で1時間ほど行くとスキー場があり、土曜の午後から医局の先生を誘って行ったこともありました。ゴルフ場も車で30~40分のところに久美浜CCと宮津CCがあり、久美浜CCでは医局コンペが行われ、院長の友人である地元のメンバーの方々と一緒に回るのですが、前夜祭と称する親睦会ではその方々に散々飲

まされて翌日はゴルフどころではなかったこともよくありました。また宮津CCでは早朝ゴルフができたので、医局でハーフラウンドのマッチプレイ大会をしたこともあります。朝5時ごろからスタートし仕事に間に合うように8時ごろに帰ってくるのですが、その日は1日中眠たかった記憶があります。また当直は基本的に宅直であり患者が来れば診に行っていました。手に負えない患者であれば近くに他科の先生が住んでおられるので、呼び出すとすぐに診てもらえて良かったのですが、脳卒中や頭部外傷が来た場合は、脳外科がないため山を越えて豊岡市の病院まで患者につき添って救急搬送しなければならず、その日は往復で相当な時間を要したため大変でした。また当時はポケベルの時代でインターネットもなく、雑誌類も遅れて届くなど情報に関しては陸の孤島といった感じでしたが、逆にのんびりできた気もします。このように田舎ゆえに大変な面もありましたが、非常に楽しく2年間の丹後ライフを満喫させていただきました。辞める際は名残惜しさよりも、そろそろ都会の生活に戻りたい気持ちが強くなっていたので2年間はちょうど良かったのではないかと思います。今は時代も変わって弥栄病院が関連病院ではなくなったのは残念ですが、都会の病院では味わえない経験ができるので、今の若い先生にも一度行ってもらいたかったなあと思います。もともと今どきの若い医師は「御礼奉公って何?」って言いそうですけれども・・・



マイボート

西澤 徹 (昭和62年入局)

3年にわたるコロナ禍、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

慶ばしきはずの還暦をコロナに邪魔され、その反動とは言わないけれど日常があらぬ方向に進んだので書き記します。

思えば平成元年バブルの絶頂期、医師生活3年目の府立身障者センターには東隆先生はじめ釣りフリークが集っていました。独身で時間をもてあましていた夏休みを利用して当時の4級船舶免許を取得。当然休眠免許となりました。

時は流れ、今回のコロナ禍です。ゴルフすら遠慮せなあかんご時勢に。

その数年前から息子が釣りに興味をもったので仕方なく、いわゆる陸っぱりや、由良の釣り公園などでいっしょに遊んでいました。

「もっと手ごたえのある釣りがしたい」。誰しもそう考えます。

遊漁船に乗って大物を狙うことになります。ただ2か月先くらいまで満席。しかも出船は5時半、集合は5時ころ。3時起きで加太港や明石へ。

哀しき60前の手習い。まさか初老親父が超初心者とは誰も思いますまい。釣れないだけならまだしも、錘や糸は同じなのに、なぜか他の方のように糸がまっすぐ沈まない。

お祭り騒ぎ(他人の糸がからまること)を引き起こし、船長から罵声を浴び、白い目で見られ、気持ちにはへこみます。早起きしてこれでは救われません。そういえば、高山優先生がヨットに乗ってはった。自分で操船しよう。幸い船舶免許は更新せずとも失効しません。講習を受ければ復活。はれて現2級免許を復活しました。コロナ前年の夏でした。

その後は、レンタルボートを利用したり、操船技術を磨くため講習を受けたりしました。しかしコロナ後はレンタルもすぐ予約が埋まり借りにくくなりました。

「自前のボート乗りたい」。悪魔のささやき。

そうなる、いてもたってもいられません。ネットを漁りボート雑誌を定期購読し、あちこちのマリーナや業者詣をしました。

船は自動車と異なり保管場所をあらかじめ確保する必要があります。幸いにも「高石マリーナ」をホームポートにできました。マリーナまで高速を使わなくて済むし、上下架が無料(通常は1回5000円くらい)というせこい理由です。今は船ブームらしくて、マリーナの空きが非常に少ないようです。新艇が手に入らないので、中古艇価格も高騰しているらしい。その前でもよかったです。

小さくコンパクトな船目当てで訪れた竜野市のマリーナ兼船舶業者でヤマハの中古ボートに一目惚れ。「PC-27」約20年落ちの中古です。FRPの船体に問題なし。エンジンは新品に換装してありました。今さら釣りの達人になれるわけもなく、釣りよりもクルージング志向なので、フライブリッジ(2階席)のある船にしました。内部は木の部分も多く、落ち着きます。夏の終わりに契約し(嫁はんは怒ってましたが)、コロナでチャイナからの部品が来ず、艀装に時間がかかり、受け渡しは翌年の春になりました。

処女航海は竜野市から高石まで一気に3時間近く航走しました。

翌週息子と初めての釣行。友が島周辺。ビギナーズラック!53cmのハマチを彼が釣りました。魚がこれほど美味しいとは知りませんでした。

その後はただの幸運であったことを思い知ります。別に船を出すまでもないのと違う?の連続。潮の流れや風の向き、仕掛け、他諸々。知るべき事柄が多いです。誰かを誘って出かけるのも楽しいですが、手前船頭で一人ぽっちで出かけるのも楽しい。仕掛けを工夫し、操船に頭を使う。波に揺られ、景色を愛でながら孤独を楽しむ愉悦よ。熱中症や脳血管障害などが起こればえらいことですが。そこは気を付けてるつもり。

瀬戸内海にも2級免許では通れない海域があるので、昨年週末を利用して、1級免許を取得。これでと

りあえずどこでも動けるはず。

娘を伴い淡路島の翼港に上陸したときは、とても達成感がありました。職員を連れてのレクは荒天の中止が続き未だ果たせていないのが残念です。

今年の週末は荒天が多く、釣行ままならず。せめて晩酌のお伴に不自由しないだけの釣果を得るべく船を出したいものであります。

まとまった休暇をとれる身分になれば、瀬戸内海巡りで関門海峡の向こうまででかけたいものです。嫁ハンは拒否りそうなので、「瀬戸内海ひとりぼっち」となりそうですが。

クルー求む。





英語の論文を書いてみました

大川 得太郎 (昭和62年入局)

一昨年の日本骨粗鬆症学会で発表した際に、幸運にも優秀演題に選ばれました。そして、昨年1月に日本骨粗鬆症学会より、学会雑誌に論文(和文)の投稿依頼が来ました。発表した物が認められるのはとっても嬉しいです。早速、共同演者の小池達也先生に、その旨を報告し、論文(和文)を作製しようと考えました。ところが、小池先生より、「内容も面白いから、英語の論文にしたら。」とのこと、「え、英語の論文ですか？今まで書いたことはありません！」小池先生曰く、「日本語も英語も論文は同じ。簡単、簡単！」とのこと。甘い言葉に乗せられ、書いてみることにしました。まずは、日本語の論文を作製し、それを英語に書き換えるつもりで開始しました。日本語の論文は30編以上書いているので、慣れております。3月には完成しました。これから、英語に変えるのにどうするかと考え、PCの英語変換ソフトを使うことにしました。色々調べると、Deep Lという英語翻訳オンラインソフトが優秀なようでした。早速購入し使ってみました。なかなか素晴らしい。面白いようにコピーペーストで、英語に翻訳してくれます。ただ、英文法的に怪しい事もあるとの情報で、Grammarlyという英文法チェックオンラインソフトの両方を使って徐々に英語論文作成に取り掛かりました。仕事の合間を縫って進めましたが、5月の連休明けには完成しました。結構、出来るじゃん、嬉しくなって、完成した論文を小池先生にチェックしてもらいました。先生曰く、「全然ダメだ！英語が日本語ばい！英訳ソフトを使っただろう！これでは即落とされる！」とのこと。「先生凶星です。凄い！」小池先生は様々な英語論文のレフリーをされており、実際に英語論文を100編以上書かれています。悪魔の書き直しのスタートです。今度は英語論文の書き方の書籍を5冊くらい購入。なるほど、英語論文は流れが大切、1パラグラフに1結論が標準です。まず結論を述べて、その説明する型が大切。日本語だと、色々説明して、最後に

結論の書き方になり、英米人が読むと、とっても分かりにくく、内容が理解しにくいそうです。これは日本語と英語の違いと同じです。イントロの書き方、方法、結果、考察など、型があり、その型にはめないと論文として失格、よほど内容が素晴らしいと、それだけで、レフリーの心証を悪くし、難癖を付けて落としに掛かるそうです。うーん難しい！勉強しながら、書き直しの連続。結局6回書き直して、やっと小池先生よりOKが出たのが、12月です。書き直しに6ヶ月掛かりました。これで終わりではありません。次にネイティブに論文をチェックしてもらふ必要があるとのこと。FORTEという医学論文校正サイトで、ネイティブによる論文チェックと修正が始まりました。1回の金額が45000円。結構高額。いよいよ論文投稿です。Osteoporosis Internationalという、骨粗鬆症関連の雑誌では一流の雑誌に投稿することにしました。オンラインで出来、あっという間に投稿。ワクワクしながら結果待ちです。2週間後に返事が来ました。Osteoporosis Internationalの編集長より、「内容は興味深い、症例数が少なく当雑誌に載せるレベルに達していないと判断しました。症例数を増やすか、他の雑誌を当たって下さい。幸運を祈ります！」とのこと。いきなり一発で落とされました。厳しいなあ。今までの苦労が走馬灯のように頭に巡ります。ガッカリしました。

小池先生に連絡すると、「流石に、あの雑誌は厳しいと思っていたが、大丈夫。ストーリーは悪くないから、次何処に投稿する？誰でも、数カ所投稿している。当たり前！」それでは、1ランクを落としてJournal of Bone and Mineral Metabolismに投稿することにしました。投稿規定が少し変わるので、書き直し、またFORTEでネイティブによる論文チェック。2回目は15000円で値引きをしてくれました。

また、オンラインであっという間に投稿したのが

今年の3月1日です。2週間後に返事が来ました。今度は落とされませんでした。2人のレフリーによる質問と修正依頼が書かれていました。各レフリーで8つくらいの質問や修正依頼。中にはつまらない質問や、間違っただ指摘もあります。ただ小池先生に相談すると、「レフリーの質問には感謝をして、確実な回答を述べ、修正する所は修正しないと落とされる。僕もそうしている！」ということで、レフリーの仰るままに回答と修正を加えて。再投稿。2週間後に返事。レフリーの一人はOK。レフリーの2人目が、更に5つの質問と修正依頼。もう許して欲しいと思いました。再度修正して投稿。なんと3回目の質問と修正依頼が来ました。それに回答してやっとOKが出たのが7月です。なんとか英語論文を世に出すことが出来て、ホッとしました。8月8日付けで Journal of Bone and Mineral Metabolism に載りました。本当に疲れましたが、載って良かった。

Risk factors for poor response to denosumab treatment in Japanese postmenopausal women with osteoporosis

Tokutaro Okawa, Motomi Okawa, Tatsuya Koike

ほとんど1年掛かった仕事です。でも、意外と楽しかった。味を占めて、その内2本目の英語論文も書きたいと思います。スキルアップして少し楽に出来るの良いなあ！





COVID-19 流行における近況～徒然なるままに～

金剛病院

宮口 正継 (平成7年入局)

2020年2月からの世界中を巻き込んだ新型コロナウイルス（COVID-19）問題が起こりはや2年半以上となりました。長期化はある程度覚悟されていたものの、収束したと言うより with コロナとして割り切って方向転換に進み始めたというところでしょう。当初は患者がひとりでも出たら大きな話題になるような状況で、当院のような介護部門も抱えた小規模後方支援病院（地域包括ケア病棟30床＋医療療養病棟30床の60床）では、万が一クラスター発生すると計り知れないダメージを受けるため初期から慎重な対応を選択しておりました。しかしながら感染対策をしながらのベッドコントロールは苦難が多く病床稼働率の大幅な低下は免れませんでした。また出勤停止スタッフがでるたびにスタッフ不足となり、特に夜勤の人員確保などは綱渡り状態でした。家族が罹しても被害を最小限にするため自宅でも半隔離のような生活を続けておりましたが、子供がもう少し小さい頃ならそれも難しかったですでしょう。

地域検査センターへの参加や発熱外来を行っていたので新型コロナ患者との接触は初期からあったものの、職員や入院患者からの発生は長らく回避できておりましたが、第4派にあたる2021年4月初旬について潜伏期間であった転院患者から病棟スタッフに感染しそこから患者数名の感染者が発生しました。当時は濃厚接触者判断は保健所が仕切っており、過去に危機管理上PCR検査を自衛的に行った際、「行政が判断するので先走って勝手に動かないように」と保健所から苦言を呈された経験もあり病棟閉鎖して指示待ちをしたところ、急速な感染者増加で保健所がパンクかつ人事異動も重なり引き継ぎミスでまさかの放置プレイに遭いました。問い合わせをしても「検査時期を指示するので連絡を待て」が繰り返され、次第に電話連絡もつきにくくなり、「こちら忙しいのです」と逆切れされ、挙句の果て一定期間が過ぎたため「収束しているのなら

もうよろしいのでは？」と行政としてのPCR検査は実施されぬまま、当院の自主的対応への追加指導もなくうやむやに終わりました。その後は当院の院内感染対策委員長の厳しい管理運営の元苦労しながらも何とか運営できており with コロナへの雰囲気もでてきておりましたが、第7派にあたる2022年7月下旬と8月中旬と2度にわたり病棟スタッフと入院患者の感染が次々発覚する院内クラスターが発生し大変な目にあいました。その頃はほとんどの病院や高齢者施設がクラスターを経験し苦労をしている状況でしたが、マスクもしてくれない高齢認知症患者は徘徊や転倒など濃厚接触介助が必要なことが多く、看護・介護はリスクとなります。特に高リスクとして注意していたリハビリスタッフよりも、患者とスタッフ間の感染は看護師や介護士に多いようでした。ホテル療養運営に当院が参加していたため治療薬などを使える状況にあったことや重症化リスクの高い患者は転院を受けてもらえたりで、幸いにもコロナ死に遭遇するなどはありませんでしたが、ちょうど50周年記念祝賀会の出欠案内の時期と重なり、立場上イベントや会食に参加できる状況ではなく欠席となり失礼いたしました。運営に携わってくださった先生方は本当にお疲れ様でした。

さて、コロナ禍の影響で仕事外での変化と言えば、多くの先生方もそうであるように研修会→懇親会がなくなり土曜日の外食や飲み会が消滅、密かに楽しみであった研修会後のひとり食べ歩きもできなくなりました。馴染みの店がつぶれてしまわないか随分心配もしました。一方、整形外科としてはコロナ禍でむしろ仕事は随分と暇となり時間的にはかなり余裕が生まれてきました。子供も大きくなり家族サービスも最早喜ばれませんので、増えた自由時間を感染リスクの少ない釣りにあてることにしました。

下手の横好きで釣行が増えた割にはあまり良い釣果に恵まれることはないのですが、気楽にひとり釣



写真1. 渡船で沖磯に乗り移ります

行で和歌山県へ磯釣りを中心に、鯛ラバ、カワハギ釣りなど今までにない釣行回数を経験できました。後片付けも含めて疲労度が大きいので連休でないと腰が重いのですが、渡船で沖磯に渡礁して釣りをすると磯釣りが、たとえ釣れなくても自然を一番味わえて気持ちがほっこりします。釣った魚は活けず、血抜き、冷やし込み（鬼締め）をして持ち帰り美味しく頂きます。腕がないので食べきれない程大漁となることはまずなく、ほどほどの収穫でとどまるのがミソです。感染対策上ひとり釣行がほとんどですが、一度仕事つながりのメンバーで鯛ラバ企画があり明石先生もお誘いしてご一緒しました。潮が動かずちょっと寂し

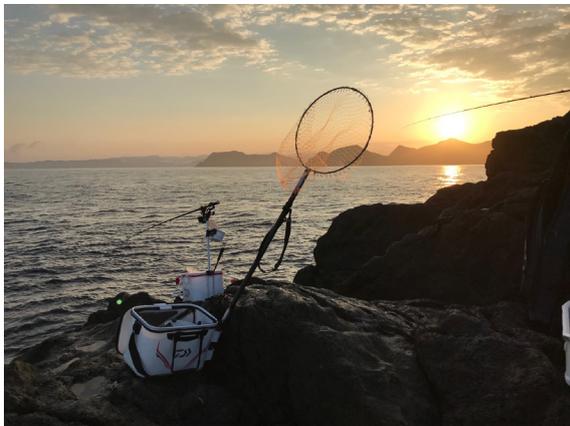


写真2. 夜明けの磯



写真3. グレ 磯釣りでは人気のターゲットです 冬は美味

い釣果ではありましたがメンバーみんな真鯛が釣れて良かったです。また行きましょね〜。



写真4. アイゴの半夜干し つくってみました



写真5. カワハギの肝和え 肝醤油よりも醤油に肝に混ぜ合わせてしまうのが好きです。日本酒ととてもよく合います



写真6. 鯛ラバ企画 筆者（左から2人目）と明石先生（左から3人目）船からカラフルなおもりやラバーの疑似餌で鯛を狙います。

あと、あまりに長年の運動不足、おそらくこの10年以上自分のなかでの適正体重を5kgくらい上回った状態で安定してしまっている状況をこの機に改善しようと、働き方改革で当直明けの金曜午後が半休となったにも関わらず何かと仕事を入れていたのをやめてジョギングをはじめました。食事を摂らず空腹の状態でも水分補給のみで1時間ほど走り、その代わりに夜だけは好きなだけ食べるという風にし

ています。音楽を聴くための時間と言いついては基本1時間は走るようにしているのですが、如何せんテニスを1時間するのは違い所詮走るだけは全然面白くない。排気ガスを吸いたくないので、近所だけでなく、近隣の錦織公園、最古のダム式ため池の狭山市の狭山池、河内長野の滝畑ダムの周囲など（真夏などは5℃くらい涼しい）にわざわざでかけて走ったりもするのですが、やはり決して楽しいわけでもないし飽きてきます。そこでこれまで全く興味なく近くに住みながらもロープウェイ以外では学校行事でくらいしか登ったことのなかった金剛登山も取り入れてみました。1万回登頂など強者もいる愛好家の多いあの金剛山ですから色々な楽しみ方があるのでしょうか。ただ幼少時から山より海、寒い所より暑い所が好きのため登山自体にはあまり興味がないため、私にとってはあくまでも単調なランニングよりはマシとの程度の位置づけです。長年昼食を食べない生活習慣になっていますが、当直明けは朝も食べないので取って絶食状態のままでひとり黙々と急いで登って、ちょっと一息ついてからすぐに下山してくるというもので、景色を楽しむなどはほとんどない変わった山登りをしています。ただ無知の素人で、12月に平地は雪の気配すらもなかったのでアイゼンも持たずに気楽に入山したのですが、途中からは雪が積もっておりツツジオ谷で美しい氷瀑を見たときは大変新鮮でした。上級者コースには立ち入りませんが、今はトラブルに備え非常用品はきちんと携帯して臨むようにしております。しかしながら、近年のサイクリングや登山愛好家の多いことにびっくりします。日曜日など山に移動するまでこんな坂道まで自転車で上るのかと驚くようなところで何人も遭遇しますし、金剛山の千早登山口や水越峠は登山者で朝からいつも車でいっぱいです。いつまで続くかわかりませんが、コロナ禍で体重が4kg減り軽くなったせいで随分動きやすくなった気がします。外食飲み会が復活すると戻ってしまうかもしれませんが、さあどうなることでしょうか。あと少し天候の悪い時は滅多に行くことのなかった映画館にも行きました。映画やドラマは自分がストーリーに入るまでが重たくてあまり観る方ではないのですが、やはり劇場で観るといいものですね。天候や体調と相談しながらちょくちょく足を運んでみようかと思っています。そろそろ52歳、人生もおそらく2/3以上が過ぎました。老眼の進行や今迄では考えられないうっかりミスなど加齢を感じる今日この

頃、まだ体が動けるうちに少しは楽しんでおいてもいいのではないかとコロナのおかげで思うようになりました。

以前のように狭い店で肩を並べて、顔を突き合わせての飲み会や、大人数が集まった忘年会はなくなってしまうのでしょうか。当院では少なくとも忘年会に関しては、コロナ以前からインフルエンザ流行期でありリスク管理からも問題視されていたのでこのままそういう風習が消えていってしまう可能性もあります。個人的には、コロナ禍が収束したとき、以前のように肩を並べて懐かしい80年代ミュージック聞かせてくれるバーが生き残ってるのかがむしろ心配です。



写真7. 金剛山山頂



写真8. 金剛山での氷瀑（ツツジオ谷）



馬

森川 献志漢 (平成8年入局)

自分の事であまり書く話題がないため、私的（親バカ）な事の投稿ですが、息子と娘の馬術の事を書かせて頂きたいと思います。

過去に遡るのですが、子供たちが小学生の時に近所にある乗馬クラブで、時々お馬さん乗りを楽しむ程度でしたが、小さい小学生からすれば見上げれば大きい馬に対する恐怖感から、一時期休止状態でありました。それが、

雅大（長男（兄））が中3の頃、コロナ禍の事もあり何処にも行けなくなり、再度体験乗馬をしたことをきっかけに乗馬を楽しく感じたようで、それが馬生活の再開でした。

最初は競技思考などなくエンジョイライディングで有りましたが、教官の勧めで馬をレンタルし、その専用馬を個人的に練習することになり、馬術競技に興味を持ち出し大会にも出場することになりました。年齢的にチルドレンの枠で全日本を目指す時期にはなく受験期にはいる事も有りましたが、ライセンス2級取得、対外競技では第57回新春馬術大会A2項目で優勝、第59回大阪府民馬術大会A2項目で優勝といった成績で、且つ120cmの障害バーを飛越する事も出来るようになり、僅か1年6ヶ月といった短期間で目を見張るような急成長が有りました。ただ、その成長過程で人馬一体を通して人間的にも成長したのではと、親バカなりに感服しております。

一方で佳和（長女（妹））は、雅大ほどの成長が当初より見られなかったのですが、兄と同様に馬をレンタルし年齢的にもチルドレン枠での全日本を目指すこととなりました。それは1年間を通して競技会の上位成績3つの平均が60%以上の成績であり、その中で全国の上位40名だけが全日本での大会に

出場できるのですが、平均60%を超えたものの43位で出場が危ぶまれましたが、上位者で欠場者が出たため最終的に38位で繰り上がり全日本の大会に出場出来ました。今回の50周年式典1週間前の9月24,25日に静岡の御殿場にて第39回全日本ジュニア馬場馬術大会2022 L2項目が有りましたが、あいにくの台風（14号：静岡直撃）の中でしたが、競技会は開催されたのですが、佳和の騎乗の時だけ太陽が晴れ間を見せ、繰り上げ参加であったにもかかわらず翌日の決勝戦（上位15名中）に、12位で予選を通過し、教官からは『トップの人は守りに入る必要がる時もあるが、その他の人は結果がどうであれ1つでも上位に食い込むため攻めていく様に！！』とのお言葉で、翌日の決勝戦では攻めていった結果、入賞が10名の所10位での好成績を収め



表彰台に上る事が出来ました。一時は出場も諦めかけたのに、大会が始まれば全国で10位との成績に親である僕も言葉で表せられない程の感動を貰いました。

今後、雅大は受験が一段落すれば競技に復帰し、佳和は今からさらに上のクラスを受験までの期間に目指すのかは、今の所不透明であります。子供たちが何か一生懸命になり勝ち得た事の喜びを得てくれた事が、今年1年での最大の収穫でありました。

ただ、これからも続けるのであれば、落馬しないかとの心配が続きます・・・





市整会50周年にことよせて

小竹 志郎 (平成11年入局)

市整会50周年という節目にあたり、これからの50年という長期展望を考える際、何が重要かつ必要であるかと常々考えを巡らせてきました。

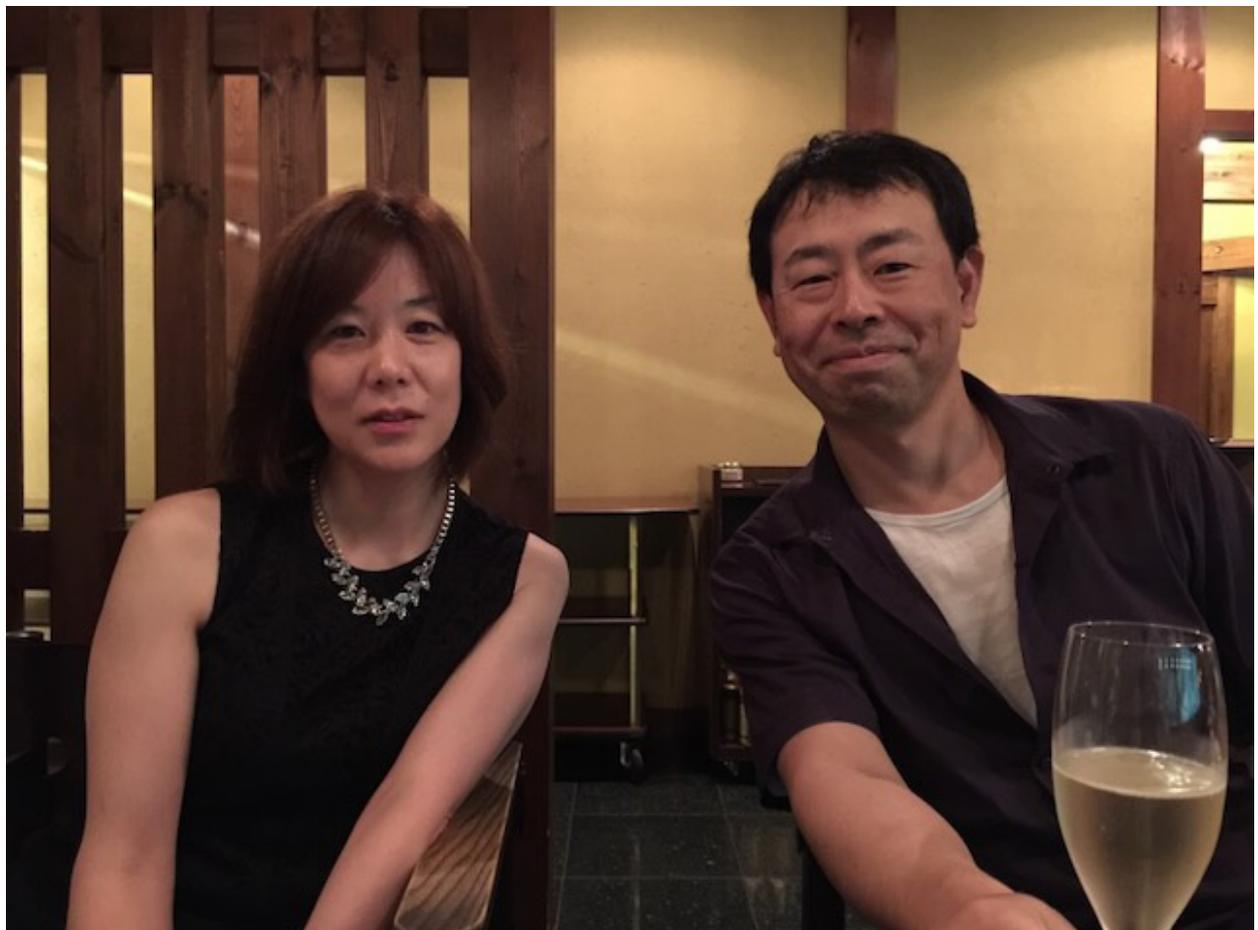
まず市整会の存立基盤にはいくつもの層があります。たとえば開業医、整形外科、医師免許、大阪市大(現大阪公立大)、医局、国民皆保険、高齢化社会、日本国、その他多くのシステムや組織の上に市整会と我々整形外科開業医の日常は成立しています。

それらのなかで今後も持続可能なもの、変革が必須なもの、断絶せざるを得ないものもあろうかと思えます。

私が開業したのは2007年、もう十五年前になりますが、その当時の自分の予測では、もう十年もすれば現在の医療制度は主に財政面で持続不能、大変

革が必須と浅はかにも考えておりました。結果は皆様ご存じの通り、多少ゆでガエル化してはおりますが本質的にはほとんど何の変化もなく、破綻もなければ改革もないままに時間だけが過ぎるという現状を迎えております。

何故そうなったか?という問いにはおそらく専門家でも的確な解答はできないのかもしれませんが、最近よく耳にするMMT(筋力の方ではなく、現代貨幣理論)では、自国通貨建の債務では国家は破綻せず、インフレが妥当な範囲なら制限なく支出可能となるらしく、そんな面白い話があながち眉唾ではないのかもと思いつつ、MMTの詳細をウィキペディアで何度読んでみても僕の頭では理解不能な記号の羅列から脱することができません。



とはいえ果たしてこれでいいのか？という問いには、通常、発展過程にある若い社会では、旧態依然というのはほぼ自死に等しいという扱いをうけますが、声を上げてそれにあらがう若者がすでに寡勢となったピークアウト後の成熟社会日本、てい良く持続可能な循環社会とか、伝統を尊重した安定社会、等々、耳障りの良い言葉に変換してしまえば、まんざら旧態も悪いことではないように思えてきます。

確かにこの数十年、日本は世界最先端、JAPAN as No1 の地位から滑り落ち、世界の中での重要度を下げ続けながら生き永らえ、かつての鼻息はすっかり隣の韓国や中国、台湾のものへと移り、それすらもまた過去の話となりつつあります。そのようなブイブイケイケの時代を懐かしむ空気もありますが、いま大人となった目からみればそんな調子こいた驕る平家状態は永續するはずもなく、危なっかしいどころかこっぴどく見えるのは今の日本人の共通感覚でしょう。

翻ってわれわれ日本人はこの失われた数十年何をしていたんだろう、と考えるとき、視点を少し変えると、実は日本国は少子高齢化という世界の趨勢の未知の最先端に立って、ひっそりと人類史上初の絶妙な撤退戦線に成功しつつあるのではないかと最近思うようになりました。

そもそも少子高齢化の問題点には二つの側面があ

ります。一つ目は経済の発展、というか衰退、もうひとつは扶養可能な社会の存続。

前者は労働人口の減少から、需要の減退、イノベーションの低下などなど、発展を必須とする資本主義社会のなかでは高齢化はいいとこ無しです。ただ一般に経済指標となるフロー面での増加率だけ見れば停滞にしかみえない現在の日本ですが、社会全体のストックという面では本当に落ちぶれたのでしょうか。

例えば我々が関わる医療の世界、30年前のバブル絶頂期と比べて劣るものがありますか？ほぼすべての分野で圧倒的な進化があり昔の基準でなされた医療には今なら訴訟もんというものも多いのではないのでしょうか。また高齢化社会の礎と言える介護という社会資本など業界そのものがまだほとんどなく、それ以外のインフラを見ても高速道路しかり、街の利便性、清潔度、安全性しかり。子供から大人まで教育からスポーツ、食、文化、芸術などの経験値とその蓄積は、現代日本をして世界有数の恵まれた国にしているのではないのでしょうか。つい先程までうさぎ小屋に住むエコノミックアニマルと言われていたのはどこの国？という進化がこの数十年に起きていたのは確かだと思われます。

私自身 30 数年前、当時としては十分に恵まれた中流の公務員家庭に育ち、運良く入れた国立大学で



のほとんどバイトに明け暮れ過ぎつつも、海外旅行はおろか焼き鳥屋へ行くのもなかなか叶わぬ貧乏学生で、それこそバブルに沸いた街の喧騒などブラウン管の中の世界でした。そこから今に至る数十年、恵まれた業界で激務に勤しんだとはいえ、まさか自分の家に何本ものシャンパンが（安いレコルトンものばっかですが）ストックされ、（自分で）低温調理した熟成肉を憧れの本焼き包丁で切りつけて藍九谷の染付皿に盛るような生活（をやろうと思えばできる）になろうとは夢想だにできませんでした。

おそらく、ごく一部のかつてのバブル紳士や戦前からの本当のセレブのような方々を除いては、大半の日本人が、市整会のメンバーですら、総合的には今現在の方が30年前よりも豊かな生活を送っておられるのではないのでしょうか。

それはまさしく社会全体のストックのなせる力だと思われまます。

そしてそのストックは実は少子化の中ではむしろより濃縮する形で継承されていくのが日本の現在と未来だと思っています。

例えば私個人は今の仕事を続けるかぎり、何億もの資産を残してこの世を去ることは考えられませんが、子供が一人でしたので、中卒後カナダの高校に通いつつ5年にわたり北米中をスキーで転戦するというような経験を積ませても破産することもなく、今は孫もこのまま一人の予定ですので、知人の創業社長でおそらく数10億以上の本物の富裕層だけども孫15人という家と比べた場合、二世代先の豊かさではそんなに遜色無い可能性大でしょう。というわけで国民の豊かさをフローとしての経済ではなくストック、それも若年者一人当たりの経験値も含めた社会的、文化的ストックと捉えれば日本は凋落よりもむしろ圧倒的な蓄積を人口オーナスを返済しつつ成し遂げてきたと言えると思います。

これから数十年かけて、先進国におそらく手が届き損ねた中国も、移民に依拠して若さと活力と優秀さを手にしてきた欧米諸国も、今まで日本が通ってきた人口オーナスによる成長鈍化と高齢化による社会負担の中をそれぞれの更なる課題とともに突き進むことでしょう。

その先陣を切る日本がどういう道を切り開くか、そこでは先述の少子高齢化社会の問題点二つ目、扶養可能な社会の存続をどう築くかが問われます。

この問題はえてして少子化対策だけに目が行きがちですが、支える側の少数の若年層と支えられる側

の多数の高齢者の比率の問題ですから、分子側の高齢者の一部でも支える分母側に回ることができれば一気に展開が楽になります。そうやって頭数の多い我々くらいまでの世代が、できるだけ人生の最期近くまで社会的に何らかの貢献を続け、おそらく1970年代生まれぐらいが死に始める2050年頃まで踏ん張れば、あとは少子と少死のバランスの取れた豊かで安定した少数社会になり、その姿は数十年遅れでその渦中にある他の国々にとって大いなる希望と目標となるでしょう。

市整会メンバーでも中堅メンバー及びご長寿を成し遂げられた方であれば、十分にその時代の顛末を、しかも高齢者を支える役割を果たしてきた当事者として見届けてから逝けるはずですよ。

具体的にはまずは我々が細く永く役立てるよう働き方を見直さねばなりません。それに合わせ同門会若手達の育成を、かつてのような医局による徒弟制度が限界に来た今、彼らの新たなキャリアパスを再形成すべく各々会員のクリニックを既存の承継制度とは違う形である種のシェアリングのような形態とM & A的な発想を組み合わせることで役立てるものに出来ないかと日々夢想しております。

そんなことができうるならば、市整会のこれからの50年、史上初の人類の未来を賭けたこの国の挑戦の真只中、我々も今からまだまだ存分に楽しめると思いませんか。

2022年11月某日記





V - 整形外科医！
2代目となって



『父』

伊藤 智康 (昭和 63 年入局)

私の父は、昭和 19 年 4 月に大阪市立医学専門学校の 1 期生として入学しています。父の話では、医学校に入学したら徴兵猶予があったことから医者を目指したとのことで、その話が出るも母が「当時やったらこの人、非国民やで」と言っていたのを思い出します。5 年間の学生（当時は 5 年制だったそうです）と 2 年間のインターンを経て昭和 25 年に大阪市立医科大学整形外科に入局しています。その後、大阪市立大学医学部附属病院、関西労災病院、そして大阪市立城北市民病院に勤務し、昭和 43 年に旭区で伊藤外科診療所という名で、有床診療所を開業しています（平成 5 年に医療法人成宏会 伊藤外科・整形外科と改名）。開業時に整形外科を付けなかった理由として、その当時は、整形外科という科が世間一般に、あまり浸透していなかったことから、外科として開業したと聞いています。

自宅兼診療所であったことから、朝から夜まで外来や手術、そして深夜に入院患者や急患の対応する日々で、母も一緒に働いていたこともあり、日頃はあまりかまってもらえなかったことを記憶しています。ただ、休日には時々、遊園地（ひらかたパークが多かったかな）や盆や正月には毎年、海水浴やスキーに連れて行ってもらっていたのを思い出します。以前の診療のエピソードで、かなりの数の手術をこなしていたとのことで、病室が足りず廊下にベッドを置いて術後患者を診ていたことがあったようです。当時、エレベーターが無かったことから 1 階の手術室から 2 階の病室に、時にはプロパー（MR）の方に手伝ってもらい、術後患者を担架で運んでいたとのことです。また、手術も多種多様で、脊椎カリエス（当時は多かったようです）を含め整形外科疾患をはじめ、やけど後の植皮、虫垂炎、パイプカットや包茎手術なども看護師と医師は父 1 人で行っていたと聞いています。父は、60 歳頃までは、趣味と言う趣味が無く、仕事以外は晩酌や市整会の集まりで皆さんとお酒を飲みに行くぐらいが楽しみの

様な生活を送っていたと思います。飲んで帰っているときは、だいたい決まって、戎橋筋商店街の寿司屋の押し寿司をお土産で持って帰って来てくれました。母曰く、そこの看板娘がお気に入りだったそうです。晩年は、ゴルフ、ドライブ、旅行、そしてカラオケ教室に通い、区民ホールでのカラオケの発表会に参加するなど（お世辞にも上手では無かったです）、それこそ人生を謳歌していたと思います。私が父に最も感謝していることは、長生きをしてくれたことです。私が実家の医院に帰ってきたのが 40 歳の時、そして、父が 92 歳で悪性リンパ腫を患うまでの約 15 年間の長きにわたり、傍らで一緒に働けたことが、私の医師としての財産になっていると思います。親子で一緒に医院をしていると、うまくいかないと聞くことがありますが、父の患者は父が、私の患者は私が診るというようにしていたためか、一緒にすることに抵抗を感じることはありませんでした。ただ、何かの時には、お互い相談をしたりはしていましたが。父が亡くなり 1 年半が経過しようとしています。診療をしながら時々、今でも父の影を追っているところがあります。「自分は、まだまだだな」と感じながら、「息子とは、そういうもの」と開き直っています。子供たちに嫌われるかもしれませんが、私も長生きをしようと思っております。

最後に、市整会の皆様によって、父が豊かな人生を送れたと感謝しております。この場をお借りし、お礼申し上げます。ありがとうございました。



昭和 43 年 建設中の旧診療所



昭和 54 年頃 朝潮 (当時 朝夕) 来院



開院当初 右から 3 人目が父



朝潮を診察した縁で大阪高砂部屋後援会副会長をしていました



昭和 45 年頃 生國魂神社にて子供 4 人と (右端が私)



「整形外科！2代目となって」

木下裕介（平成7年入局）

市整会の先生方、平素は大変お世話になっております。H7年4月に市大整形に入局以後多くの先生方から、ご指導・ご教授・ご鞭撻を頂きありがとうございます。まずはこの場をお借りしてお礼申し上げます。また、市整会50周年を迎えるにあたり、市整会を支えてきた諸先輩方に心から敬意を表すると共に、私もその中にいることを嬉しく思っております。

西澤会長より「整形外科！2代目となって」とのテーマを頂きましたが、何を書こうか悩んでおります。大した投稿にはならないと思いますが、お付き合い頂ければ幸いです。

父が松原市に整形外科医院を開業したのは昭和56年です。当時松原市に整形外科医は存在せず父が初めての整形外科医と聞いています。私が医師になったのは平成4年、平成7年に大阪に戻り市大に入局させて頂きました。市大入局後は府立身体障害者附属病院、清恵会病院で勤務した後、平成14年7月に医局人事を離れ、平成20年4月に父の後を継ぐことになりました。ですので整形外科医としての父の姿を見たのは平成14年7月～平成20年3月までです。継承する事になったのは、「そろそろ家に帰ってきて欲しい」と父から言われたこの一言のみです。私の人生において、まともに父から「頼む」と言われたのはこの1回のみです。相談は何回かありますが、頼まれたのはこのこと以外記憶にありません。今から考えても非常に重い一言だったと思います。

父がよく言っていたのは、「外傷は別として、昔の整形外科は小児の学問だった、外来にはCDH(DDH)、側湾、斜頸、内反足の患者様が多数を占めていた。いつの間にか患者様の大部分がOAになった。」と言っていました。本当にその通りで、現在DDHや内反足の患者様が来院されると私には、ほとんど経験が無いため小児整形外科に紹介してしまいます。反対にMRIの読影が苦手とよく言ってま

した。MRIを持参した患者様が来ると、まず私に1回見せてから診察室に患者様を入れていました。世代の違いを感じる瞬間でしたが、明らかに得手・不得手がはっきりしていたので非常に勉強になったのを覚えています。

父の症例を紹介させて頂きます。市大を受診された時の年齢は不明（生年月日 1945年1月23日）女性です。当時の主訴は両股関節痛で診断は両側白蓋形成不全です。木下整形外科医院の初診は2004年11月24日、初診時の主訴は右股関節痛です。当院初診時の診断は右変形性股関節症+左内反骨切り術後です。しばらく父の外来を通してこられました。結局2010年8月25日にR-THAを受けられました。レントゲンを2枚提示させて頂きます。（見にくくて申し訳ございません）大学当時、左側が終わってから右側も手術をする予定でしたが、患者様の申し入れにより右側は手術しなかったそうです。THAを受けられた後に「強引にでも右側も骨切りすれば良かった。」とため息をついた後に「骨切りは、するタイミングと術式を間違わなければTHAにも負けない手術と思う。」と言っていたのが印象的でした。

今回西澤会長より「整形外科！2代目となって」のテーマを頂きましたが、お金では買えない無形の財産も継承出来ることが、2代目の最大のメリットだとおもいます。

長々とお付き合い頂きありがとうございました。今後ともよろしく願い申し上げます。



レントゲン写真1



レントゲン写真2



整形外科医 二代目となって

榎本 誠 (平成 10 年入局)

父が死んでもう 5 年になりますが、恥ずかしながらまだ自分のクリニックであるという自覚がありません。父は非常にマメな人間で、職員の問題解決から給料計算まで、施設の様々なことを全部ひとりでしておりました。(開業医ならあたりまえなのでしょうけど) 父が死んで、それを全部自分一人ではしなければならなくなり非常に困りました。そんななか、開業時より 4 7 年間務めていた職員が退職したり、新しく入った新人の職員が人間関係を悪化させて問題をおこしたり、警察が介入する盗難事件が起こったりと様々な問題が重なりました。そんな中、幸い、私の妻がたまたま三代続く整形外科病院の娘さんで、そういったことの対応能力が非常に高く、職員のことや、事務的な仕事を引き受けて、次々に問題を解決してくれました。私はひたすら診療に集中することができ、非常に助かりました。

2 代目は、もう全てそろっているところを継ぐだけですので、一からクリニックを立ち上げた先生方からすると、本当に楽をさせてもらったと思います。しかし、何から何まで、父色に染め上げられたクリニックのあとを継ぐ事は予想したよりもしんどかったです。私は今でも他人のクリニックを任されているようでリラックスできません。すごく患者さんが多くてうまくいっていても、父が長年作り上げた施設の優秀さによるものだと思います。しかし患者さんが少なくなり、悪い状況になると、どうしてもそれは自分のせいだと思い、本当に落ち込みます。つまり、いくら頑張っても達成感は得られず、よくないことは全部自分の責任になります。また、うちのクリニックは地理的にも不満があります。もし自分ならこんな場所は選ばないと思います。整形外科が密集して数十メートル先にすごく人気の整形外科クリニックがあります。私は車で帰宅時にいつもそのクリニックの前で信号待ちをすることになります。患者さんが少なく早々に帰宅するときに、まだまだ大量にならんだ自転車を見せつけられて、いつも敗

北感を背負って帰宅します。(もう慣れましたが)

しかし、悪いことばかりではありません。数年の期間でしたが父と 2 診体制の時がありました。その間に父が 4 5 年築き上げてきた診療の姿勢などをみせてもらうことができました。いまではそれをうまく引き継いでいると思います。最近、自分の言葉使いや、声のトーンなど本当に父親に似てきたと思います。性格は全然ちがいますが。

なんやかんやで、いろいろ思うこともありますが、なんとかやっております。2 代目もそんなに楽ではないと言いたいです。引き継いだ最初の数年は、「このままではだめだ、もっとがんばらなければ」と絶えず考えていましたが、最近やっと「これでいいだろう」と思えるようになりました。あとは現在高校 3 年生の長男がいつか医学部に合格してくれるのを待つのみです。



VI - アンケート

奥田 好彦

昭和44年入局



1 是非みんなに話したい出来事は？

80才過ぎたら奥田くん、ガタッと来るで、と宮内先生、木下先生に言われました。ガタッと始まりかけています。

2 昔かよった思い出のお店は？

アベノ再開発前。すずめ、みっちゃん、みき屋、いくら食べても飲んででも千円でつりがありました。

3 開業したきっかけは？

勤務医でいたら定年です。

4 もし医者になっていなかったら。

料理人

5 今までやりたかった目標や、夢は？

やりたかった＝マッターホルン登頂
ハワイ旅行
夢＝夢はあります。毎日悪夢でうなされています。

6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

冒険家です。困ったときには力が湧いてきます。

7 今までの旅行で良かった場所

良かった＝妻はヨーロッパと言いますが、私は台風の中行った大村湾－五島列島クルーズ。

8 コロナ関連に対して一言

コロナ関連良いことはありません。仕事しながらワクチン接種の職員高齢化退職。左内側側副靭帯断裂。右アキレス腱断裂、頰椎症による右上肢筋力低下、根性腰痛症による左腰下肢痛。一日も休まず仕事しています。痛風、高血圧症、悪いこと書ききれません。

9 日整会などの専門医は必要か？

必要。開業するとき、日整会やめました。専門医が出来て、再入会しました。80才になり雑誌も送られて来なくなり、連絡が無くなり退会しました。

10 市整会に臨むこと

私が開業したのは、丁度40才になった時でした。そして市整会に入会しましたが、当時市整会という名称はまだ無く、先輩の先生方が広く全会員に懸賞を懸けてアンケートを取られ、市整会という名称が誕生しました。正式に決定するに当たり、他の都道府県に同じ様な名称が無いという事を確認され、市整

会という名称が誕生しました。当時は私の息子も娘もまだ小学生でした。それが今では私には孫6人、大学生3名高校生2名幼稚園年長1名がいます。時代をもっと逆登りますと私の大学生だった頃、東京オリンピックが開催され、医者になった頃大阪万国博覧会が開催されました。当時日本中若者であふれ返っていました。65才以上の高齢者はほんの一握りしかいませんでした。日月火水木金土と仕事、休むのは盆、正月の計6日程でした。50年たった今、高齢者であふれ返っています。この高齢者世界の時代に先輩の先生方が築いてこられました市整会が若があってますます発展していく事を望みます。

11 その他ご意見ご感想

御高齢の先生方の積極的な活動をお願いします。長生きだけでは困ります。

許 国広

昭和44年入局



1 是非みんなに話したい出来事は？

住民税非課税世帯になりました。78才仕方がありません。皆様、明日は我が身。

2 昔かよった思い出のお店は？

アベノの昔の珉珉。

3 開業したきっかけは？

リストラ。子供3人、大変でした。

4 もし医者になっていなかったら。

外国航路、船のり（船長）

5 今までやりたかった目標や、夢は？

やりたかった＝もうありません
夢＝夢はありません

6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

5年リリースは、5年すぎたら払わなくてもいいですヨ！！

7 今までの旅行で良かった場所

良かった場所＝フランス（モンサンミッシェル）
もう一度行きたい＝モロッコ

8 コロナ関連に対して一言

政府の対応が遅い！

9 日整会などの専門医は必要か？

不要

10 市整会に臨むこと

これからも頑張ってください。

■ 11 その他ご意見ご感想

会長の皆様が本当に素晴らしい

吉田 研二郎

昭和51年入局



■ 1 是非みんなに話したい出来事は？

オーディオやらロボットやら、昔欲しかったものをいろいろと取り揃えてみたが、頭やら感覚器がついていけない。

■ 2 昔かよった思い出のお店は？

アベノ銀座は得がたい町。和源はよくいったな。

■ 3 開業したきっかけは？

いい潮時だった。気づけば息子が同じ年になっている。どこでも老人あつかいで、いつやめるのかと言われている。

■ 4 もし医者になっていなかったら。

工学系に行くつもりだった。結局、気のきいた発明は出来ず、レストランで料理人。

■ 5 今までやりたかった目標や、夢は？

やりたかった 物作りをしている間が充実しているが、その目標とやらは、いつもない。これから せっかく物作りの道具は充実してきたので、ちょっとしたものを造ろう。

■ 6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

このコロナがもっとも挫折だろう。多少とも毎年拡大していたものが停滞。体もボロが出てくるし、ダラダラ生活してるし。いまから復活か。

■ 7 今までの旅行で良かった場所

良かった フランス シャンパーニュ ボアイヨでの食事

■ 8 コロナ関連に対して一言

WEB 研修会はただでさえまじめに聞けないのになかなか集中できない。やっている方も反応がないので、少なやんでしまう。

■ 9 日整会などの専門医は必要か？

不要。もう要らない。必要性が明確になると不必要なものわかる。

■ 10 市整会に臨むこと

十分な経済力をつけて、力を発揮してください。

■ 11 その他ご意見ご感想

おつかれさまです。

堀澤 欣弘

昭和54年入局



■ 1 是非みんなに話したい出来事は？

新しいロードバイクを購入しました。古希まで乗るつもりで紫色のフレームにしました。

■ 2 昔かよった思い出のお店は？

北新地「さかもと」コロナ禍以降、通えていません。

■ 3 開業したきっかけは？

・勤務医として、すべき事、したい事はしたかなと思ひ開業しました。
・定年退職してプータロウ？

■ 4 もし医者になっていなかったら。

やはり、人と接する職業ですね。

■ 5 今までやりたかった目標や、夢は？

やりたかった＝自転車で日本一周
これから＝自転車で日本一周。まずは四国一周から。

■ 6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

特になし

■ 7 今までの旅行で良かった場所

良かった＝「伊勢神宮」60歳の時に自転車でお伊勢参りをして、神社と背後の森に魂が揺さぶられました。
もう一度＝「イギリス・ボーンマス」高校生の時にホームステイした町です。

■ 8 コロナ関連に対して一言

対面です。やはり皆で集うという事はとても大事です。

■ 9 日整会などの専門医は必要か？

不要です

■ 10 市整会に臨むこと

会員間の交流。

■ 11 その他ご意見ご感想

これからも宜しくお願いします。

鳴嶋 真人

昭和 54 年入局



1 是非みんなに話したい出来事は？

エリザベス女王国葬に伴う国王交代による今後のイギリス連邦 54 カ国の行方

2 昔かよった思い出のお店は？

マルヨシ (洋食店, 阿倍野キューズモールに移転し現在も存在)

3 開業したきっかけは？

勤務医として過剰に充実した日々燃え尽きました。勤務医でしたら研究生活か医学系の学校の先生になっていたかも。

4 もし医者になっていなかったら。

建築士または陶芸家

5 今までやりたかった目標や、夢は？

自分で建築設計した家に、好きなものに囲まれた空間で暮らすこと。

6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

近親者との別れによる挫折感と悲しみ。その人がいつも心の中に生き続けていて、いつもその人と対話している気分になるように心がける。

7 今までの旅行で良かった場所

良かった=ドゥブロンヴニク (クロアチア)
もう一度=アルハンブラ (スペイン)

8 コロナ関連に対して一言

岡江久美子、志村けんがコロナで亡くなったこと。
病院や施設入所者との面会が困難になったこと。
WEB や Skype での対応でことが足りることがある、ことを知ったこと。

9 日整会などの専門医は必要か？

必要。整形外科医としてのレベル維持には必須でしょう。

10 市整会に臨むこと

大学, 勤務医会等の組織力を生かして, 学術的かつ臨床的研究に協力をして成果をあげたい。

11 その他ご意見ご感想

市整会は全国的に見ても他大学 (旧国立大学) にもない, 会員約 200 名を擁する大規模でユニークな組織であり, 他大学の先生より見て, 羨望の組織会であるということ。目的は, 資質

向上, 相互扶助, 親睦であり, 自負と矜持を持って, 発展し希望に邁進し運営してほしいです。

宮脇 裕二

昭和 55 年入局



1 是非みんなに話したい出来事は？

お墓の移転

2 昔かよった思い出のお店は？

梅田地下街のカレーの店ピッコロ。テレビでは皆インディアンカレーがおいしいと言うが、納得できません。

3 開業したきっかけは？

手術時、皮切から顕微鏡を使用。

4 もし医者になっていなかったら。

オーディオ屋の店主

5 今までやりたかった目標や、夢は？

やりたかった=MRI の買い替え (3 回目)
これから=日本酒三銘柄の飲み比べ
十四代、新政、黒竜石田屋

6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

挫折したら、必ず誰かが助けてくれる。お前はそういう星や！その誰かは家内でした。

7 今までの旅行で良かった場所

良かった=モナコ、カンヌ
もう一度=サントロペ

8 コロナ関連に対して一言

コロナ禍で増えたのは体重。職員の欠勤対策が大変、海外旅行に行けないこと。

9 日整会などの専門医は必要か？

必要。単位のために研修会へ行く。

10 市整会に臨むこと

全体的な若返り。

11 その他ご意見ご感想

大阪公立大学となって市整会の名前は残す、あるいは変える？

秋野 一男

昭和56年入局



1 是非みんなに話したい出来事は？

スマホが使えないと何も出来ないと気づき、なるべくスマホに慣れるように頑張っています。キャッシュレス、ディディ等もしています。

2 昔かよった思い出のお店は？

40年程前によく行っていた大林ビルの30階だったと記憶しているポンドシェール。夜景が綺麗で、今よりもリッチな感じでしたね。

3 開業したきっかけは？

組織の一員でなく、自分がやりたいようにしたいと思いました。勤務医でしたら、そろそろ定年かな？

4 もし医者になっていなかったら。

建築士になり、建物を建てたい。

5 今までやりたかった目標や、夢は？

やりたかった＝過去、現在にとっても満足して
ます

これから＝ヘボゴルフのライバル（天野先生、奥田先生）に負けないようにしたい。

6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

今まで家族、友人、恩師に恵まれ、幸せな人生を送ってきました。いろいろな場面で、語り尽くせないほど、助けられ教えられました。

7 今までの旅行で良かった場所

良かった＝南アフリカ

もう一度＝南アフリカでブルトレインに乗りたい（郷ひろみさんもテレビで話していました）

8 コロナ関連に対して一言

WEB研修会も、なかなか楽しいです。早く終息し、海外旅行に行きたいです。

9 日整会などの専門医は必要か？

必要。運動器リハのセラピスト制度には助かっています。

10 市整会に臨むこと

皆様との親睦を、今後も希望しています。

11 その他ご意見ご感想

若年の先生方に刺激を受けています。是非多くの御参加を希望しております。

斧出 安弘

昭和56年入局



1 是非みんなに話したい出来事は？

今年の4月に内視鏡検査を受けて、胃癌が見つかりました。この数年来、自覚症状もなく、血液検査の腫瘍マーカーも、何も引っかかった事はありませんでした。先生方、60才を超えたら、毎年胃カメラ、大腸ファイバーを受けましょう。

2 昔かよった思い出のお店は？

南八幡筋の「浅井・東迎」、千日前の「ごんべ」、天王寺の「こんび」、いずれも諮問委員会で、利用していました。

「浅井・東迎」と、「ごんべ」は、開業前から、もう20年以上お世話になっています。「こんび」は、まだ比較的新しいお店です。

「浅井・東迎」さんは、45周年の座談会でお世話になりました。今回も、お世話になります。「こんび」の女将は、ポップス歌手で、市整会の新年会にも、2回出演してくれました。

コロナ禍で、最近行けていませんでしたが、それぞれ頑張っておられます。

3 開業したきっかけは？

病院で勤務して管理者になったが、最終的に小さくても「一国一城の主」になりたいと思うようになった。ずっと勤務医でいたら、今頃は精神的に疲れていたと思う。

4 もし医者になっていなかったら。

医師になって良かったと思っている。他に思い浮かばない。

5 今までやりたかった目標や、夢は？

土地付きの家を持ちたかったが、かなわなかった。

これからの目標は、スキューバダイビングで300本を目指す事。

6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

いくつかあったと思いますが、もう思い出せません。

7 今までの旅行で良かった場所

パラオにもう一度行ってダイビングをしたい。

8 コロナ関連に対して一言

WEBの研修会ばかりになったが、昔のように対面での研修会が早期に復活することを望んでいます。そして、飲食店で、はやく感染対策なしに、飲食できるようにって欲しい。

9 日整会などの専門医は必要か？

若い間は、研修会を受ける動機づけになると思

われるので必要と思う。この年齢になると、勉強が必要な時は、その都度メーリングリストで相談をかけて、すぐにいろいろ教えていただくことができるので、専門医の必要性は無くなってきたと感じている。次の専門医の更新は、しないつもりになっている。

■ 10 市整会に臨むこと

若い先生方には、開業するなら、市整会活動に是非とも参加し、盛り上げていただきたいです。

市整会の今後ますますの発展を望んでいます。

喜馬 秀樹

昭和56年入局



■ 1 是非みんなに話したい出来事は？

数年前のホールインワン

■ 2 昔かよった思い出のお店は？

アポロビル地下食堂街

■ 3 開業したきっかけは？

リタイヤ後は、バイトと趣味か。

■ 4 もし医者になっていなかったら。

建築士

■ 5 今までやりたかった目標や、夢は？

日常に埋没して不詳

■ 6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

親の病気をきっかけに、親の土地で開業

■ 7 今までの旅行で良かった場所

良かった＝北アルプスの山々

■ 8 コロナ関連に対して一言

入院患者とデイケア利用者の感染に気を使う

■ 9 日整会などの専門医は必要か？

必要。

■ 10 市整会に臨むこと

不参加が多く申し訳ない。

長濱 信一

昭和59年入局



■ 1 是非みんなに話したい出来事は？

オカリナで「コンドルは飛んでいく」を吹けるようになったこと

■ 2 昔かよった思い出のお店は？

あべの銀座にあった王将

解剖実習後に食べた餃子がおしかった

■ 3 開業したきっかけは？

部長職になり会議や雑務が増え、医業以外のことに時間を費やさなければならなくなったため勤務医のままであったら、今頃は退職してバイト生活をしていると思う

■ 4 もし医者になっていなかったら。

エンジニア系の仕事。モノ作りをしたかった

■ 5 今までやりたかった目標や、夢は？

やりたかった＝フルマラソンでもう1回自己ベストを出したかった

これから＝腹筋が6パッドになること（目標というより願望ですが・・・）

■ 6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

挫折：開業してしばらくして資金が底をついたこと

復活のアドバイス：開業医の先輩が絶対大丈夫と言ってくれたこと

■ 7 今までの旅行で良かった場所

良かった＝沖縄の座間味島

もう一度＝ニース

■ 8 コロナ関連に対して一言

良かったこと：Web講演でいっぱい単位が取れたこと

悪かったこと：職員が突然休むこと

■ 9 日整会などの専門医は必要か？

必要。なんちゃって整形外科医ではないことの証明

■ 10 市整会に臨むこと

これからも変わらず存続してほしい

天野 祐一

昭和57年入局



1 是非みんなに話したい出来事は？

大人数で船を漕ぐドラゴンボートは残念ながら休止で、テニスも昼休みに集まる仲間が減りあまり出来ていません。パーソナルな遊び、運動にシフトしております。そこで40年間ずっとへボなゴルフをブラッシュアップしようと密かに某練習場に通っております。

18年ぶりにオートバイに復帰しました。これについては投稿で。

2 昔かよった思い出のお店は？

時代は変わる、30年続く飲食店はほとんどありません。シェフの働き盛りは短い。我が身に写してもそれは同じかも知れません。あれだけ通ったあの店も閉めたし、この店もなくなったし、。そんな中で福島のみちの・ルー・トゥールビヨンはシェフが哲学を持っておりファンが沢山いて、コロナ禍でもケータリングサービスに活路を見出したり頑張っています。たまに訪れます。この2年はハイボールバーにもほとんど足を運ばず知らぬ間になくなったお店の多いことか。跡に出来た店は若いマスターばかりで『新しい酒は新しい酒袋に、』の格言通り、爺さんの出る幕はないようです。

3 開業したきっかけは？

開業前に働いていた病院で週に7コマ、1日200人の予約外来患者を診ていて、これは医療事故を起こしてしまう、と危機感を覚えたからです。

4 もし医者になっていなかったら。

高校の時の適性は文系で、そっち方面かなとも思っていました。ずっと医師志望だったので他には考えられません。

7 今までの旅行で良かった場所

以前も書きましたが、パラオのホテルから見た夕焼け空ですね。目の前には浅瀬のきれいな浜辺が有り、透明度がすごいので巨大なシャコ貝が口を開いてすぐ足の届く所に原色の赤色や青色があふれており、びっしりと広がってこの世のモノとは思えない景色でした。まだまだ見たい絶景は山ほどありますが引退後ですかねー。

8 コロナ関連に対して一言

内科も標榜していたのと以前からのインフルエンザワクチン接種をしていた関係で、コロナワクチン接種を始めましたが、それとともに発熱外来もする羽目になりました。民意に後押しされた政府の号令でしょうが、この欄では書けないような政府や大阪府、大阪市からの補助金や協力金がわんさかと有りました。整形外科はリハビリ患者さんがかなり減ってきており厳しい状況ですが、トータルで言えばプラスであり、結果的にはコロナ騒ぎは乗っかってよかったかなど、、、。

9 日整会などの専門医は必要か？

不要。あまり役に立っていない

10 市整会に臨むこと

前会長の言うことではないかも知れませんが、(原稿がここで途切れているため要確認)

増田 博

昭和57年入局



1 是非みんなに話したい出来事は？

60の手習いでギターを習いはじめました。

2 昔かよった思い出のお店は？

三国丘高校時代、高校前にあった三国屋。今のおすすめは羽曳野串揚げ松風

3 開業したきっかけは？

島田病院で機嫌よく働いていたのに移動の話があった。勤務医でいたら、医長ぐらいになったかな。

4 もし医者になっていなかったら。

パイロット

5 今までやりたかった目標や、夢は？

やりたかった=豪邸を建てる
これから=断捨離

6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

明けない夜はない

7 今までの旅行で良かった場所

良かった=マチュピチュ
もう一度=マチュピチュ

8 コロナ関連に対して一言

2年前の4月、5月、患者さんが減って泣きそうだった。なんとか補償してほしかった。研修会に情報交換会が必要。

■ 9 日整会などの専門医は必要か？

不要。あまり役に立っていない

■ 10 市整会に臨むこと

急な休診の際に、大学医局からの応援を確実なものにしてほしい

■ 11 その他ご意見ご感想

いろいろな会に会員の先生方の積極的な参加を

古瀬 洋一

昭和60年入局



■ 1 是非みんなに話したい出来事は？

乗り鉄 四国のJR線全線走破完了

■ 2 昔かよった思い出のお店は？

トゥール・ドール (TOUR D'OR) (閉店してます)
今お勧めのお店：ラテラス

■ 3 開業したきっかけは？

妻の恫喝
勤務医でいたら：業者との癒着で逮捕

■ 4 もし医者になっていなかったら。

JAXA でロケット開発

■ 5 今までやりたかった目標や、夢は？

やりたかった＝タイガースの監督
これから＝ファーストクラスで世界一周

■ 6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

挫折の連続でまだ復活していません

■ 7 今までの旅行で良かった場所

良かった＝バロー口村
もう一度＝シャモニー

■ 8 コロナ関連に対して一言

人生初の長期間の外出自粛で、
①ギャンブル依存症ではなかった
②夜の街中毒ではなかった
③アルコール依存である
以上が判明した。

■ 9 日整会などの専門医は必要か？

今までは必要だったが今後は不要
「元整形外科専門医」で標榜する

■ 10 市整会に臨むこと

病氣した時のバックアップ

大川 得太郎

昭和62年入局



■ 1 是非みんなに話したい出来事は？

英語の論文を書いてから、英語の医学雑誌より、次回の論文投稿依頼のメールがドンドン来るようになりました。もう20くらい来ております。また、いろいろの海外の学会より、招待するので口演をして欲しいという学会のご招待。医学雑誌より骨粗鬆症関連の論文のレフリー依頼まで来てビックリしております。

■ 2 昔かよった思い出のお店は？

和歌山市駅前より10分位南に位置するラバンというフレンチレストラン。なんと夜のディナーが3980円ポッキリ。それなのに倍くらいの値段がしても、全然不思議のないレベルの内容です。安くて、美味しい、お得感満彩。でも、グルメの先生には、合わないかも知れません。

■ 3 開業したきっかけは？

私は、医学部に入学する時から、整形外科と決めておりました。手術など、細かい作業が好きで、天職と思っておりましたが、40才中頃より、老眼が進み、手元が見にくくなってきて、手術が楽しく無くなってきました。老眼鏡を使っても、手術時は苦痛になってきたのがきっかけです。

■ 4 もし医者になっていなかったら。

元々は歯科医を希望でしたが、受験に失敗して、浪人。その後、成績が伸びて、整形外科医を目指しました。

■ 5 今までやりたかった目標や、夢は？

日本一の整形外科医。評価は自分でします。

■ 6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

大学受験に失敗して、浪人生活。くじけそうになっていた時に、浜村淳の映画紹介をラジオで聞きました。ロッキーの映画の紹介で、とっても印象に残り、大阪では上映終了して、神戸まで観に行き。感動して4回観ました。何度も倒れても起き上がるその姿に、心打たれ、受験頑張ることが出来ました。

■ 7 今までの旅行で良かった場所

良かった＝グランドケイマン。スキューバダイビングに凝っていた頃、1週間船上で、グランドケイマン諸島を廻る無制限ダイビングが良かったです。
もう一度＝同じです。

■ 8 コロナ関連に対して一言

コロナ禍に、父親が別の病気で入院。面会もままならず、ガラス越しにしか面会できず、結局そのまま亡くなり、見送ったのは辛かったです。

■ 9 日整会などの専門医は必要か？

必要。専門医は、最低限の基礎レベルです。持っていて、当たり前。自分の頑張りは自分が評価しますが、専門医は対外的な評価として必要です。ただそれを維持するかはその人次第。勉強は必要なので自ずとしていくものです。

■ 10 市整会に臨むこと

行事の見直し、若い先生の参加。今までの規定の行事をこなすことに、決まった先生が苦勞するのは馬鹿げています。本当に必要な行事に絞り、いろいろな若い先生も参加出来る市整会にしないと、市整会の未来はありません。1度クリアにして、大改革しないと、生き残れないでしょう。

■ 11 その他ご意見ご感想

上記です。

竹中 稔幸

昭和62年入局



■ 1 是非みんなに話したい出来事は？

なし。この2年間は本当に大したことが何もありませんでした。かなしいなあ。

■ 2 昔かよった思い出のお店は？

お勤めの店は、福島区の鮎処「敏」、御堂筋の和洋遊膳「中村」、難波の「法善寺 浅草」。いずれもコスパ最高です。

■ 3 開業したきっかけは？

病院に入職した際の約束(手術件数増やしてくれたら年俸あげる)を反故にされたから。

■ 4 もし医者になっていなかったら。

営業。開業して人(患者)に合わせるのが得意になったから

■ 5 今までやりたかった目標や、夢は？

夢は宇宙旅行。
これからの目標は日本の名所を全て巡ること。

■ 6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

挫折は特にないけど、進学していくにつれて周りに賢い人が増えてきて、中にはとんでもなく頭の切れる人がいるなあ実感するようになって

きたこと。

■ 7 今までの旅行で良かった場所

良かった＝箱根。関東の人は優しいなあ実感した。
もう一度＝もう一度行くよりまだ行ったことがないところへ行きたい。

■ 8 コロナ関連に対して一言

平日のWEB研修会は開催時間が早すぎるので診察終わってないから聴講できない。もう少し遅い時間に開催して。

■ 9 日整会などの専門医は必要か？

必要。今後のお上の方針がわからないからとりあえずは維持しておかないといけないかな。

■ 10 市整会に臨むこと

各年代仲良くしていきたいです。

■ 11 その他ご意見ご感想

今後も楽しく交流しましょう。

西澤 徹

昭和62年入局



■ 1 是非みんなに話したい出来事は？

医者になって4年目に船舶免許を取得、4年前に免許を復活させました。ふと思立って、ボートを購入。時々手前船頭で大阪湾に浮かんでいます。今のところ愚息の釣りあげた53cmのハマチが最高。昨年1級船舶免許取得

■ 2 昔かよった思い出のお店は？

貧乏学生やったし、医者になってからも食道楽する懐ではなかったです。
嫁さんの手料理で満足。

■ 3 開業したきっかけは？

仏国留学から帰って、半年日雇い身分の勤務後、独り整形外科の千石荘病院へ。2年間勤務し、移動希望するも完無視。実力がなかったのでしょう。3年目の秋開業を望んでいた父が死去し、依然移動に色よい返事をもらえず、身も心も腐る前に開業を決意しました。医局を離れる発想がなかった。
勤務医の嫁さんとして過ごすつもりだった妻は、散々しんどい目して、今でも恨んでいると思います。

■ 4 もし医者になっていなかったら。

優秀な頭脳があれば、警察官僚か検事になりた

いです。

5 今までやりたかった目標や、夢は？

やりたかった目標夢

小説家デビューしたかった

これからの目標夢

障害者行政の末端でボランティアをしたい
時間ができれば、ボートで瀬戸内海1周と車で
日本全国をまわりたい

6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

高校は最下位合格でした。1学期の中間試験、
一生懸命勉強しておおクラスの最下位。期末も
最下位。初めて劣等生の気持ちがありました。
今でも努力する天才には勝てないと考えますが、
その彼らが自分の数倍努力しているのを目の当
たりにし、結局はひたすら前を見て努力するし
かないと思いました。

7 今までの旅行で良かった場所

良かったところ スイスアルプス 1週間ほど
毎日トレッキングしました。オーストリアアル
プスも趣は異なりこれもよかったです。

もう1度行きたいところ フランスのスキー
リゾート。コンドミニウムを借りて1週間スキー
三昧したい。2023年彼の国でラグビーワールド
カップなので1か月間レンタカーでジャパンを
追いかけてみたいものであります。

8 コロナ関連に対して一言

マスコミは偏った情報の垂れ流しを辞めてほし
い。真逆の説を唱える学者もいるではないか。
感情で動く国民を見るにつけ、日本人は昭和20
年からまったく成長していないと感じる。コロ
ナフリーよりフリーコロナが日本を救うと信じ
る。

9 日整会などの専門医は必要か？

不要 今の専門医は勤務医であったとしても
不要では？

10 市整会に臨むこと

名門のプライベートクラブのように、会員であ
ることがステイタスであるような会を目指して
ほしい

11 その他ご意見ご感想

高い会費を払うわけですから、市整会を存分に
利用していただきたいです。

伊藤 智康

昭和63年入局



1 是非みんなに話した い出来事は？

今まで植物に、ほとん
ど興味はありませんで
したが、今年の春頃からクリニックの玄関横に
草花を植えて、毎朝水やりをしています。自分
が育てている花が、きれいに咲くのを見ると心
が癒やされます。

2 昔かよった思い出のお店は？

地元の旭区にあります「魚伊本店」。鰻が有名で
すが、ハリハリ鍋も絶品です。

3 開業したきっかけは？

父が開業医で、いずれは継承をと考えていて40
歳を迎えた時に、えい！やー！って感じです。
勤務医でいたら今頃は？・・・想像出来ません。

4 もし医者になっていなかったら。

物を作る仕事。建築士とか。

5 今までやりたかった目標や、夢は？

ゴルフでパープレイ！

6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

挫折を感じたことはありません。寝たら都合よ
く忘れてしまいます。

7 今までの旅行で良かった場所

富良野

8 コロナ関連に対して一言

患者減。未だになかなか戻ってこない。
対面も必要だが、忙しいときはWEB助かります。

9 日整会などの専門医は必要か？

必要。自分にはあまり興味の無い分野でも、
単位取得のために研修会に参加し、知見を広げ
ることが出来る。患者さんへのアピールとして
も必要。

10 市整会に臨むこと

若い先生が、どんどん参加してくれるような会
になれば良いと思います。

日下 昌浩

平成5年入局



1 是非みんなに話したい出来事は？

御朱印 Walk がお勧めです

2 昔かよった思い出のお店は？

鯛すし（現スシロー）

3 開業したきっかけは？

オーストリアの医師にアキレス腱の論文で先を越された為

4 もし医者になっていなかったら。

水産学博士（ウナギの完全養殖はオレが…）

5 今までやりたかった目標や、夢は？

やりたかった＝鮪の完全養殖（先を越された、またも）

これから＝early retire、百姓、漁師

6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

アホ学生だった頃、患者（身内？要確認）から先生と呼ばれ、これではイカンなと思った。（今でもアホですが）

7 今までの旅行で良かった場所

良かった＝沼津深海水族館

もう一度＝室戸岬

8 コロナ関連に対して一言

マスクありきの時勢で、インフルエンザがパッと流行しなくなって良かった

9 日整会などの専門医は必要か？

必要。一つの目安にはなりませんね

10 市整会に臨むこと

友と先輩が亡くなり、みなさんの健康〇〇が目立ちます。みなさんで休日を受け、外来サポート体制を（要確認）

11 その他ご意見ご感想

いつも役に立たなくてすみません

荒木 良守

平成6年入局



1 是非みんなに話したい出来事は？

海外渡航再開したので、また、プノンペンで外来できるようになりました。

2 昔かよった思い出のお店は？

谷町九丁目駅すぐ「ふる里」。非常にレトロです。昭和40年の雰囲気を残しています。

3 開業したきっかけは？

同僚のドクターがやけに開業をすすめるので、のってしまいました。特に必然性なく、なりました。

4 もし医者になっていなかったら。

街の電気店店主。電化製品が好きなので。

5 今までやりたかった目標や、夢は？

やりたかった＝病院を運営してみたかったです。有床診をやってみてこりました。

これから＝海外の診療所をタイやベトナムにも作りたいです。

6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

高校の柔道部で試合したとき、3分間の試合でしたが、技あり、有効とられてほぼ負けてたのに、2分50秒で1本とれて勝ったことがありました。また、別に2分59秒まで優勢だったのに最後の1秒で投げられて1本負けになったこともありました。勝負事は最後までわからないものだな、と思いました。仕事の挫折は山ほどあります。

7 今までの旅行で良かった場所

良かった＝カナダのバンクーバー

もう一度＝ロタ島

8 コロナ関連に対して一言

コロナの一件で大きく時代が変わったことを感じます。人々の心情、人間関係、ビジネスのあり方も含め、新基準に合わせて変わらないと取り残される不安で一杯です。WEB研修会はどこでも〇〇〇〇できて良いのですが、対面のほうが好きです。

9 日整会などの専門医は必要か？

必要。アジアでは持っている専門医の数が多いほうが格が上がる様です。

10 市整会に臨むこと

会員が大分高齢化しています。月～土まで毎日仕事ではなく、会員同志でいくらか分担できる制度もあればいいですね。いくつか体調不良等で代診が必要なクリニックのお手伝いに行つてその様に感じました。

11 その他ご意見ご感想

市整会が未永く続くよう期待しております。

木下 裕介

平成7年入局



1 是非みんなに話したい出来事は？

コロナ以後大きな活動はしていません。

2 昔かよった思い出のお店は？

学生時代(福岡)で深夜に通った元祖長浜。ラーメン1杯200円、替え玉50円は忘れられない。

3 開業したきっかけは？

父に口説かれた。

4 もし医者になっていなかったら。

農産物の研究・開発

5 今までやりたかった目標や、夢は？

とりあえずあと10年はこのまま頑張ります。

7 今までの旅行で良かった場所

やっぱりスペイン、次はポルトガルにも行ってみたい。

8 コロナ関連に対して一言

研修会は対面が良い、研修会後以前のような懇親会も早く復活して欲しい。

9 日整会などの専門医は必要か？

今は持っていた方が良くと思う。10年後は不必要かな。

10 市整会に臨むこと

色んな世代の先生方との交流の場であって欲しい。

鱧永 浩

平成7年入局



1 是非みんなに話したい出来事は？

メンタルが病んでしまったのですが、なぜか心が少年のように、素直で純粋な心になった気がしています。

2 昔かよった思い出のお店は？

すすきののアンドロメダ明菜。着ぐるみを着て歌がうたえます。

3 開業したきっかけは？

家庭の事情でやむを得ず。勤務医でいたら、その後頸椎ヘルニアになって手がしびれてるので、思ような手術はできないかもしれません。

4 もし医者になっていなかったら。

実業家になり、いろいろなことをしてみたい。

5 今までやりたかった目標や、夢は？

やりたかった=その時時で、一生懸命でしたので、とくにありません。
これから=楽しく平和な職場でいられますように。健康でいたいです。

6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

まず、自分自身を大切にしようとアドバイスをうけて、助けられました。

7 今までの旅行で良かった場所

良かった=ハワイ島
もう一度=オアフ島

8 コロナ関連に対して一言

感染したり、濃厚接触者に自分になると、クリニックを閉めないといけなくなるので困ります。WEB学会は便利でした。

9 日整会などの専門医は必要か？

必要。系統だった勉強は、資格を得るためにもそれを維持するためにも必要だと思います。

10 市整会に臨むこと

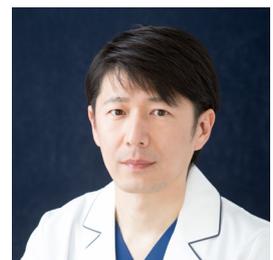
特にございません。

11 その他ご意見ご感想

皆さまが健康でありますように。

宮口 正継

平成7年入局



1 是非みんなに話したい出来事は？

働きすぎたので少し自分の自由時間をつくる(以前もこのようなことは言っていた気がする)

2 昔かよった思い出のお店は？

阿倍野も滅多に行かなくなりましたので、、、大学生時代と言えば、お好み焼き「はやし」、医者になってからは「菊や寿司」(大衆寿司)、連れて行ってもらうなら「鯛すし」(スシロー創業者の店)、知っている方は少ないと思いますが「あしべ」という鉄板の店は良く利用していました。はやしはわかりませんがいづれもなくなくなりました。移転してから訪れたことはありませんが「和源」、アポロ地下の「魚市」は健在ですかね。飲みではカラオケ以

外では「Mr. タナカ West」が最終流れ着く定番でありました。

■ 3 開業したきっかけは？

父親が63歳と比較的若くして他界したため。

大学病院は研修医・大学院生と入局して6年間過ごしましたが、案外性に合っていたようなので、実家の事情がなければ大学に長く残っていたと思います。

■ 4 もし医者になっていなかったら。

まったく思いつきませんが料理人とか・・・(料理しません)

■ 5 今までやりたかった目標や、夢は？

平日の混雑しない時に釣りに行きたい。場所取り合戦やおまつり(仕掛け同士が絡んでしまうこと)はうんざりです。

■ 6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

幸い大きな機転となるような挫折は思い当たりませんが、共通一次試験で得点源であった英語の試験終了時間を15分勘違いして、最後の長文大設問を5分で解答しなくなったときは頭が真っ白になりました。そのため大学受験の際の第一志望は後期論文試験となり駄目でしたが、実力的にも妥当なところで納得もあり悔しいとかもあまりなかったです。現役で合格できてほっとした方が大きかったです。

■ 7 今までの旅行で良かった場所

一番は新婚旅行で行ったモルジブ(当時は水上コテージにとても憧れていました)。

元気なうちにもう一度訪れてみたいですが、休み1週間はないと厳しいのでまあ無理でしょう。お気に入り奄美大島で、子供が小さい時に3回訪れました。

あと石垣島は2度ありますが、宮古島は行ったことがないので興味はあります。

行ったことはありませんがハワイよりは奄美・宮古島を選びますねえ。

■ 8 コロナ関連に対して一言

単位取得や勉強のための受講機会と言う点では断然WEBですが、懇親会での親睦やついでにグルメや呑みに足を伸ばすのも楽しみのひとつだったので当面はハイブリットが有難いですね。ただ学会などで取って現地に出かけることで生まれる出会いや経験は捨てがたいですし、経済や地域活性の観点からもまだ必要なのではないのでしょうか。

■ 9 日整会などの専門医は必要か？

必要。知識のアップデートや維持には勉強が必要ですが、単位更新のためのノルマなどが

ないとなかなか忙しさにかまけてしまうのと、興味のある分野ばかりに偏向してしまうでしょう。好き嫌いに問わず関連する必要な知識の習得は必要。また、医師としての技量と経営がうまくいくは必ずしも合致しない現実もあるので、最低限の医療技術はきちんと習得するよう若いうちの教育システムは必要だと思います。

■ 10 市整会に臨むこと

新しい世代の人達からも支持されるようにどうしていくのか。

合理主義の新しい世代の人達に、非合理的なことも多い伝統の良い面もどう知っていただきどう融合していくのか 難しいところだと思います。

■ 11 その他ご意見ご感想

50周年記念 携わってくださっている理事の先生方 お疲れ様でした。

森川 献志漢

平成8年入局



■ 1 是非みんなに話したい出来事は？

サザエさんを見ていて、磯野波平さんが54歳と知り、今年その年齢を迎えるため複雑です。それと、マイトピックスは子供たちの馬術生活です(宜しければ、自由投稿を読んでみて下さい)。

■ 2 昔かよった思い出のお店は？

・藤井寺の『Ryo』という中華料理屋さん。近所にありマスターは元全日空ホテルグアムの料理長までされていた方で味も最高、コスパも抜群でしたが、残念ながら昨年閉店されました。(涙、涙、)

・狭山の『加賀』さん、最近御無沙汰しておりますが、昔はゴルフの練習後よく立ち寄りしておりました。繊細な味の懐石料理屋さんです。この記事を書きながら、久しぶりに行ってみたいくなりました。

・ラーメンなら谷町9丁目の『junk story』絶品塩ラーメンです。

■ 3 開業したきっかけは？

研究者として未来の何千、何万の患者さんを助けるのではなく、目の前の患者さんと接していたから

■ 4 もし医者になっていなかったら。

生まれ変わるなら、2食昼寝付きの森川家の犬になりたいです。

違う職業を選ぶとすれば、大工かな？

■ 5 今までやりたかった目標や、夢は？

幼少時は漫画家になりたかったが、今は仕事が充実している中、時々 Golf を楽しみにしております。

■ 6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

悲観的な言葉が多い中、入院中に『絶対よくなる！』と、知り合いの先生に初めて言ってもらえた時に、なんととしてでも復活してみせると思えました。

■ 7 今までの旅行で良かった場所

良かった＝ハワイ島
もう一度＝ BigIsland

■ 8 コロナ関連に対して一言

単位を取るための WEB 研修会は良いが、市整会での先輩・後輩と食事を楽しみながら勉強する機会がなくなった事は寂しい。

■ 9 日整会などの専門医は必要か？

不要。勉強は自分の為にするもので、やらされるものではないと感じるから

■ 10 市整会に臨むこと

繁栄の先の 100 周年

■ 11 その他ご意見ご感想

若手の先生方の積極的な参加を宜しくお願い致します

榎本 誠

平成 10 年入局



■ 1 是非みんなに話したい出来事は？

ネコ（スコティッシュ）を飼い始めたこと。今は家族の中心。

■ 2 昔かよった思い出のお店は？

金沢にある「クック」という店。異常な量の料理で、学生の時でないと食べきれない。（けどおいしい）

■ 3 開業したきっかけは？

きっかけ＝2代目なので必然的に勤務医なら＝特に、普通に勤務医だと思

■ 4 もし医者になっていなかったら。

何かを作る職人。

■ 5 今までやりたかった目標や、夢は？

やりたい＝息子に跡をついでもらいたい
これから＝早く引退して田舎でのんびり暮ら

したい

■ 7 今までの旅行で良かった場所

良かった＝小笠原 父島 母島
もう一度＝小笠原の南島

■ 8 コロナ関連に対して一言

コロナに感染し、10日間休診になり、なさけない。

■ 9 日整会などの専門医は必要か？

要

水沢 慶一

平成 10 年入局



■ 1 是非みんなに話したい出来事は？

最近、中学 3 年生の息子に身長を追い越されました。小学生の頃から息子に教えたバスケットボールでも、今や私なんか全く相手になりません。でも、それがなんか嬉しいです。

■ 2 昔かよった思い出のお店は？

済生会中津病院の向かいの中華風居酒屋「Doko」可愛くてよく気が利く店員さんがいて、研修仲間と毎日のように通ってました。今はオシャレに改装されて、その店員さんもいませんでした…。

■ 3 開業したきっかけは？

手術件数が年間 400 件ぐらいになり、さすがに気力・体力的にキツくなってたのと、北大阪地震の時に、やはり家族の近く・地元の近くで働いていた方がいいなと思ったから

■ 4 もし医者になっていなかったら。

教師か料理人

■ 5 今までやりたかった目標や、夢は？

トライアスロンの最高峰「アイアンマンレース」の世界選手権が毎年ハワイで行われているのですが、将来的にはいつか出場してみたいです。

■ 6 今まで経験してきた、挫折と復活は？

長女が 5 歳の時に小児悪性脳腫瘍を発症し、手術・化学療法・放射線治療を受けました。阪大と大阪市立総合医療センターで治療を受けたのですが、おかげさまで今は元気に寛解状態です。その長女が来年から保育士として、幼稚園の「せんせい」として就職が決まりました。その経験から「死ぬこと以外、かすり傷！」という境地に至っております。

■ 7 今までの旅行で良かった場所

沖縄の宮古島

トライアスロンで毎年行ってます。東洋一のビーチ前浜で3km泳ぎ、島をぐるっと1周半150kmを自転車で回り、島の横断の往復を42km走るといふ、宮古島を堪能できるレース、最高です。これからも毎年行く予定です

■ 8 コロナ関連に対して一言

例えばコロナ禍で増えたWEB研修会(研修会はWEB or 対面どちらが良い?その理由は?等)コロナの第一次緊急事態宣言の真っ只中の開業でしたが、豊中市のコロナワクチン接種を請け負ったおかげもあり、逆に患者も増えたと思いますので、悲喜交々です。

■ 9 日整会などの専門医は必要か?

開業して特に思いますが、単位を取るために講演を聞くだけでも、やはり医療知識の維持や向上に必要だと思う
専門医か否かで診療報酬に差をつけて欲しいですね

■ 10 市整会に臨むこと

これから考えていきます

小竹 志郎

平成11年入局



■ 1 是非みんなに話したい出来事は?

スタッフの退職を機に木曜午前休診にしました。週中ほどで元々休みの水曜午後から木曜15時頃まで空きますので、すっかり生活変わりました。近場旅行くらい行けてしまいます。無料製図ソフトのスケッチアップを使っての趣味のDIYも復活、この冬は琵琶湖パレイの年間券も購入しようかと

■ 2 昔かよった思い出のお店は?

僕にとって新地は鮨屋の街でした。大御所の平野やのぐち、かつての医局の人材育成もかくやとそこから育った多田やさえきはじめ多くの弟子たちが星を取り。。。結果今や高すぎて医者風情では通えませんのでさらに若手の1万円台のお店開拓をしています。おすすめは西天満の寿し処すみれでしょうか。

■ 3 開業したきっかけは?

家系に医者もおらずこの業界のキャリア形成の道筋にも疎く働いていましたが外傷屋さんでは先々厳しいことが見えてきて、再入学高

齢組であったことも併せ自然に開業に向かった感じですね

■ 4 もし医者になっていなかったら。

料理人 実は高校受験の時も大学受験の時も辻調の願書持ってたくらい。料理界の東大に行ってたらか今頃皆さんに通っていただけてたかも、とは思えないほど今時の料理人みんなすごすぎ。つくづくならなくてよかった
あとは、漁師、というよりは釣り師、バイクレーサー、小説家、大工 等々夢は色々ありました

■ 5 今までやりたかった目標や、夢は?

何よりやりたいのは開業医と勤務医の働き方改革、これに市整会が活かしたらと思います
これは投稿の方でも
趣味系の目標は結構もう満足してます。車は高校時代から50代になったらカレラに乗ろうとほざいていたのが先年コロナ融資の残りで友達が下取りに出す予定の素の991を譲ってもらい成仏し、市整会のために始めたゴルフも必死で9まではいったけどそこまで、もうあまり飛ばないから荒れないし、練習してもしなくてもあんまりスコア変わらないという体たらくに落ち着きました
人生最後は念願の船の免許とって海辺の小屋建てて釣りを一生幸せになろうかと

■ 6 今まで経験してきた、挫折と復活は?

受験勉強はじめ落ちこぼれたり落ちこちたり行き詰まったり、そんなことばかりですね。センター試験5回も受けたの僕くらいのはず。そんな時でも常に夢は半眼でみつづ現実と擦り合わせて生き延びてきたように思います

■ 7 今までの旅行で良かった場所

良かった=ツェルマット クールデザルプスという岩盤を掘ったワインカーブの上の絶壁に立つ宿が超絶かっこよかった
もう一度=バルト海 ストックホルムからヘルシンキまで飛行機キャンセルしてフェリーで一昼夜無数の小島に立つ岸辺の家々のなんと可愛いことそれに引き換え日本の家はなんでこんなにかっこ悪いんだろう

■ 8 コロナ関連に対して一言

災禍というものに出会うことで社会全体の危機感と経験値が増すのはこれからの西日本大震災に備えて悪くなかったとも考えます

■ 9 日整会などの専門医は必要か?

実用性はないけどやっぱり宿題の提出がなければ勉強しないので僕には必要でしょう

■ 10 市整会に臨むこと

実用性、実利
ということで働き方改革



VII - 市整会の歩み
(年表)

※平成 28 年までは 45 周年記念誌に掲載

平成 29 年

H29.10.15 (日)

市整会 45 周年記念祝賀会

ANA クラウンプラザホテル 3 F 万葉西中

受付：午後 5 時～

開宴：午後 5 時 30 分～

参加御来賓 6 名、会員 52 名、家族 38 名合計 96 名

H29.10.28 (土)

『『これからの整形外科のかたち』を考える会』

(健保介護診療担当勉強会)

ヴィアール大阪(本町) 午後 4 時 45 分～

共催：久光製薬参加者 22 名

演題 1

「関節エコー画像からみた疼痛への
アプローチについて」

座長： 馬野隆信

演者： 大阪市立大学大学院

整形外科病院講師 岡野 匡志先生

演題 2

「整形外科の痛みへのエコーによる
アプローチ (入門編)」

座長： 小竹志郎

演者： おおかわ整形外科クリニック

大川 得太郎先生

ハンズオンセミナー

「運動器診療におけるエコーの導入と実践」

座長： 大川 得太郎

H29.11.18 (土)

市整会学術文化講演会

ホテルモントレグラスミア大阪 2 1 階ルピナス
16:00～

共催：日本臓器製薬

総合司会：明石健一

参加：市整会会員 24 名、市整会家族 3 名、同門
会 3 名、非会員 6 名、合計 36 名

学術講演

「腎障害患者における薬物治療の注意点」
—安全性を考慮した整形外科領域の薬剤選択—

座長： 西澤徹

演者： 名古屋大学大学院医学系研究科

循環器・肝臓・糖尿病 (CKD) 先進診療

システム学寄附講座准教授

安田 宜成 先生

文化講演

「最新の動物の認知研究から：
思いの外ヒトに近い動物たち」

座長： 天野祐一

演者： 大阪市立大学大学院理学研究科

理学部生物学科教授

幸田 正典 先生

H29.12.03 (日)

市整会ゴルフコンペ

泉ヶ丘 C C 参加者 5 組、20 名

H29.12.20 (水)

諮問委員会

平成 30 年

H30.01.20 (土)

市整会新年会

場所：ANA クラウンプラザホテル「平安北」

学術講演共催：エーザイ

総合司会：小竹 志郎

参加：学術講演会 25 名、新年会 50 名

学術講演

「骨粗鬆症性椎体骨折の新たな治療戦略」

座長： 増田 博

演者： 大阪市立大学大学院医学研究科

整形外科科学病院講師

高橋 真治 先生

特別講演 17:00～、新年会 18:30～

アトラクション：Cocoro さん

H30.03.10 (土)

市整会学術講演会

共催：小野薬品

参加：合計 86 名

出席：市整会 35 名 同門会 20 名 その他 29 名 理学療
法士 2 名

場所：ホテルモントレグラスミア大阪 21 階スノーベリー

総合司会：増田 博

学術講演 1
「関節エコーを用いた運動器・関節リウマチ診療の実際」

座長： 小竹 志郎

演者： 大阪市立大学大学院医学研究科

整形外科学病院講師

岡野 匡志 先生

病院紹介 佐野記念病院

白庭病院

学術講演 2
「野球医学～高分解能MRIからコーチングまで～」

座長： 西澤徹

演者： 国立病院機構西別府病院

スポーツ医学センター副長

野球医学科

馬見塚 尚孝 先生

H30.04.07 (土)

諮問委員会

H30.04.21 (土)

29年度後期理事会・市整会フォーラム

(講演会のみ共催：久光製薬)

理事会 17時～、フォーラム 18時～

ヴィアーレ大阪

出席者 20名、委任状 25通 (理事総数 61名)

演題

「関節外科の進歩～患者満足度向上への取り組み～」

座長： 明石健一

演者： 医療法人啓信会 中之島いわき病院院長

岩城 啓好 先生

H30.05.12 (土)

市整会総会

ヴィアーレ大阪

講演会のみ共催：科研製薬

(出席者 39名、委任状 112通、会員 196名・・・

総会成立)

学術講演 1
「末梢神経損傷に対する人工神経を用いた治療 基礎と臨床」

座長： 小竹 志郎

演者： 大阪市立大学大学院医学研究科

整形外科学大学院生

横井 卓哉 先生

学術講演 2
「最近の大阪における社会保険審査について」

座長： 増田 博

演者： 医療法人岩本整形外科院長

岩本 善介 先生

H30.06.03 (日)

スケルトンゴルフコンペ

天野山C C

参加：市整会 24名、勤務医 15名、総勢 39名 (10組)

H30.06.16 (土)

学術講演会

共催：旭化成

南海スイスホテル 16:00～

総合司会：明石 健一

(参加者市整会 51名同門 22名非会員 63名合計 136名)

学術講演 1

「整形外科医にもきいてほしい高脂血症の話」

座長： 増田博

演者： 国立循環器病研究センター研究所病態代謝部長

斯波 真理子 先生

学術講演 2

「陥入爪、巻き爪の原因と最新の対処法」

座長： 小竹 志郎

演者： 医療法人社団瑞雲会高田馬場病院整形外科

町田 英一 先生

学術講演 3

「骨粗鬆症性脊椎疾患：注意すべきポイントと対策」

座長： 大川 得太郎

演者： 秋田大学大学院医学系研究科医学専攻

機能展開医学系整形外科学講座准教授

宮腰 尚久 先生

H30.09.08 (土)

市整会学術文化講演会

共催： 日本臓器製薬

総合司会：小竹志郎

16時～天王寺都ホテル

参加：市整会 32名家族 3名同門会 6名非会員 (演者含) 6名合計 47名

学術講演

「がんとロコモティブシンドローム (がんロコモ) のトータルケア

～「入院から在宅へ」のいま、求められる整形

外科医の役割とは?～」

座長： 西澤 徹

演者： 大阪国際がんセンター整形外科
骨軟部腫瘍科副部長
大島 和也 先生

文化講演

「古地図で愉しむまち歩き」

座長： 天野 祐一

演者： 株式会社竹中工務店大阪本店技術担当顧問
大阪くらしの今昔館ミュージアム
ボランティア町家衆
酒井 祐一 先生

H30.09.28 (金)

諮問委員会

H30.10.13 (土)

『『これからの整形外科のかたち』を考える会』

(健保介護診療担当勉強会)

共催：久光製薬

大阪第一ホテル 午後 3 時 45 分から

総合司会：馬野隆信

参加者：32 名 (演者を含む)

演題 1

「脊椎画像診断の撮影範囲内で見つかる 泌尿器科疾患～特に前立腺癌について～」

座長： 増田 博

演者： 杉本泌尿器科 院長
杉本 俊門 先生

演題 2

「100 年生きたらどうします？ 我々が最期まで役立つために」

座長： 増田 博

演者： こたけ整形外科院長
小竹 志郎 先生

演題 3

「共創の医業承継 ～新税制から承継の現状～」

座長： 馬野 隆信

演者： 河村会計事務所
河村 好夫 先生

H30.10.20 (土)

平成 30 年度前期理事会・市整会フォーラム

講演会のみ共催：帝人ファーマ

理事会 18 時～、フォーラム 19 時～情報交換会

20～21：30 ANA クラウン

出席者 16 名、委任状 34 通 (理事総数 60 名)

演題

「大腿骨頭壊死症：最近の話題」 -骨粗鬆症を背景とした脆弱性骨折・ 大腿骨頭軟骨下骨折との鑑別

座長： 小竹志郎

演者： 和泉市立総合医療センター整形外科部長
溝川 滋一 先生

H30.10.28 (日)

市大整形外科 70 周年記念式典

H30.11.18 (日)

家族会 (京都方面)

参加者 39 名

豊臣秀吉の側室の淀殿とお江が建てた「養源院」(浅井長政の菩提寺)と三十三間堂観光。

織田信長の甥である織田頼長ゆかりの「左阿彌」での京懐石料理。

H30.12.02 (日)

市整会ゴルフコンペ

泉が丘 CC

6 組 22 名

H30.12.21 (金)

諮問委員会

平成 31 年 (令和元年)

H31.01.26 (土)

市整会新年会

場所：ANA クラウンプラザホテル

学術講演共催：エーザイ

講演会参加者 21 名、新年会参加者 38 名

総合司会：森川献志漢

学術講演

「転移性脊椎腫瘍の診断と治療」

座長： 増田 博

演者： 大阪市立大学医学部附属病院整形外科
鈴木 亨暢 先生

アトラクション：初田悦子さん

H31.03.09 (土)

市整会学術講演会

共催：小野薬品

場所：ホテルモントレグラスミア大阪 21 階「スノーベリー」

総合司会：明石健一

講演会参加者市整会 34 名同門会 9 名非会員 15 名合計 58 名

学術講演 1

「関節リウマチ患者における転倒・骨折のリスクマネジメント」

座長：西澤 徹

演者：大阪市立総合医療センター

整形外科 医長

多田 昌弘先生

病院紹介 石切生喜病院 河野 浩 先生

十三市民病院 田中 亨先生

学術講演 2

「整形外科医に知ってほしい感染症～インフルエンザを中心に～」

座長：増田 博

演者：地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪はびきの医療センター主任部長

橋本 章司 先生

H31.04.12 (金)

諮問委員会

H31.04.20 (土)

H 30 度後期理事会・市整会フォーラム

(講演会のみ共催：久光製薬)

場所：ヴィアーレ大阪 3F『華の間』17：00～

出席者 19 名、委任状 29 通 (理事 58 名)・・・
理事会成立

学術講演

「一般整形外科医のための 骨軟部腫瘍と疼痛」

座長：明石 健一

演者：社会医療法人人生長会 府中病院 整形外科部長

家口 尚 先生

R 1.05.18 (土)

市整会総会

講演会のみ共催：科研製薬

場所：ヴィアーレ大阪『レガート』16 時～

参加：出席者 31 名、委任状 106 枚、会員 190 名・・・
総会成立

学術講演 1

「脂肪由来幹細胞を用いた新たな関節リウマチ治療法の開発」

座長：小竹 志郎

演者：大阪市立大学大学院医学研究科

整形外科学大学院生

上山 秀樹 先生

学術講演 2

「最近の審査状況について」

座長：宮内 晃

演者：(医)有馬外科・整形外科

寺川 文彦 先生

R 1.06.15 (土)

学術講演会

共催：旭化成 16：00～

場所：スイスホテル南海大阪 8 階孔雀

総合司会：明石健一

参加人数：市整会 37 同門会 25 非会員 90 合計 152 名

学術講演 1

「発育期運動選手における腰痛のマネジメント」

座長：長濱 信一

演者：福島県立医科大学医学部

整形外科学講座助教 医局長

加藤 欽志 先生

学術講演 2

「コンタクトスポーツの安全性に対する意識改革」
ーワールドカップ 2019 を控えたラグビーと他競技の比較ー

座長：豊川 英樹

演者：愛染橋病院整形外科部長

日本・関西ラグビーフットボール協会安全対策委員

大阪府ラグビーフットボール協会安全対策委員長

中村 夫左央 先生

学術講演 3

「ロコモ関連、病診連携での骨粗鬆症治療・テリパラチドの使い方」

座長：西澤 徹

演者：宮崎大学医学部整形外科教授

帖佐 悦男 先生

R 1.06.16 (日)

スケルトンコンペ

天野山カントリークラブ

参加：30 名 8 組

R 1.07

会誌発行

R 1.08.30 (金)

諮問委員会

20時～

R 1.09.07 (土)

令和元年度前期理事会・市整会フォーラム

講演会のみ共催：帝人ファーマ

ホテルモントレ大阪（梅田）

理事会出席者13名、委任30通；理事会成立（理事60名）フォーラム出席人数：29名（演者の先生含）

学術講演

「**関節リウマチの診断と治療**
～最新の話～」

座長： 馬野 隆信

演者： 大阪市立大学大学院医学系研究科

整形外科学病院講師

岡野 匡志 先生

R 1.10.26 (土)

第6回これからの整形外科のかたちを考える会

（共催：久光製薬）

場所：AP 大阪駅前梅田一丁目

時間：16時～

参加者：会員22名

御家族並びにスタッフ7名（合計29名）

学術講演 1

「**アレルギー性鼻炎の最近の話**」

座長： 小竹 志郎

演者： 大阪市立大学大学院医学系研究科

耳鼻咽喉科学病院教授

阪本 浩一 先生

学術講演 2

「**働き方改革で医療機関の労務管理は
何が変わるのか**」

座長： 馬野 隆信

演者： 社会保険労務士法人エルクエスト代表社員 /

特定社会保険労務士

仲田 雄大 先生

R 1.11.16 (土)

市整会学術文化講演会

共催：日本臓器製薬

総合司会：明石健一

場所：都シティ大阪天王寺（旧天王寺都ホテル）

5階「高取」

時間：16時45分～

参加人数；会員22名家族3名同門会1名非会員16

合計42名

学術講演

「**整形外科医にも知っていただきたい
アレルギー性皮膚疾患**」

座長： 西澤 徹

演者： 地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪はびきの医療センター診療局長兼

皮膚科主任部長

片岡 葉子 先生

文化講演

「**宇宙医学に学ぶロコモ予防と医療安全**」

座長： 天野 祐一

演者： 宇宙航空研究開発機構客員研究員

前宇宙医学生物学研究室長、

徳島大学客員教授、

久留米大学客員教授

大島 博 先生

R 1.11.17 (日)

市整会家族会奈良方面

法隆寺観光と「奈良十三屋」での懐石料理。

赤膚（あかはだ）焼き絵付け体験。

参加者；会員16名、ご家族20名合計36名

R 1.12.08 (日)

市整会ゴルフコンペ

泉ヶ丘CC

参加人数；5組18名

R 1.12.20 (金)

諮問委員会

令和2年

R 2.01.25 (土)

市整会新年会

リッツカールトン17時30分～

参加：講演会38名：会員35名、ご家族49名
合計84名

学術講演

「骨粗鬆症性椎体骨折の診断と治療の変遷」

座長： 増田 博

演者： 大阪市立大学整形外科 教授

中村 博亮 先生

新年会のアトラクション：

Cocoroさん

R 2.03.06 (金)

臨時諮問委員会

R 2.03.14 (土)

市整会学術講演会

共催：小野薬品 / ブリストル・マイヤーズスクイ
ブ株式会社

⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し中止

ホテルモントレーグラスミア大阪

21階「スノーベリー」17:00～

総合司会：西澤徹

学術講演1

「クリニックにおけるエコーを活用した足部、 足関節疾患の診断と治療の実際」

座長： 増田 博

演者： 医療法人社団高倉整形外科

クリニック 理事長

高倉 義幸 先生

学術講演2

「RA 最新治療戦略と感染症状対策を含む 合併症対策」

座長： 小竹志郎

演者： 大阪市立大学医学部附属病院

整形外科病院教授

乾 健太郎 先生

病院紹介 浪速生野病院

泉大津市立病院

R 2.04.17 (金)

諮問委員会

⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し中止

R 2.04.25 (土)

令和元年度後期理事会・市整会フォーラム

(講演会のみ共催：久光製薬)

⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し、メールで資料
をお送りしそれで議論し討議する事となりました。

⇒全60名の理事の先生方のうち35名の委任を頂き
理事会成立

(委任状を頂いた先生19名、名誉理事の先生方16名)

TKP ガーデンシティ理事会 17時から、フォーラム

18時から

学術講演

「人工膝関節置換術の現況と将来展望 —術後疼痛管理も含めて—」

座長： 西澤 徹

演者： 阪和第二泉北病院阪和人工関節センター総長

格谷 義徳 先生

R 2.05.23 (土)

市整会総会

ヴィアール大阪 レガード 16:00～

講演会のみ共催：科研製薬

⇒コロナの感染拡大で自粛し、議案書を郵送し委任状
137通を頂き、少人数で総会を開催しました。

学術講演1

「ケモカインを用いた半月板修復促進 治療法の開発」

座長： 小竹志郎

演者： 大阪市立大学大学院医学研究科整形外科学

大学院生

西田 洋平 先生

学術講演2

「最近の審査状況と請求で注意する点」

座長： 天野祐一

演者： ますだ整形外科クリニック院長

増田 博 先生

R 2.05.31 (日)

スケルトンゴルフコンペ

天野山CC ⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し中止

R 2.06.20 (土)

学術講演会

共催：旭化成

A N A クラウンホテルプラザホテル大阪3階「万葉東中」

16:00～

総合司会：明石健一

⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し中止

学術講演 1

「一般整形外科外来における 小児整形外科診療の要点」

座長： 宮内晃

演者： 大阪市立大学大学院医学研究科
整形外科学病院講師
中川 敬介 先生

学術講演 2

「妊娠・授乳中の薬物治療 - 関節リウマチを中心に -」

座長： 増田 博

演者： 国立研究開発法人国立成育医療研究
センター
周産期・母性診療センター主任
副センター長／妊娠と薬情報センター
村島 温子 先生

学術講演 3

「骨粗鬆症治療レビュー ～骨形成促進剤を中心に～」

座長： 大川 得太郎

演者： 埼玉医科大学整形外科教授
宮島 剛 先生

R 2.09.04 (金)

諮問委員会

⇒コロナウイルスの感染拡大で ZOOM によるオンライン会議

R 2.09.12 (土)

令和 2 年度前期理事会・市整会フォーラム

場所ホテルモントレ大阪 6F メヌエット

講演会のみ共催：帝人ファーマ

理事会 18 時からフォーラム 19 時から

演題

「変形性膝関節症の治療戦略 —最近のガイドラインと人工膝関節置換術を中心に—」

座長： 西澤 徹

演者： 阪和第二泉北病院副院長
格谷 義徳 先生

⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し、ZOOM 会議で議論し討議しました。

出席者： 16 名、委任状： 22 通・・・理事会成立

R 2.10.10 (土)

「『これからの整形外科のかたち』を考える会」

(健保介護診療担当勉強会)

共催：久光製薬

⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し中止

R 2.10.24 (土)

市整会学術文化講演会

共催：日本臓器製薬梅

田丸ビル（大阪第一ホテル）17 時～

学術講演

『腰痛疾患診療のピットフォール ～診断から治療まで～』

演者： 京都府立医科大学大学院医学研究科

運動器機能再生外科学（整形外科教室）講師

長江 将輝 先生

文化講演

演者： 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

広報部特任担当役

宮里 光憲 様

⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し中止

R 2.11.15 (日)

家族会

京都南禅寺観光、昼食南禅寺参道菊水

⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し中止

R 2.12.11 (金)

諮問委員会

⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し、ZOOM 会議で議論

R 2.12.13 (日)

市整会ゴルフコンペ

泉が丘 CC (8:08 葛城スタート)

⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し中止

令和 3 年

R 3.01.23 (土)

市整会新年会

リッツカールトン中村教授の御講演

⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し中止

R 3.03.13 (土)

市整会学術講演会

共催：小野薬品工業株式会社

⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し WEB 講演での開催(単位なし) 17:00～

総合司会：小竹志郎

参加人数：事前登録 252 名、当日視聴者 192 名

学術講演 1

「クリニックにおけるエコーを活用した足部・足関節疾患の診断と治療の実際」

座長：増田博

演者：医療法人社団

高倉整形外科クリニック 理事長

高倉 義幸 先生

学術講演 2

「自衛隊中央病院における、新型コロナウイルスの感染症対処の概要」

座長：柴田 和弥

演者：医療法人社団 恵養会 武田クリニック

(前自衛隊中央病院長)

上部 泰秀 先生

R 3.04.17 (土)

令和 2 年度後期諮問委員会

(ZOOM で WEB 開催)

R 3.04.24 (土)

令和 2 年度後期理事会

(ZOOM で WEB 開催)

理事総数 58 名、当日参加者 14 名、委任状 42 通(名誉会員 15 名、会員 29 名)・・・理事会成立

R 3.05.22 (土)

市整会総会

講演会のみ共催：科研製薬

(ZOOM で講演会なしの WEB 開催)

5:00～

出席：16 名、委任状：130 通(会員総数 192 名)・・・総会成立

R 3.06.26 (土)

市整会学術講演会

共催：旭化成

ANA クラウンプラザホテル大阪

(WEB とサテライト会場の二本立て)

16:00～19:30

総合司会：明石健一

会場参加：26 名(演者 3 名、市整会会員 15 名、同門会 3 名、その他 5 名)

Web 視聴医師：28 名(市整会会員 12 名その他 16 名)

学術講演 1

「一般整形外科外来における小児整形外科診療の要点」

座長：宮内 晃

演者：大阪市立大学大学院医学研究科

整形外科学病院講師

中川 敬介 先生

学術講演 2

「妊娠・授乳中の薬物治療 - 関節リウマチを中心に -」

座長：増田博

演者：国立研究開発法人国立成育医療研究センター

周産期・母性診療センター

主任副センター長／

妊娠と薬情報センターセンター長

村島 温子 先生

学術講演 3

「骨粗鬆症治療レビュー ～骨形成促進剤を中心に～」

座長：大川 得太郎

演者：埼玉医科大学整形外科教授

宮島 剛 先生

R 3.06 (日)

スケルトンゴルフコンペ

⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し中止

R 3.09.17 (金)

諮問委員会

21:00～(ZOOM で WEB 開催)

R 3.10.02(土)

令和 3 年度前期理事会・市整会フォーラム

講演会のみ共催：帝人ファーマ

参加者：13 名(理事総数 58 名、委任状 4 1 通(名誉会員 12 名、会員 29 名)・・・理事会成立)

コロナの状況でフォーラムは中止、理事会は WEB での開催

学術講演

**「人工膝関節置換術の現況と将来展望
ー術後疼痛管理も含めてー」**

演者： 阪和第二泉北病院阪和人工関節センター総長
格谷 義徳 先生
会場：TKP ガーデンプレミアム（心斎橋）

R 3.10. ? (?)

「『これからの整形外科のかたち』を考える会」

(健保介護診療担当勉強会)

共催：久光製薬

コロナの拡大状況から、会員に有益な情報を馬野先生から発信することで講演会の替わりとする事となりました。

R 3.10.30 (土)

市整会学術文化講演会

共催：日本臓器製薬

会場：オービックホール

総合司会：竹中稔幸先生

参加人数：会員 20 名、非会員 6 名

市整会家族 5 名

演者八田先生合計 32 名

(演者、座長含む)

学術講演

**「慢性疼痛と神経障害性疼痛に対する
薬剤選択の実際」**

座長： 小竹志郎

演者： 淀川キリスト教病院

整形外科主任部長

大阪市立大学整形外科客員准教授

高松 聖仁 先生

文化講演

「身近な卵の驚くべき秘密 Oh ! Eggciting」

座長： 増田博

演者： 京都女子大学家政学部食物栄養学科教授

八田 一 先生

R 3.11

家族会

⇒コロナウイルスの感染拡大で企画なし

R 3.12.10 (金)

諮問委員会

(ZOOM で WEB 開催)

R 3.12.12 (日)

市整会ゴルフコンペ

泉が丘 CC

8 時葛城コーススタート、5 組 17 名 (会員 15 名、ご夫婦 2 名の参加)

令和 4 年

R 4.01. 末

市整会新年会

⇒コロナウイルスの感染拡大で自粛し中止

公式行事でない新年会を予定しましたが、オミクロン拡大により中止となりました。

R4.03.19 (土)

市整会学術講演会

共催：小野薬品/ブリistol・マイヤーズスクイブ株式会社
17 時から場所ホテルモントレグラスミア 2 1 階スノーベリー

総合司会： 明石 健一

会場参加 19 名、WEB 視聴 22 名

講演 1

**「高尿酸血症・痛風の診断と治療」
～ガイドライン改訂を踏まえて～**

座長： 増田 博 先生

演者： 大阪市立大学大学院医学研究科

代謝内分泌病態内科学講師

藏城 雅文 先生

講演 2

「変形性膝関節症に対する新規関節注射治療」

座長： 竹中 稔幸 先生

演者： 島根大学医学部整形外科学教室教授

内尾 祐司 先生

病院紹介 1. なにわ生野病院

2. 泉大津市立病院

コロナ禍の事もあり、メーカーの事情で案内は同門会限定で送付させて頂きました。

R4.04.15 (金)

諮問委員会

(ZOOM で WEB 開催)

R4.04.23 (土)

令和3年度後期理事会・市整会フォーラム

(講演会のみ共催：久光製薬)

講演会のみ、情報交換会は無し

TKP ガーデンシティ PREMIUM 大阪駅前 17 時
(フォーラム)、18 時開始 (講演会)

理事総数 60 名、委任状 38 通 (名誉会員 9 名、
会員 26 名)、参加者：13 名・・・理事会成立

学術講演

「正直 TKA、過去・現在 & 未来」

座長： 西澤 徹

演者： 阪和第二泉北病院阪和人工関節センター
センター総
長格谷 義徳 先生

R 4.05.07 (土)

市整会 50 周年記念式典

第 1 回準備委員会

R4.05.21 (土)

市整会総会

(講演会のみ共催：科研製薬) 16 時～総会、

17 時～講演会

(出席者 12 名、名誉理事 58 名 (内、委任状 25
通) 委任状 77 枚、会員 187 名・・・総会成立)

淀屋橋 KAKEN ビル 6 階大阪市中央区伏見町 3-
3-8

Tel: 06 - 6231 - 8888

演題名

「白色家兎の軟骨欠損に対する多血小板 フィブリン (PRF) シートとマイクロ フラクチャーを組み合わせた治療の 組織学的検討」

座長： 小竹志郎

演者： 大阪公立大学大学院
医学研究科整形外科学
木下 拓也 先生

R4.06.11 (土)

学術講演会の前に

市整会 50 周年記念第 2 回準備委員会

ANA クラウンプラザホテル 4F「高砂の間」

15:00～開始

R4.06.11 (土)

学術講演会

(共催：旭化成) 16:00～19:30

ANA クラウンプラザホテル

参加：53 名 (市整会員 36 名・同門会員 2 名・それ
以外 15 名 (演者 3 名含む))

学術講演 1

「終末期医療における「医療が無力なとき」の 医師の役割」

座長： 小竹志郎

演者： 医療法人みのり会おかやま在宅クリニック院長
岡山 容子 先生

学術講演 2

「最新の関節リウマチ治療 ～生物学的製剤から JAK 阻害薬まで～」

座長： 増田博

演者： 大阪はびきの医療センター副院長
アレルギー・リウマチ内科
緒方 篤 先生

学術講演 3

「重度骨粗鬆症の診断と治療」

座長： 大川得太郎

演者： 東京大学大学院医学系研究科整形外科学准教授
骨粗鬆症センター センター長
齋藤 琢 先生

R 4.06.26 (日)

スケルトンゴルフコンペ

天野山ゴルフクラブ

8 時～参加 22 名

R4.07.02 (土)

第 3 回市整会 50 周年記念準備委員会

(ZOOM にて開催)

R4.09.03 (土)

第 4 回市整会 50 周年記念準備委員会

(ZOOM にて開催)

R 4.09.10 (土)

令和 4 年度前期理事会・市整会フォーラム

講演会のみ共催：帝人ファーマ

会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 心齋橋 パンケッ
ト 3A 16～19 時

(出席者 14 名、名誉理事 16 名 (内、委任状 4 通)
委任状 17 通、理事総数 59 名・・・理事会成立)

フォーラム参加者：19名

学術講演

「骨粗鬆症の薬物療法と椎体骨折への対応」

座長： 増田博

演者： 大阪公立大学大学院医学研究科整形外科学
高橋 真治 先生

情報交換会はなし（記念式典前に、過去5年間で入会された先生方との座談会を開催）

R4.09.17（土）

第5回市整会50周年記念準備委員会

R 4.10.?（土）

『『これからの整形外科のかたち』を考える会』

（健保介護診療担当勉強会）

コロナの情報発信を行うことで、本年度は中止

R 4.10.02（日）

市整会50周年記念式典

午後5時30分～

ザ・リッツ・カールトン大阪2階 ザ・グランド・
ボールルーム

参加人数：95名

（会員 45名、御家族 44名、未就学児 6名）





VIII - 資料



この5年間の市整会ゴルフコンペとスケルトンゴルフコンペの報告

担当理事 天野 祐一

市整会30周年記念誌の頼 功先生のゴルフコンペレポートによると、1995年から毎年12月に市整会有志によるゴルフコンペが始まり、途中から勤務医と開業医の交流ゴルフコンペ(団体対抗戦)に変わっていったようです。1997年12月第4回はコンペの名称がスケルトン忘年ゴルフコンペでした。その後、鹿児島ゴルフツアーが鹿児島在住の上釜健市先生や平田宗興先生の企画で2001年2月から始まり、永らく開催されたようです。当時は大学医局の半数以上の先生がゴルフをされており、大学の外科系医局対抗戦もあったとお聞きしています。なんと大阪労災病院には敷地内に数席のゴルフレンジまであったそうです。

その後製薬業界の協力が得られなくなる等の事情もあり、スケルトンゴルフコンペを大学主催から市整会で開催するようになったとお聞きしています。

それで6月にスケルトン、12月に市整会ゴルフコンペ開催が定着してきました。最近の市整会のゴルフ人口の減少や2020年からの新型コロナウイルス感染症蔓延でゴルフコンペ開催も自粛を余儀なくされる年もありましたが、2022年は何とかスケルトンも開催出来ました。資料が散逸したコンペも有りますが御了承下さい。

第25回スケルトンゴルフコンペ順位(敬称略) 天野山 CC 2018.6.3 参加者39名

| 順位 | 参加者 | 西 | 北 | GROSS | HDCP | NET |
|-----|-------|----|----|-------|------|------|
| 優勝 | 森沢康二 | 42 | 43 | 85 | 13.2 | 71.8 |
| 2位 | 原 好延 | 43 | 42 | 85 | 13 | 72 |
| 3位 | 大草良夫 | 44 | 41 | 85 | 13 | 72 |
| 4位 | 山田賢太郎 | 49 | 49 | 98 | 26 | 72 |
| 5位 | 村上将一 | 54 | 49 | 103 | 30 | 73 |
| 6位 | 林 正樹 | 43 | 50 | 93 | 19.2 | 73.8 |
| 7位 | 安田浩成 | 45 | 47 | 92 | 18 | 74 |
| 8位 | 馬野隆信 | 50 | 47 | 97 | 22 | 75 |
| 9位 | 楯 憲一郎 | 46 | 52 | 98 | 23 | 75 |
| 10位 | 小島孝仁 | 45 | 39 | 84 | 8.4 | 75.6 |
| 11位 | 田中直史 | 47 | 48 | 95 | 19 | 76 |
| 12位 | 玉井孝司 | 52 | 64 | 116 | 39.6 | 76.4 |
| 13位 | 島田比呂志 | 42 | 44 | 86 | 9 | 77 |
| 14位 | 浦勇武志 | 44 | 48 | 92 | 15 | 77 |
| 15位 | 喜多義将 | 53 | 51 | 104 | 26.4 | 77.6 |
| 16位 | 吉田研二郎 | 49 | 53 | 102 | 23 | 79 |
| 17位 | 森川献志漢 | 59 | 68 | 127 | 48 | 79 |
| 18位 | 伊藤智康 | 48 | 47 | 95 | 15.6 | 79.4 |
| 19位 | 高橋真治 | 50 | 44 | 94 | 14 | 80 |
| 20位 | 長濱信一 | 47 | 48 | 95 | 15 | 80 |

| 順位 | 参加者 | 西 | 北 | GROSS | HDCP | NET |
|-----|------|----|----|-------|------|------|
| 21位 | 竹村 進 | 50 | 57 | 107 | 27 | 80 |
| 22位 | 古瀬洋一 | 54 | 54 | 108 | 28 | 80 |
| 23位 | 中村博亮 | 57 | 52 | 109 | 29 | 80 |
| 24位 | 大木 毅 | 63 | 65 | 128 | 48 | 80 |
| 25位 | 金井秀彰 | 51 | 51 | 102 | 21 | 81 |
| 26位 | 中村 卓 | 61 | 57 | 118 | 37 | 81 |
| 27位 | 山本展生 | 66 | 61 | 127 | 45.6 | 81.4 |
| 28位 | 小竹志郎 | 46 | 45 | 91 | 9 | 82 |
| 29位 | 上野憲司 | 54 | 53 | 107 | 25 | 82 |
| 30位 | 寺井秀富 | 55 | 62 | 117 | 35 | 82 |
| 31位 | 天野祐一 | 49 | 56 | 105 | 20 | 85 |
| 32位 | 秋野一男 | 52 | 55 | 107 | 22 | 85 |
| 33位 | 元田忠伸 | 65 | 63 | 128 | 43 | 85 |
| 34位 | 鳴嶋真人 | 55 | 60 | 115 | 28 | 87 |
| 35位 | 堀 悠介 | 66 | 67 | 133 | 43 | 90 |
| 36位 | 増田 博 | 55 | 61 | 116 | 24 | 92 |
| 37位 | 鈴木亨暢 | 68 | 64 | 132 | 40 | 92 |
| BB | 山藤修輔 | 53 | 56 | 109 | 16 | 93 |
| BM | 横井卓哉 | 53 | 63 | 116 | 18 | 98 |

DC 横井、小島、浦勇、安田

NP 浦勇、吉田、山田、小島、大草、高橋、森沢



楯 憲一郎 先生 吉田 研二郎 先生 森澤 康二 先生



第29回 市整会ゴルフコンペ 2021年12月12日



數 普人 先生 大 戎 直人 先生 小 竹 志郎 先生 金 井 秀彰 先生

■ 第 26 回スケルトンゴルフコンペ順位 (敬称略)

2019.6.16 参加者 30 名

| 順位 | 参加者 | 東 | 南 | GROSS | HDCP | NET |
|------|-------|----|----|-------|------|-----|
| 優勝 | 豊田宏光 | 50 | 47 | 97 | 36 | 61 |
| 2 位 | 長濱信一 | 41 | 41 | 82 | 18 | 64 |
| 3 位 | 中村博亮 | 47 | 49 | 96 | 31 | 65 |
| 4 位 | 吉田研二郎 | 53 | 40 | 93 | 26 | 67 |
| 5 位 | 堀悠介 | 55 | 59 | 114 | 46 | 68 |
| 6 位 | 小竹志郎 | 38 | 41 | 79 | 10 | 69 |
| 7 位 | 金井秀彰 | 39 | 48 | 87 | 18 | 69 |
| 8 位 | 寺井秀富 | 55 | 52 | 107 | 37 | 70 |
| 9 位 | 山崎真哉 | 44 | 42 | 86 | 14 | 72 |
| 10 位 | 豊川英樹 | 41 | 35 | 76 | 3 | 73 |
| 11 位 | 伊藤智康 | 44 | 47 | 91 | 18 | 73 |

| 順位 | 参加者 | 東 | 南 | GROSS | HDPCP | NET |
|-------|-------|----|----|-------|-------|------|
| 1 2 位 | 大戎直人 | 51 | 62 | 113 | 39 | 74 |
| 1 3 位 | 小島孝仁 | 42 | 42 | 84 | 9 | 75 |
| 1 4 位 | 秋野一男 | 48 | 51 | 99 | 24 | 75 |
| 1 5 位 | 山田賢太郎 | 48 | 54 | 102 | 27 | 75 |
| 1 6 位 | 安田浩成 | 50 | 46 | 96 | 20 | 76 |
| 1 7 位 | 原好延 | 48 | 42 | 90 | 13 | 77 |
| 1 8 位 | 高橋真治 | 47 | 46 | 93 | 16 | 77 |
| 1 9 位 | 山藤修輔 | 47 | 51 | 98 | 21 | 77 |
| 2 0 位 | 田中直史 | 48 | 51 | 99 | 22 | 77 |
| 2 1 位 | 佐々木健陽 | 57 | 52 | 109 | 31.2 | 77.8 |
| 2 2 位 | 島田比呂志 | 44 | 39 | 83 | 5 | 78 |
| 2 3 位 | 久保卓也 | 41 | 54 | 95 | 16 | 79 |
| 2 4 位 | 上野憲司 | 58 | 49 | 107 | 28 | 79 |
| 2 5 位 | 天野祐一 | 48 | 56 | 104 | 23 | 81 |
| 2 6 位 | 鈴木亨暢 | 58 | 66 | 124 | 43 | 81 |
| 2 7 位 | 浦勇武志 | 47 | 51 | 98 | 16 | 82 |
| 2 8 位 | 鳴嶋真人 | 55 | 60 | 115 | 32 | 83 |
| BB | 玉井孝司 | 66 | 55 | 121 | 35 | 86 |
| BM | 増田博 | 66 | 65 | 131 | 29 | 102 |
| 3 1 位 | 天野祐一 | 49 | 56 | 105 | 20 | 85 |
| 3 2 位 | 秋野一男 | 52 | 55 | 107 | 22 | 85 |
| 3 3 位 | 元田忠伸 | 65 | 63 | 128 | 43 | 85 |
| 3 4 位 | 鳴嶋真人 | 55 | 60 | 115 | 28 | 87 |
| 3 5 位 | 堀 悠介 | 66 | 67 | 133 | 43 | 90 |
| 3 6 位 | 増田 博 | 55 | 61 | 116 | 24 | 92 |
| 3 7 位 | 鈴木亨暢 | 68 | 64 | 132 | 40 | 92 |
| B B | 山藤修輔 | 53 | 56 | 109 | 16 | 93 |
| B M | 横井卓哉 | 53 | 63 | 116 | 18 | 98 |

まだ新型コロナウイルスのかけらも無く、年号が平成から令和に変わった直後で、世の中は長い間の低迷から徐々に景気回復に向かう予感の時でした。大学病院からも中村博亮教授をはじめ多数の参加をいただいて、和やかに交流をしました。

2020年のスケルトンゴルフコンペは新型コロナウイルス感染症のため自粛中止となりました。医療関係者、とりわけ大学病院からクラスターを出すわけにはいかず。以後自粛自粛になってゆきました。

第27回スケルトンゴルフコンペ順位 (敬称略) 天野山 CC 2022.6.26 参加者 22 名

| 順位 | 参加者 | 北 | 南 | GROSS | HDCP | NET |
|------|-------|----|----|-------|------|------|
| 優勝 | 西澤徹 | 48 | 41 | 89 | 16.8 | 72.2 |
| 2位 | 田中直史 | 44 | 49 | 93 | 20.4 | 72.6 |
| 3位 | 小島孝仁 | 36 | 37 | 73 | 0 | 73 |
| 4位 | 久保卓也 | 46 | 44 | 90 | 16.8 | 73.2 |
| 5位 | 伊藤智康 | 50 | 46 | 96 | 22.8 | 73.2 |
| 6位 | 金井秀彰 | 49 | 53 | 102 | 27.6 | 74.4 |
| 7位 | 小竹志郎 | 40 | 43 | 83 | 8.4 | 74.6 |
| 8位 | 林崎 広 | 42 | 47 | 89 | 14.4 | 74.6 |
| 9位 | 寺井秀富 | 44 | 42 | 86 | 26.4 | 77.6 |
| 9位 | 高橋真治 | 54 | 50 | 104 | 26.4 | 77.6 |
| 1 1位 | 吉田研二郎 | 57 | 51 | 108 | 30 | 78 |
| 1 2位 | 島田比呂志 | 38 | 44 | 82 | 3.6 | 78.6 |
| 1 3位 | 馬野隆信 | 50 | 47 | 97 | 18 | 79 |
| 1 4位 | 西野耆哉 | 57 | 52 | 109 | 30 | 79 |
| 1 5位 | 山藤修輔 | 52 | 50 | 102 | 22.8 | 79.2 |
| 1 6位 | 大戎直人 | 49 | 48 | 97 | 15.6 | 81.4 |
| 1 7位 | 佐々木健陽 | 60 | 60 | 120 | 38.5 | 81.6 |
| 1 8位 | 天野祐一 | 58 | 53 | 111 | 28.8 | 82.2 |
| 1 9位 | 袴 史明 | 48 | 53 | 101 | 16.8 | 84.2 |
| 2 0位 | 藪 普人 | 65 | 66 | 131 | 45 | 86 |
| 2 1位 | 調子和則 | 61 | 52 | 113 | 26.4 | 86 |
| 2 2位 | 澤田 雄大 | 64 | 69 | 134 | 45 | 89 |

新型コロナウイルス感染症蔓延のため前年は自粛中止となりましたが、2022年はアウトドアでもあり、コンペ後の会食を無しにして決行いたしました。

今回は『市大同門会のプロ』と呼ばれる小島孝仁先生が初参加。対抗するは『天野山CCのシニアチャンピオン』島田比呂志先生と『天使の翼理論』の田中直史先生。小島先生のティーショットを見てましたが軽しく振ってるようにも凄く飛んでいる。。。戦略的にティーショットの置き場所が計算し尽くされている、というゴルフでしょうか。勤務医会からも『凄腕』林崎広先生、『300ヤードドライブ』の高橋真治先生等々腕自慢の先生が続々と参加してくださいました。2年前に持ちハンディキャップ制を導入しましたが、間が空いたのと、担当者の負担軽減で今回は普通に新ペリア方式に戻しました。

結果はかくのごとくグロスでは73の小島孝仁先生がぶっちぎりで、82の島田先生、83の小竹先生と続きます。同組で回った小島先生と島田先生、前半北コースでは36対38と白熱したラウンドでしたが後半に差がでたようです。また、寺井准教授が42-44の85と長足の進歩を遂げているようでした。優勝は西澤 徹会長。ホームコースで揉まれているせいか安定したスコアでした。

第 26 回市整会ゴルフコンペ順位 (敬称略) 2017 年 12 月泉ヶ丘 CC 参加者 20 名

| 順位 | 参加者 | 葛城 | 岩湧 | GROSS | HDCP | NET |
|-----|------|----|----|-------|------|------|
| 優勝 | 小竹志郎 | 41 | 44 | 85 | 14 | 71 |
| 2 位 | 増田博 | 51 | 53 | 104 | 30 | 74 |
| 3 位 | 浦勇武志 | 49 | 42 | 91 | 16.8 | 74.2 |
| 4 位 | 田中直史 | 47 | 46 | 93 | 18 | 75 |
| 5 位 | 上野憲司 | 50 | 49 | 99 | 24 | 75.0 |

第 27 回市整会ゴルフコンペ泉ヶ丘 CC 2018.12.2 参加者 22 名

| 順位 | 参加者 | 葛城 | 岩湧 | GROSS | HDCP | NET |
|------|-------|----|----|-------|------|------|
| 優勝 | 豊川英樹 | 40 | 37 | 77 | 8.4 | 68.6 |
| 2 位 | 島田比呂志 | 36 | 43 | 79 | 10 | 69 |
| 3 位 | 金井秀明 | 45 | 47 | 92 | 23 | 69 |
| 4 位 | 小竹志郎 | 39 | 42 | 81 | 11 | 70 |
| 5 位 | 安田浩成 | 47 | 44 | 91 | 19 | 72 |
| 6 位 | 上野憲司 | 51 | 48 | 99 | 27 | 72 |
| 7 位 | 岩城啓好 | 47 | 41 | 88 | 15.6 | 72.4 |
| 8 位 | 長濱 信一 | 47 | 43 | 90 | 17 | 73 |
| 9 位 | 西口豊憲 | 53 | 54 | 107 | 32 | 75 |
| 10 位 | 喜馬秀樹 | 51 | 43 | 94 | 16 | 78 |
| 11 位 | 林正樹 | 49 | 49 | 98 | 20 | 78 |
| 12 位 | 天野祐一 | 53 | 48 | 101 | 22 | 79 |
| 13 位 | 馬野隆信 | 53 | 49 | 102 | 23 | 79 |
| 14 位 | 楯憲一郎 | 49 | 54 | 103 | 24 | 79 |
| 15 位 | 古瀬洋一 | 58 | 51 | 109 | 30 | 79 |
| 16 位 | 増田博 | 53 | 54 | 107 | 27 | 80 |
| 17 位 | 田中直史 | 52 | 49 | 101 | 20 | 81 |
| 18 位 | 山藤修輔 | 55 | 46 | 101 | 19 | 82 |
| 19 位 | 吉田研二郎 | 52 | 54 | 106 | 24 | 82 |
| 20 位 | 辰巳一郎 | 60 | 51 | 111 | 26 | 85 |
| BB | 鳴嶋真人 | 60 | 59 | 119 | 30 | 89 |
| BM | 原好延 | 52 | 50 | 102 | 10 | 92 |

第 28 回市整会ゴルフコンペ順位 (敬称略) 2019 年 12 月 2 日泉ヶ丘 CC

| 順位 | 参加者 | 葛城 | 岩湧 | GROSS | HDCP | NET |
|------|-------|----|----|-------|------|-----|
| 優勝 | 森川献志漢 | 62 | 53 | 115 | 44 | 71 |
| 2 位 | 岩城啓好 | 41 | 50 | 91 | 16 | 75 |
| 3 位 | 秋野一男 | 52 | 49 | 101 | 25 | 76 |
| 4 位 | 喜馬秀樹 | 46 | 48 | 94 | 17 | 77 |
| 5 位 | 浦勇武志 | 50 | 45 | 95 | 18 | 77 |
| 6 位 | 島田比呂志 | 43 | 42 | 85 | 6 | 79 |
| 7 位 | 原好延 | 44 | 49 | 93 | 14 | 79 |
| 8 位 | 天野祐一 | 54 | 50 | 104 | 25 | 79 |
| 9 位 | 金井 秀彰 | 50 | 46 | 96 | 16 | 80 |
| 10 位 | 林正樹 | 53 | 48 | 101 | 21 | 80 |
| 11 位 | 楯憲一郎 | 56 | 49 | 105 | 25 | 80 |
| 12 位 | 増田博 | 59 | 54 | 113 | 32 | 81 |
| 13 位 | 小竹志郎 | 45 | 46 | 91 | 8 | 83 |
| 14 位 | 森沢康二 | 47 | 45 | 92 | 9 | 83 |
| 15 位 | 鳴嶋真人 | 65 | 55 | 120 | 34 | 86 |
| 16 位 | 吉田研二郎 | 56 | 53 | 109 | 22 | 87 |
| 17 位 | 古瀬洋一 | 61 | 57 | 118 | 31 | 87 |
| 18 位 | 辰巳一郎 | 70 | 56 | 126 | 28 | 98 |

2020 年の市整会ゴルフコンペは新型コロナウイルス感染症蔓延のため開催を自粛しました。企画の時点ではコロナウイルスが猛威を振るっており、特に医療関係者がクラスターをおこした場合にマスコミに叩かれる事例を目の当たりにしており、仕方が無かったとかがえます。

第 29 回 市整会ゴルフコンペ順位 (敬称略) 2021.12.12 参加者 17 名

| 順位 | 参加者 | 東 | 南 | GROSS | HDCP | NET |
|-----|-------|----|----|-------|------|------|
| 優勝 | 小竹 志郎 | 45 | 46 | 91 | 19.2 | 71.8 |
| 2 位 | 島田比呂志 | 43 | 42 | 85 | 12 | 73 |
| 3 位 | 秋野一男 | 50 | 51 | 101 | 26.4 | 74.6 |
| 4 位 | 豊川英樹 | 44 | 39 | 83 | 8.4 | 74.6 |
| 5 位 | 森沢康二 | 43 | 44 | 87 | 12 | 75 |
| 6 位 | 楯憲一郎 | 46 | 52 | 98 | 22.8 | 75.2 |
| 7 位 | 田中直史 | 50 | 48 | 98 | 22.8 | 75.2 |

| 順位 | 参加者 | 東 | 南 | GROSS | HDCP | NET |
|-----|-------|----|----|-------|------|------|
| 8位 | 馬野靖子 | 56 | 54 | 110 | 33.6 | 76.4 |
| 9位 | 馬野隆信 | 51 | 49 | 100 | 22.8 | 77.2 |
| 10位 | 袴史明 | 53 | 44 | 97 | 19.2 | 77.8 |
| 11位 | 吉田研二郎 | 56 | 57 | 113 | 33.6 | 79.4 |
| 12位 | 坂本知子 | 45 | 54 | 99 | 19.2 | 79.8 |
| 13位 | 西澤徹 | 48 | 51 | 99 | 18 | 81 |
| 14位 | 金井秀彰 | 66 | 57 | 123 | 40 | 83 |
| 15位 | 天野祐一 | 57 | 51 | 108 | 24 | 84 |
| 16位 | 阪本博史 | 62 | 58 | 120 | 34.8 | 85.2 |
| 17位 | 増田博 | 58 | 68 | 126 | 38.4 | 87.6 |

新型コロナウイルス感染症の第5波が令和3年7月から始まり、4回目の緊急事態宣言が出されましたが、9月に収束。年末の繁華街は久々の開放感で景気が回復しているようにもみえました。クリスマスには大阪もイルミネーションで飾られました。しかし、この後南アフリカで12月に発生が報告されたオミクロン株がわずか1カ月でデルタ株から置き換わったとのニュースもありましたし、ヨーロッパ諸国では12月中旬からイギリス、イタリア、フランスで新規感染者が過去最高になっていました。この12月から医療従事者の第3回目のコロナワクチン接種が始まりました。令和4年1月からの第6波の予想はありましたが現実のものとは受け止められなかったです。

このような時期でしたが市整会ゴルフコンペは敢行されました。ソーシャルディスタンスをとり接触を避けて。絶好の晴天の元、30年間にわたってコンペのお世話をさせていただいた楯憲一郎先生の始球式で始まりました。先生は今回でコンペの世話役を卒業されました。永年泉ヶ丘CCの難しい日曜日のコンペ枠を確保していただきました。ありがとうございました。

また、ゴルフコンペの担当理事として協力していただいていた上野憲司先生が体調を崩され逝去されたことは残念でなりません。一緒にゴルフ担当をいただいている長浜 信一先生も50周年記念式典の功労者スピーチで触れておられました。本来彼も表彰されるべき功労者でありました。謹んでお悔やみを申し上げます。

さて、個人的な話です。研修医時代から始めたゴルフですが、ずーっと下手なままで終わっちゃうのかな、、、と思いつつも通っているフィットネスクラブではゴルフレンジで汗を流しておりました。3m先に打つゴルフレンジで、コーチも居てますがどうも球筋が分からない。この夏に同門のO田先生から紹介してもらい元プロゴルファー(女子プロ賞金女王)に教えてもらうことになり、フォームを徹底的に見直し、道具も換え、意識も変えるようになりました。毎回飛距離計で飛距離、玉の初速、ミート率まで計測します。タブレットで撮影しスイングチェックとダメ出し。するとあれほど自信の無かったスイングが何となくサマになってきて、キラキラと輝きはじめ、ゴルフの女神様に手招きをされているように上達を実感しております(かなりオーバーですが)。

何事も練習、稽古、訓練。待ってる市整会ゴルフコンペ。待ってるT川先生、S田先生、T中先生。

ところで最新情報によるとゴルフシミュレーションルームを自宅に作ってしまう先生がボツボツ居てるようです。自宅にあのインドアゴルフ練習場を作っちゃう？オヤジたちのゴルフ熱はさらにヒートアップしてゆきそうです。ご夫婦や家族でゴルフを優雅に楽しむためにはある程度のスキルが必要ですね。

ということでこの項をおわります。長文失礼いたしました。



市整会家族会写真（2013年から2019年）

● 2013年



● 2014年



● 2015年



● 2016年



● 2018年



● 2019年



整形ソング

僕は整形のハンサムで
生まれ育ちはボンボンよ
箸しか持たない優男
今じゃ大工に左官です
あゝ 整形

整形のハンサムボーイ

朝の八時のトップのオペは
全麻コロナ大低気圧
足持ち 鉤引き ツツペンで
ドナラレ タタカレ イビラレナガラ
泣く 泣く 医局員
ギブス巻きつゝ 泣きじゃくる

僕は整形のハンサムで
いつもニコニコほからかよ
共に手を取り腕くんで
明日の整形もりたてる
あゝ 整形

整形のハンサムボーイ



整形

A

E C#m F#m B7 E C#m F#m B7

E E/G# A F# B7 E

5 E C#m G#m E A B7 E

9

B Em B7 B7 Em Am

B7 Em B7 Em Am

16 B7 Em B7 Em

20

A' E C#m F#m B7 E C#m F#m B7

E E/G# A F# B7 E

27 E C#m G#m E A B7 E

31 E C#m G#m E A B7 E

35



宮脇 裕二 先生



天野 祐一 先生



鳴嶋 真人 先生



増田 博 先生



宮内 晃 先生



馬野 隆信 先生



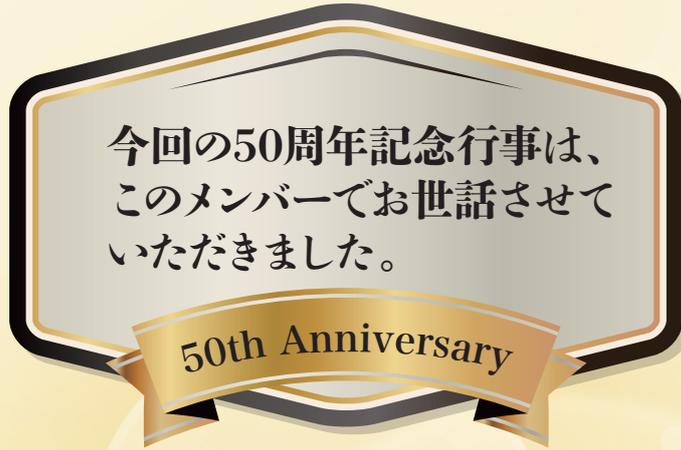
伊藤 智康 先生



小竹 志郎 先生



竹中 稔幸 先生



大川 得太郎 先生



西澤 徹 会長



50周年記念行事実行委員長
森川 献志漢 先生



木下 裕介 先生



秋野 一男 先生



水沢 慶一 先生



久保 卓也 先生



森田 光明 先生



斧出 安弘 先生

編集後記

これまでの50年と、これからを紡いでいくには、祝賀会だけでは収まり切れませんでしたが、コロナ禍でありましたが式典が開催できたことは、市整会ならではの繋がりで、この先のきっかけにはなったかと思われます。

皆様とお話が出来たことに感謝いたします。この記念誌も忘れた頃に時々開いて頂きこれまでの事、今回の祝賀会の事を思い出す一助になればと思ひます。

市整会五十周年記念誌

2023年10月初版 第1刷発行

発行責任者：

市整会会長 西澤 徹

五十周年記念行事 実行委員会：

西澤 徹 増田 博 馬野 隆信 竹中 稔幸 鳴嶋 真人 宮脇 裕二

秋野 一男 斧出 安弘 天野 祐一 宮内 晃 大川 得太郎 伊藤 智康

森田 光明 木下 裕介 森川 献志漢 水沢 慶一 小竹 志郎 久保 卓也

